

平成 27 年度
裾野市市民意識調査報告書

平成 27 年 11 月

裾野市

目 次

I.	市民意識調査	1
1.	調査概要	2
(1)	調査の目的	2
(2)	調査の方法	2
(3)	報告書を読む際の留意事項	2
(4)	回答者属性別クロス集計について	3
2.	結果概要	4
(1)	市政に対する市民の評価	4
(2)	市民の健康増進に向けて	5
(3)	住宅用火災警報器の設置促進に向けて	5
(4)	スマートフォン(スマホ)による新サービスの可能性	6
(5)	定住促進と「家族の希望モデル(父、母、子ども3人)」の実現に向けて	6
(6)	子育て環境の充実にに向けて	6
3.	調査結果	8
(1)	ご本人(あなた)について(回答者属性)	8
(2)	裾野市の市政について	12
(3)	裾野市の取り組みについて	26
(4)	スポーツ活動について	30
(5)	健康管理について	39
(6)	住宅用火災警報器の設置について	42
(7)	スマートフォンを活用した新しいサービスについて	48
(8)	裾野市での暮らしについて	51
(9)	家族の希望モデルを実現するために	57
(10)	子育て環境について	60
II.	転入・転居された方の意識調査	71
1.	調査概要	72
(1)	調査の目的	72
(2)	調査の方法	72
(3)	報告書を読む際の留意事項	72

2.	結果概要	73
(1)	裾野市が選ばれる理由	73
(2)	定住促進に向けて	74
(3)	「家族の希望モデル(父、母、子ども3人)」の実現に向けて	74
3.	調査結果	75
(1)	調査結果ご本人(あなた)について(回答者属性)	75
(2)	現在の住所地に移動することについて	78
(3)	裾野市の暮らしについて	83
III.	転出された方の状況調査	89
1.	調査概要	90
(1)	調査の目的	90
(2)	調査の方法	90
(3)	報告書を読む際の留意事項	90
2.	調査結果	91
3.	調査結果(クロス集計)	95
IV.	参考資料	109

I. 市民意識調査

1. 調査概要

(1) 調査の目的

この調査は、裾野市の将来都市像である「みんなの元気と調和でつくる暮らし満足都市」の実現に向けた各種の施策を進めるとともに、市独自の地方創生を進める「裾野市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定するにあたり基礎資料とするために実施したものである。

(2) 調査の方法

対象者	市内にお住まいの 20 歳以上の方 3,000 名（無作為抽出）	
データ数	有効回答数	有効回答率
	1,245 票※	41.5%
実施方法	郵送配付・回収	
調査期間	平成 27 年 7 月 18 日～7 月 31 日	

※ 白票 1 票を除く

(3) 報告書を読む際の留意事項

- 調査結果の図表は、原則として回答者の構成比（百分率）で示している。
- 図表の（n=●）は、設問の回答者総数（構成比算出の母数）を表わす。
- 図表中の構成比（百分率）は、回答者総数（限定設問では該当者総数）を 100%として算出している。構成比は小数第 2 位で四捨五入しているため、構成比合計が 100%にならない場合がある。
- 設問には単数回答（回答は 1 つ。シングルアンサー）と複数回答（回答は複数。マルチアンサー）がある。複数回答の設問では構成比合計が 100%を超える場合がある。
- 図表中の構成比「0.0」は、四捨五入の結果（0.05 未満）もしくは回答者が皆無であることを示している。
- 選択肢の語句が長い場合、本文中では省略した表現を用いる場合がある。
- クロス集計表の場合、縦軸の「無回答」は表示していないため、合計と合致しない場合がある。
- クロス集計で母数が極端に少数の構成比（百分率）は統計的誤差が大きい可能性があり、構成比（百分率）の取扱いには注意が必要である。

(4) 回答者属性別クロス集計について

- 設問の内容に応じ、特徴的な傾向がみられる場合は属性別クロス集計結果を掲載している。
- 回答者属性を「ライフステージ」（下表）に区分し、ライフステージ別の集計結果が全体結果と異なる傾向がみられる場合はクロス集計結果を掲載している。（クロス集計結果が全体結果と同様の傾向の場合は図表省略）

ライフステージ	属性（年齢／婚姻／子どもの年齢）
①独身期	40 歳未満の独身者（未婚か離死別／子どもなし）
②家族形成期	40 歳未満で子どものいない夫婦 第一子が小学校入学前の親
③家族成長前期	第一子が小・中学生の親
④家族成長後期	第一子が高校・大学生の親
⑤家族成熟期	第一子が学校教育を終了し、かつ第二子以降が学校教育を終了していない親 子どもが全員学校教育を終了している親（65 歳未満）
⑥高齢期	子どもが全員学校教育を終了している親（65 歳以上）
その他	上記①～⑥以外

2. 結果概要

(1) 市政に対する市民の評価

ア 全体的な評価

- 裾野市の施策全体に対する市民の評価は、満足度 27.5%（満足＋まあまあ満足）、不満度 32.3%（不満＋やや不満）であり、ほぼ拮抗している。
- 経年比較で大きな変化はみられないものの、子どもが中学生までの家庭においては満足派（満足＋まあまあ満足）が不満派（不満＋やや不満）をやや上回ることから、子育て家庭には市政が概ね評価されていると考えられる。
- なお、地区別では須山地区で「やや不満である」が多く、地区の状況に応じてさらにきめ細かな取り組みを展開する必要性もうかがえる。

イ サービス満足度、期待するサービス

- 市の実施するサービス 43 項目について、最も満足しているサービスと最も充実すべきサービスを下表にまとめた。

順位	満足しているサービスの上位 10 項目		順位	充実すべきサービスの上位 10 項目	
1	ごみの分別収集、ごみの減量化やリサイクル	51.6%	1	バス路線や便数	54.6%
2	良質な水の安定供給	45.1%	2	駅周辺の整備	53.9%
3	市民の健康づくりへの支援	33.4%	3	鉄道の列車本数、駅舎の使いやすさ	52.7%
4	病院、かかりつけ医による医療	33.3%	4	日用品、食料品など生活関連サービスの利便性、商店街の活気	52.1%
5	広報紙・無線放送・インターネットなどでの市政情報の発信	32.7%	5	災害時の避難支援対策	47.4%
6	農業産品のおいしさ、安全性	29.1%	6	幹線道路や生活道路の整備	45.0%
7	救急や休日の医療	28.8%	7	市街地の整備	43.5%
8	生涯学習センター・公民館を拠点とする生涯学習活動	25.4%	8	企業誘致	42.5%
9	火災に対する予防や消防体制	25.2%	9	観光に関する情報、イベント、拠点整備	42.4%
10	地域のコミュニティ活動	23.3%	10	働く機会の確保	40.6%

- サービスの中でも「ごみの分別収集、ごみの減量化やリサイクル」と「良質な水の安定供給」の満足度が 50%前後と高く、環境保全の満足度が高いといえる。
- 最も充実すべきサービスはいずれも満足度が低いことから、今後は充実すべきサービスが各分野の優先課題と考えられる。中でも、「バス路線や便数」と「日用品、食料品など生活関

連サービスの利便性、商店街の活気」への期待が特に大きいことを踏まえた施策推進が必要である。

(2) 市民の健康増進に向けて

- 健康（大いに健康＋まあまあ健康）の割合は 72.6%、体力に不安のない割合（自信ある＋普通）は 58.2%であり、両項目は経年比較でも大きな変化はみられない。
- 最近の運動習慣では、比較的よく運動している割合（週に 4 回以上）は 19.5%、定期的に運動している割合（週に 1 回以上）は 48.8%に上る。
- 経年比較でみると平成 27 年度は「ほぼ毎日（週に 6～7 回）」から「週に 2～3 回」までの割合が増えている。中でも 20 歳～24 歳及び 60 歳以上は「週に 2～3 回」以上の割合が 50%を超えており、よく運動していることがわかる。
- 毎年、健康診査を受診している割合は 74.6%、ふだんの生活で健康診査結果を意識している割合は 76.0%（いつも意識＋少し意識）に上る。
- 上記の結果から、運動や健康に関する市民の意識の高さがうかがえる。その一方、20 歳代後半から 40 歳代前半にかけて運動不足になる傾向にあり、また、35 歳以上から健康診査の結果について医師等から説明やアドバイスを受けたことがある割合が多くなる。
- 市民のこうした実態を踏まえ、今後、市民が運動やスポーツを習慣化するための支援として、「仕事などで忙しく時間がない」という人に仕事や家庭でも簡単にできるストレッチ体操などの普及啓発、「場所や施設が近くにない」という人にはスマートフォンなども活用した積極的な情報の提供、「お金がかかる」「施設や教室の利用時間が合わない」「はじめるきっかけがない」という人にはすその健康マイレージ※の普及による動機づけなどの検討が考えられる。
- 年に 1 回以上運動する市民が市内の公共スポーツ施設や小中高等学校の体育館・グラウンドを利用することは 5～11%程度に留まる。また、「スポーツ施設は利用していない」が増えていることから、市内の公共スポーツ施設の利用状況や運動志向なども踏まえ、市内の公共スポーツ施設及び設備の機能を検討することも必要である。

(3) 住宅用火災警報器の設置促進に向けて

- 住宅用火災警報器を設置していない割合が 27.8%に上る。中でも一戸建て持ち家（家族名義を含む）、一戸建て借家で「設置していない」がやや多くみられる。
- 今後、住宅用火災警報器の設置を促進する方策として、市の広報や地域を協力した設置義務化の周知を図るほか、「設置費用負担が大きい」や「自分で設置することは難しい」という世帯に対し、地域での共同購入の促進や自主防災組織による設置支援などの検討が考えられる。

※「すその健康マイレージ」とは、平成 25 年度から始まった事業で、日々の運動や食事などの生活改善や、健康診断の受診、健康講座や運動教室、ボランティアなどの社会参加などによりマイルというポイントを貯め、15 マイル貯まると特典を受けられる事業。

その特典とは、市内施設割引券や静岡県で発行する「ふじのくに健康いきいきカード」を進呈し、サービスを利用できるもの。

(4) スマートフォン（スマホ）による新サービスの可能性

- スマートフォンの普及は4割程度、スマホの種類は「アンドロイド」と「アイフォーン」がともに4割程度である。
- 利用するサービスは、通話のほか、「ホームページ閲覧」「メール」「生活情報を提供するアプリ」をよく利用している。
- 1対1かつ双方向の情報交換が可能で手軽なスマートフォンを活用する公共サービスの可能性は、スマートフォンの普及に伴いますます広がると考えられる。なお、新サービスの開発にあたっては、開発から普及まで市民や民間企業と一緒にアイデアを検討するなど、市民と連携して進めることが肝要である。

(5) 定住促進と「家族の希望モデル（父、母、子ども3人）」の実現に向けて

- 裾野市で暮らす理由は「出身地、親がいる」が最も大きい。また、「自然や環境が良い」「仕事がある」「職場に近い」という理由も多い。
- 裾野市での居住意向は78.1%（ずっと住みつづけたい＋どちらかといえば住みつづけたい）と高い。中でも子どもを持つ家庭では「どちらかといえば住みつづけたい」が最も多く、子どもが巣立った後の高齢期、その他では「ずっと住みつづけたい」が最も多い。一方、仕事のための裾野市で暮らすケースの多い独身期では「いずれは他の地域に転出した」が最も多い。
- 転出意向は18.3%であり、「バスや鉄道などの公共交通が不便」「買い物が不便」といった生活の利便性を主な理由に挙げている。
- 市の人口増加に向けては「働く場の確保」「子どもを産み、育てやすい環境」の2つを重視している。特に小さい子どもを持つ家族形成期、家族成長前期では「子どもを産み、育てやすい環境」が最も多い。
- 「家族の希望モデル」に必要な宅地の広さは独身期、家族形成期では「70～80坪」への希望が最も多く、子どもが小学生以上の家庭では「60～70坪」とやや小さくなる。住居の広さは「4LDK」への希望が最も多い。
- 「家族の希望モデル」を実現する場合の経済的な負担感として、子どもが小さい時期は「住宅ローン」、子どもが増える、大きくなると「学費・授業料」が負担になる。
- これらの結果から、定住環境の向上には就業機会の確保、希望の子どもを産み育てやすい環境、生活の利便性向上が重要と考えられる。加えて、理想の住宅取得への一層の支援が出生率向上につながる「家族の希望モデル」の実現に必要といえる。

(6) 子育て環境の充実にに向けて

- 子どもがいない家庭もしくは中学生まで子どものいる家庭に聞いたところ、当市は子育てをする場所として相応しいという評価であり、市の子育てへの多様な取り組みも当市に居住する魅力となっていることがうかがえる。

- 近所との付き合いの程度については、地区によってやや状況が異なるものの、富岡地区、須山地区、深良地区では近所付き合いが比較的深く、広い様子もうかがえる。
- 友人・知人との職場外での付き合いは「ときどきある」38.8%、職場外での付き合いが比較的深い割合は20.1%（日常的にある＋ある程度頻繁にある）である。
- これらの結果から、当市は子育て環境として一定の評価を得ていると考えられる。今後は転入してきた子育て家庭を見守る地域づくりが重要になることから、地域でのつながりが深まるよう、保育所・幼稚園・学校を含めた地域活動を、より一層、活性化していくことが求められる。

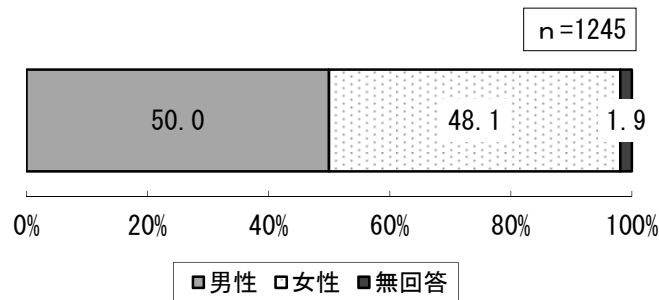
3. 調査結果

(1) ご本人（あなた）について（回答者属性）

問1 あなたご自身について項目ごとにあてはまる番号を選んでください。

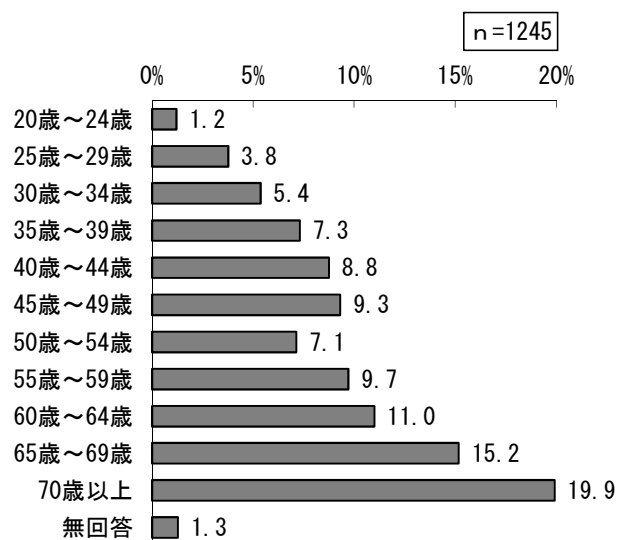
(F1) 性別（1 つに○）

○ 性別は、「男性」50.0%、「女性」48.1%。



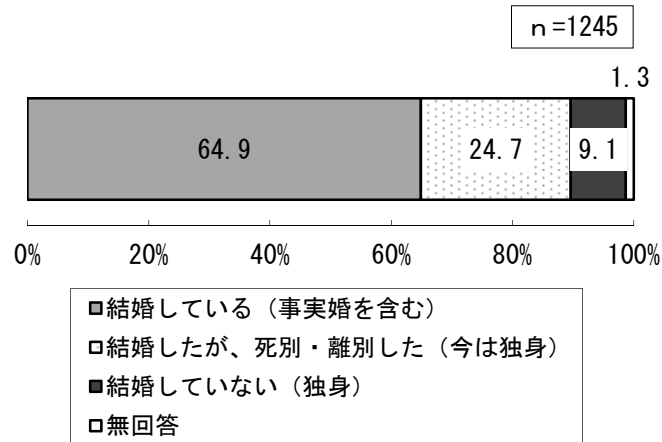
(F2) 年齢（1 つに○）

○ 年齢は、「70 歳以上」19.9%が最も多く、次いで「65 歳～69 歳」15.2%、「60 歳～64 歳」11.0%と続く。



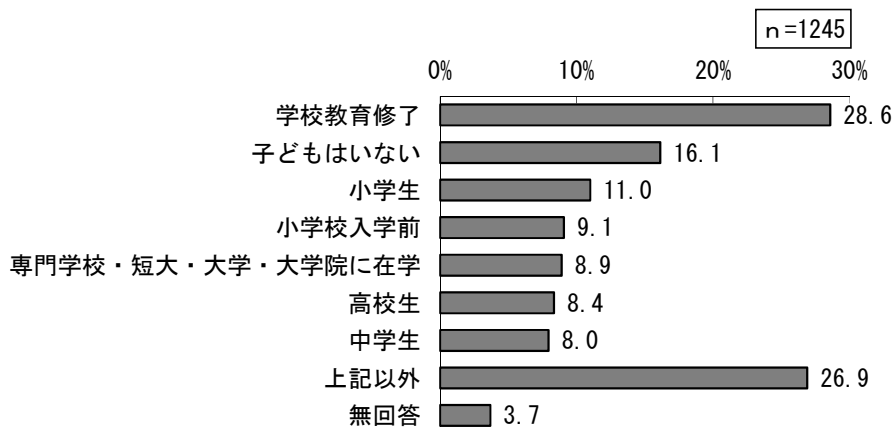
(F3) 結婚の有無 (1つに○)

- 結婚の有無は、「結婚している」64.9%、「結婚したが、死別・離別した」24.7%、「結婚していない」9.1%。



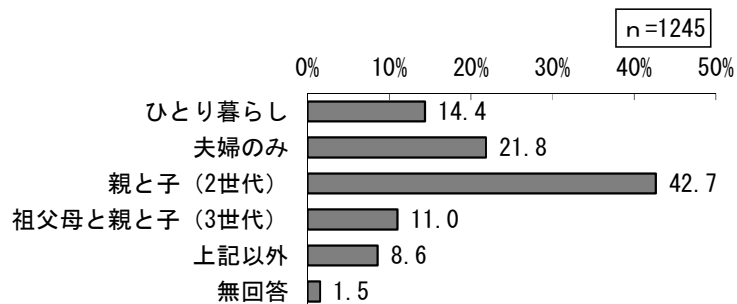
(F4) 子どもの段階 (あてはまるものすべてに○)

- 子どもの段階は、「学校教育修了」28.6%が最も多く、次いで「上記以外」26.9%、「子どもはいない」16.1%と続く。



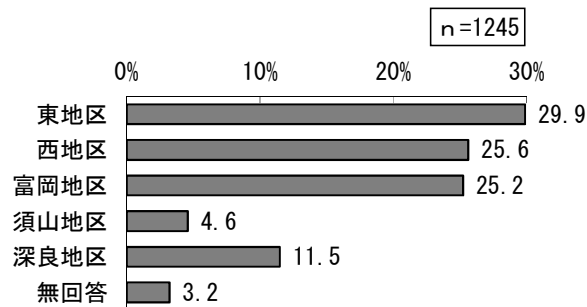
(F5) 世帯 (1つに○)

- 世帯は、「親と子 (2世代)」42.7%が最も多く、次いで「夫婦のみ」21.8%、「ひとり暮らし」14.4%と続く。



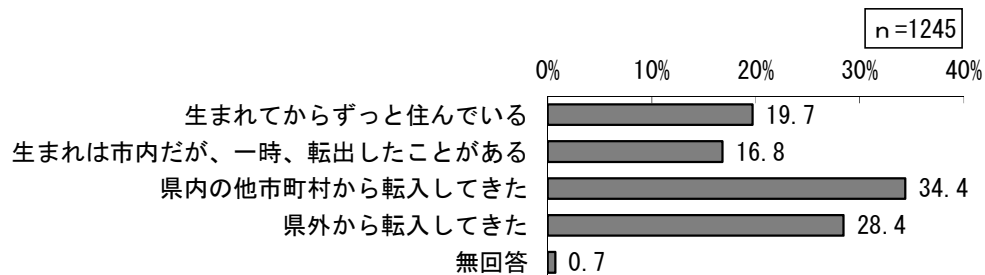
(F6) 居住地区（1つに○）

- 居住地区は、「東地区」29.9%が最も多く、次いで「西地区」25.6%、「富岡地区」25.2%と続く。



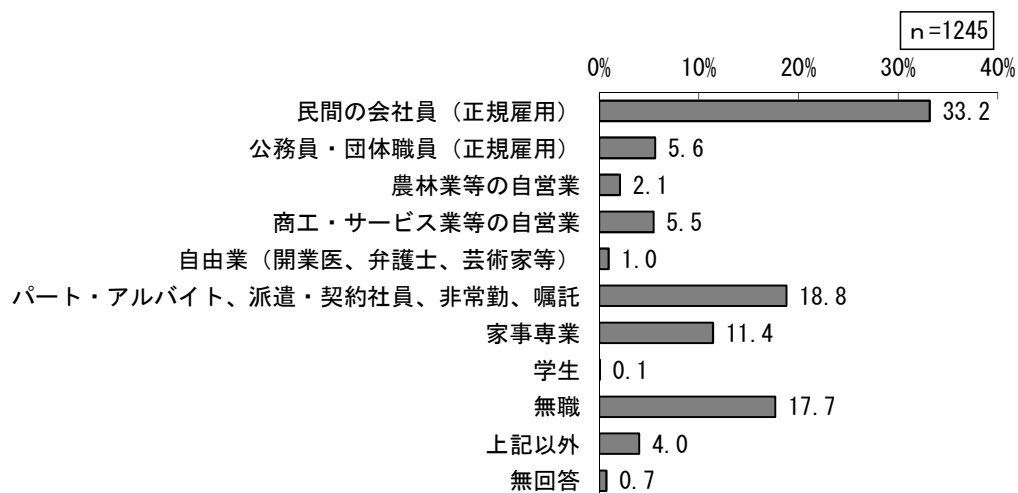
(F7) 居住歴

- 居住歴は、「県内の他市町村から転入してきた」34.4%が最も多く、次いで「県外から転入してきた」28.4%、「生まれてからずっと住んでいる」19.7%と続く。



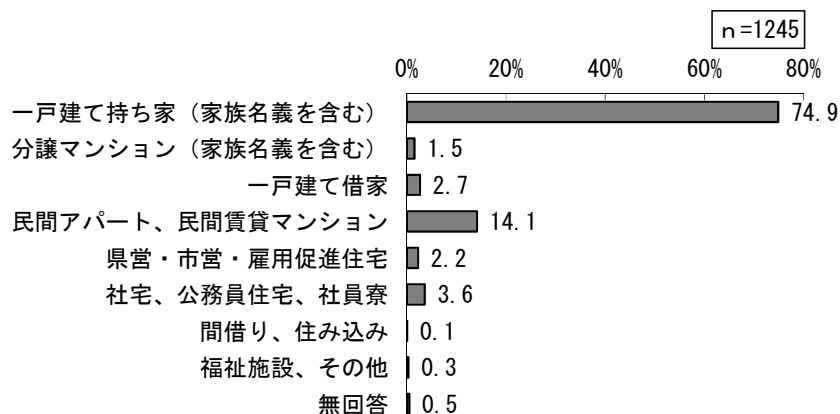
(F8) 主な職業

- 主な職業は、「民間の会社員」33.2%が最も多く、次いで「パート・アルバイト、派遣・契約社員、非常勤、嘱託」18.8%、「無職」17.7%と続く。



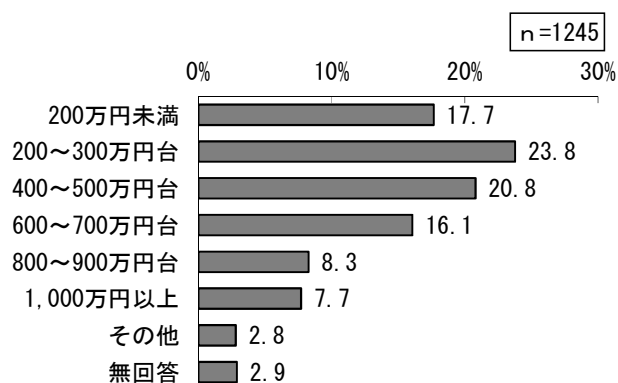
(F9) 住まいの種類

- 住まいの種類は、「一戸建て持ち家」74.9%が最も多く、次いで「民間アパート、民間賃貸マンション」14.1%、「社宅、公務員住宅、社員寮」3.6%と続く。



(F10) 昨年のおおよその世帯年収

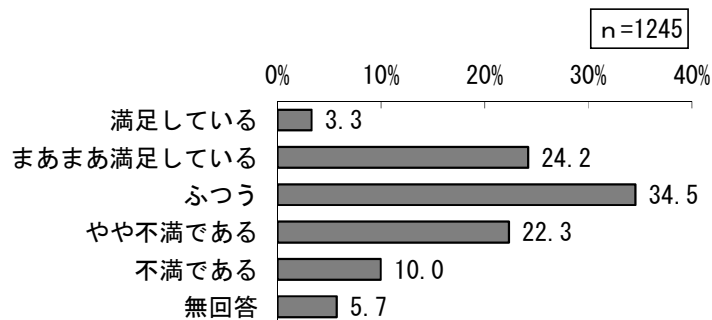
- 昨年のおおよその世帯年収は、「200～300万円台」23.8%が最も多く、次いで「400～500万円台」20.8%、「200万円未満」17.7%と続く。



(2) 裾野市の市政について

問2 裾野市の政策全体についてどの程度満足していますか。(1つに○)

- 裾野市の施策全体の満足度は、「ふつう」34.5%が最も多く、次いで「まあまあ満足している」24.2%、「やや不満である」22.3%と続く。



<回答者属性別クロス集計>

- ライフステージ別でみると全体結果と同様に概ね「ふつう」が最も多いが、家族成長前期（第一子が小・中学生）は「まあまあ満足している」が最も多く、家族成熟期（第一子が学校教育終了）は「やや不満である」が最も多い。
- 満足派（満足している＋まあまあ満足している）と不満派（不満である＋やや不満である）でみると、独身期、家族形成期、家族成長前期、高齢期では満足派が不満派をやや上回り、家族成長後期、家族成熟期、その他では不満派が満足派をやや上回る。

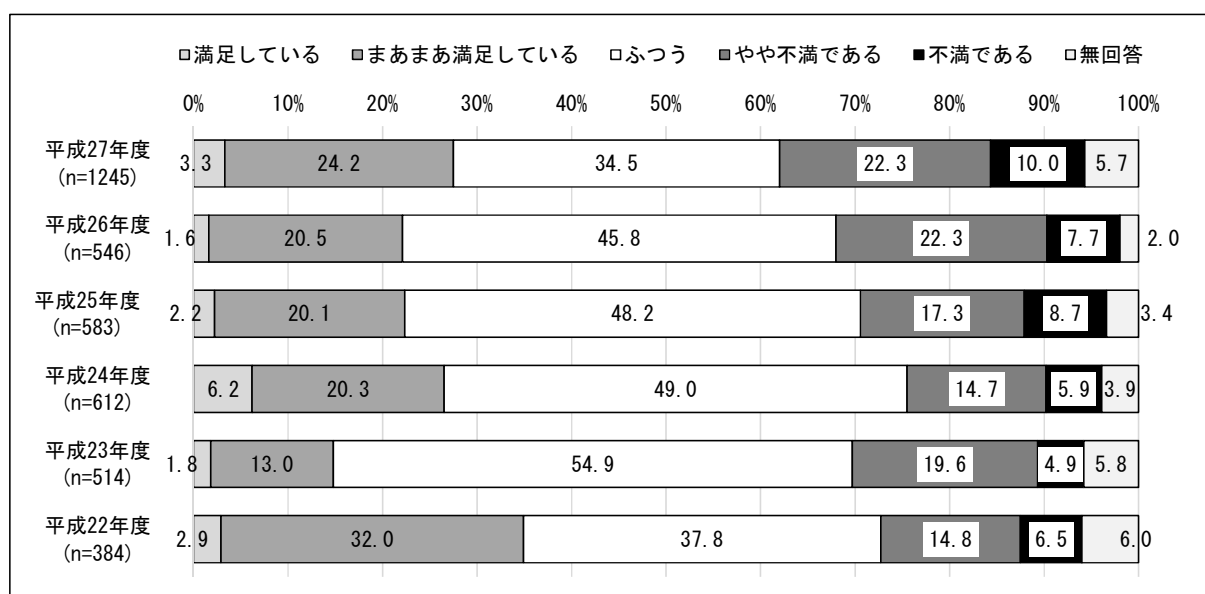
上 段：人数（人） 下 段：割合（%） 網掛け：各項目の第1位	合計	満足派			不満派		
		満足して いる	まあまあ 満足して いる	ふつう	やや不満 である	不満であ る	無回答
全体	1245	41	301	430	278	124	71
	100.0	3.3	24.2	34.5	22.3	10.0	5.7
独身期	57	6	10	28	6	5	2
	100.0	10.5	17.5	49.1	10.5	8.8	3.5
家族形成期	104	1	34	37	20	7	5
	100.0	1.0	32.7	35.6	19.2	6.7	4.8
家族成長前期	136	7	47	35	31	11	5
	100.0	5.1	34.6	25.7	22.8	8.1	3.7
家族成長後期	122	2	33	38	30	11	8
	100.0	1.6	27.0	31.1	24.6	9.0	6.6
家族成熟期	179	5	28	53	57	23	13
	100.0	2.8	15.6	29.6	31.8	12.8	7.3
高齢期	153	8	42	55	29	12	7
	100.0	5.2	27.5	35.9	19.0	7.8	4.6
その他	494	12	107	184	105	55	31
	100.0	2.4	21.7	37.2	21.3	11.1	6.3

- 地区別でみると全体結果と同様に概ね「ふつう」が最も多いが、須山地区では「やや不満である」が最も多い。

上 段：人数（人） 下 段：割合（%） 網掛け：各項目の第1位	合計	満足派		不満派			無回答
		満足している	まあまあ満足している	ふつう	やや不満である	不満である	
全体	1245	41	301	430	278	124	71
	100.0	3.3	24.2	34.5	22.3	10.0	5.7
東地区	372	14	89	122	87	36	24
	100.0	3.8	23.9	32.8	23.4	9.7	6.5
西地区	319	11	83	107	70	30	18
	100.0	3.4	26.0	33.5	21.9	9.4	5.6
富岡地区	314	5	75	120	69	28	17
	100.0	1.6	23.9	38.2	22.0	8.9	5.4
須山地区	57	3	14	13	18	8	1
	100.0	5.3	24.6	22.8	31.6	14.0	1.8
深良地区	143	5	33	54	28	17	6
	100.0	3.5	23.1	37.8	19.6	11.9	4.2

<経年比較>

- 経年比較でみると、「まあまあ満足している」が概ね 20%台、「やや不満である」が 10～20%台で推移しており、大きな変化はみられない。
- 「不満である」は 10%以下と依然少ないが、平成 23 年度から少しずつ増えている。

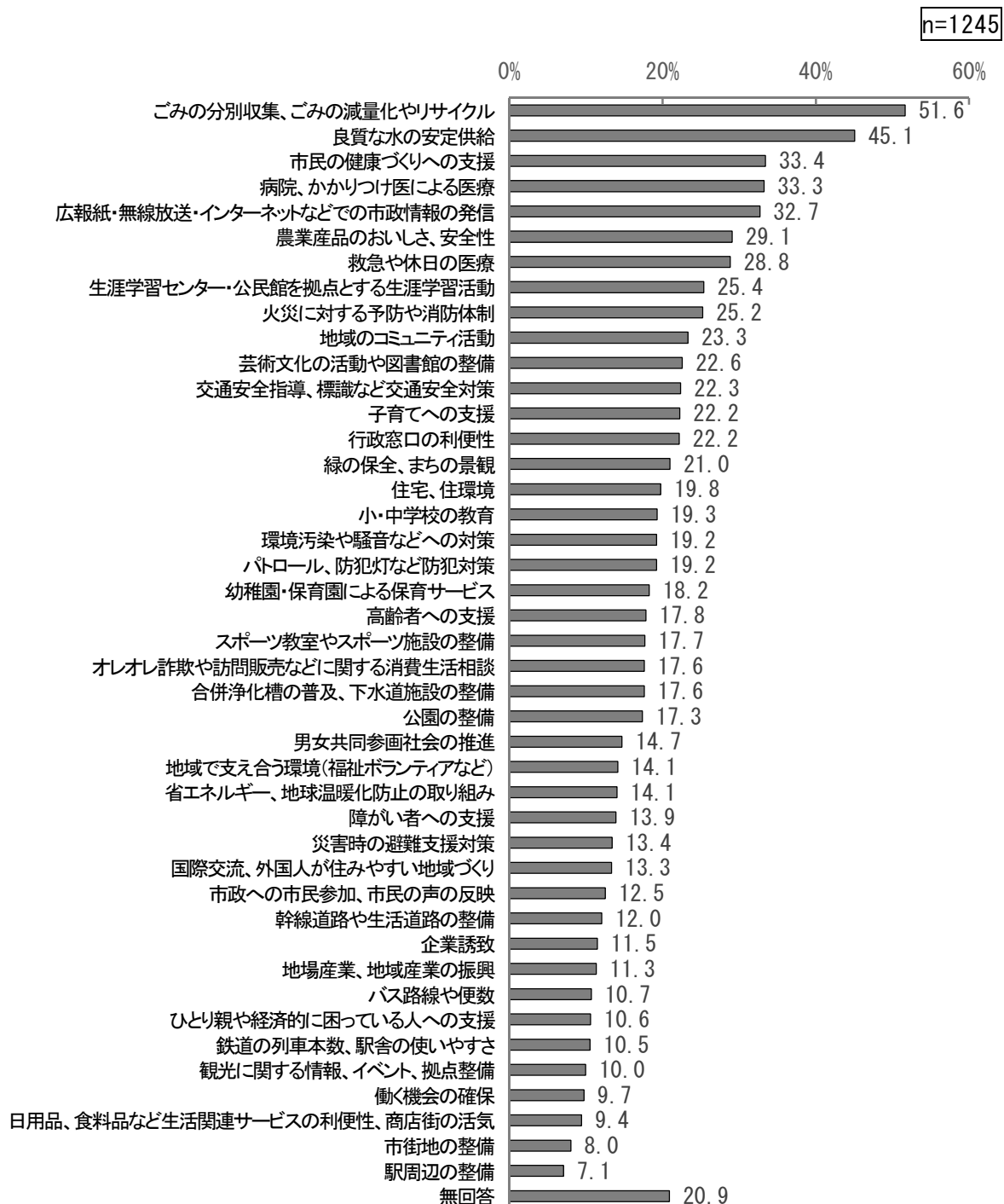


問3 市の行政について、「満足している公共サービス」あるいは「今後、充実すべきだと思う公共サービス」はそれぞれ何ですか。

各分野から「ア 満足しているサービス」「イ 充実すべきサービス」をいくつでも選んで○をつけてください。（○はいくつでも）

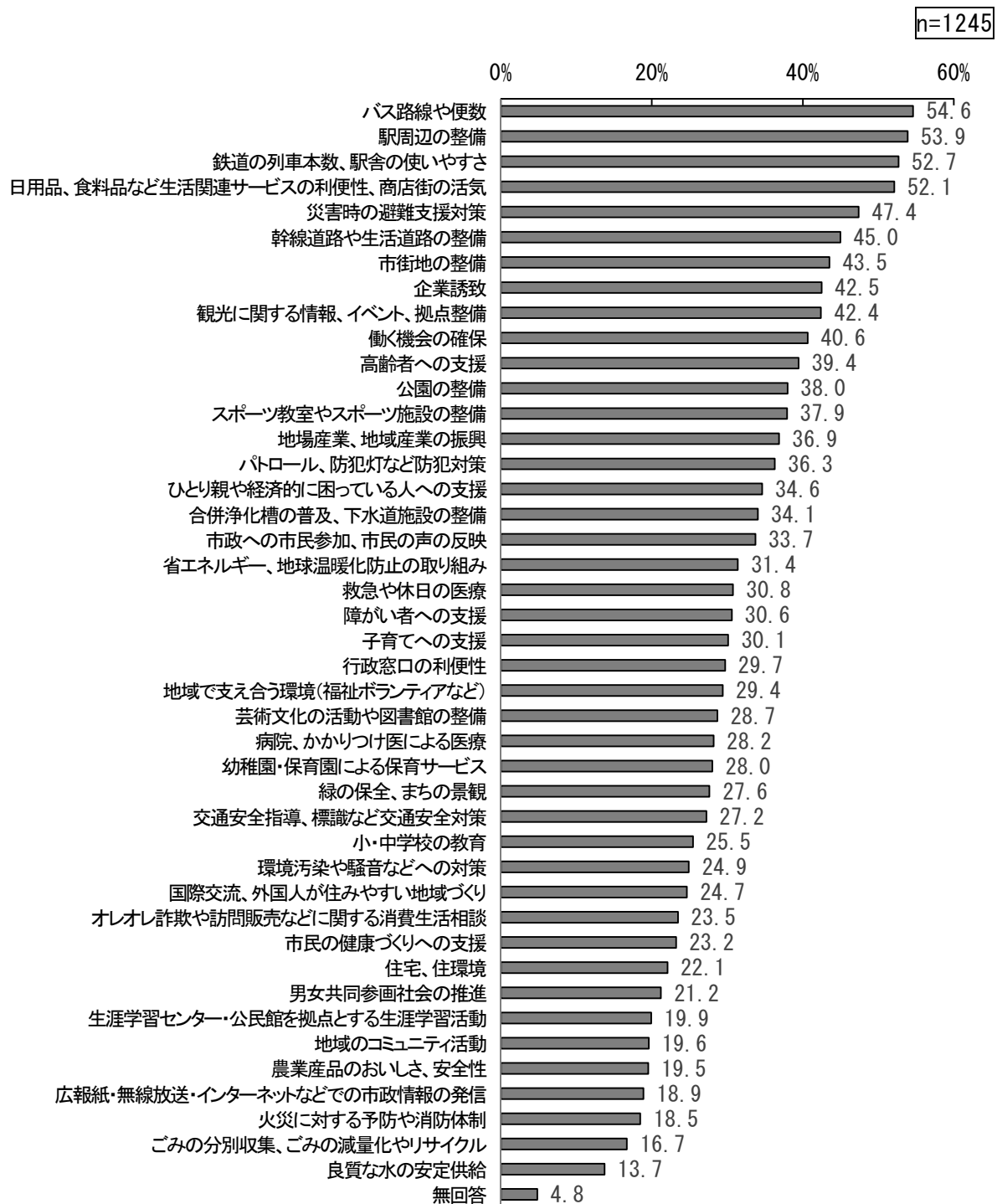
ア 満足しているサービス

- 満足しているサービスは、「ごみの分別収集、ごみの減量化やリサイクル」51.6%が最も多く、次いで「良質な水の安定供給」45.1%、市民の健康づくりへの支援」33.4%と続く。



イ 充実すべきサービス

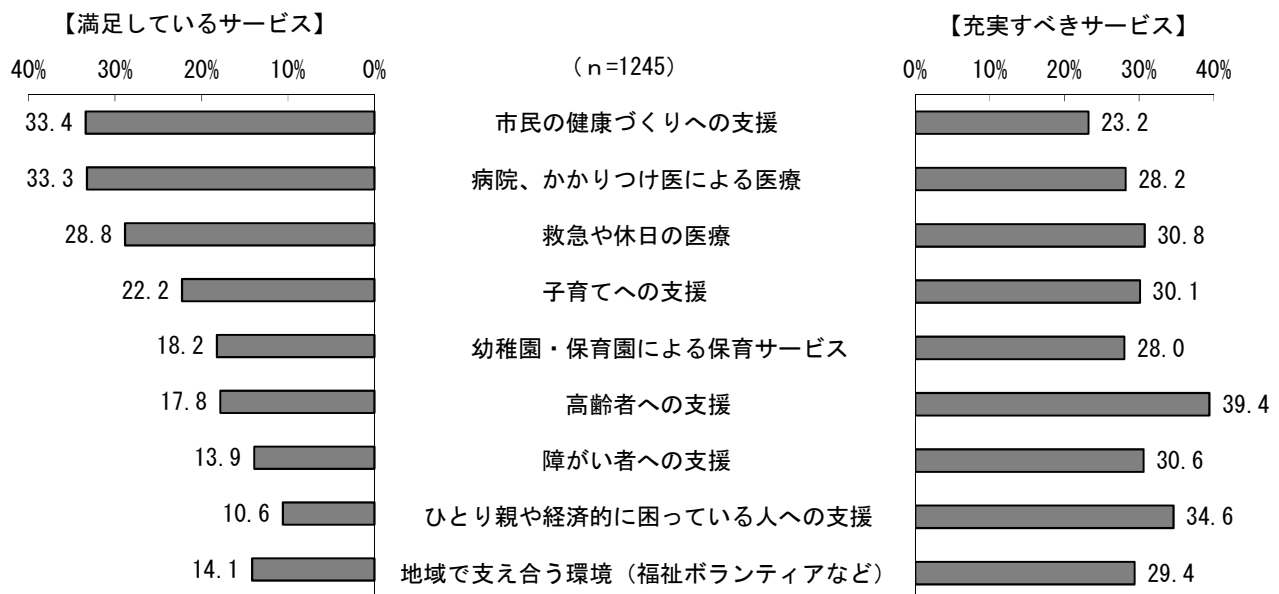
- 充実すべきサービスは、「バス路線や便数」54.6%が最も多く、次いで「駅周辺の整備」53.9%、「鉄道の列車本数、駅舎の使いやすさ」52.7%と続く。



<項目（1）～（43）を分野ごとに掲載（無回答を除く）>

【健康と福祉の「すその」】

- 満足しているサービスは、「市民の健康づくりへの支援」33.4%が最も多い。
- 充実すべきサービスは「高齢者支援」39.4%、「ひとり親や経済的に困っている人への支援」34.6%が多く、満足度も低い。



<回答者属性別クロス集計>

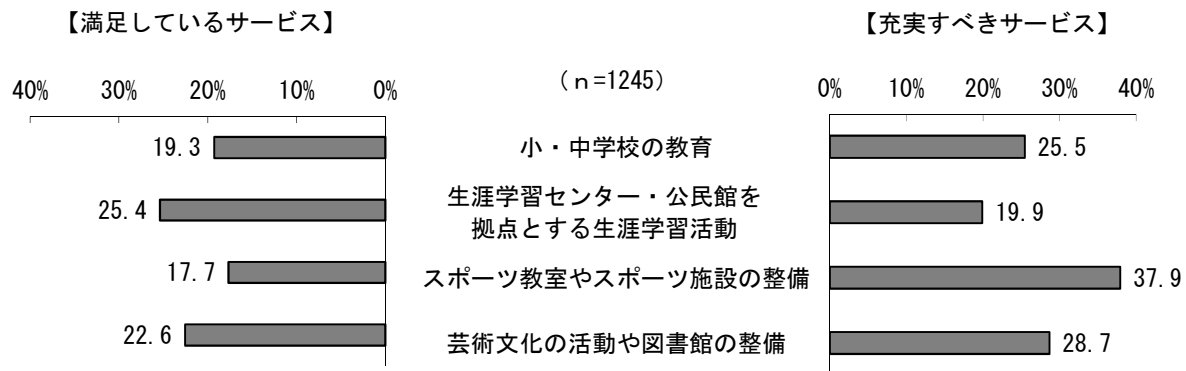
- ライフステージ別に満足しているサービスをみると全体結果と同様に概ね「市民の健康づくりへの支援」が最も多いが、家族形成期は「救急や休日の医療」が最も多く、家族成長前期は「病院、かかりつけ医による医療」が最も多い。
- 充実すべきサービスをみると、家族成長後期、家族成熟期、高齢期、その他では「高齢者支援」が最も多く、独身期、家族成長前期は「子育てへの支援」、家族形成期は「幼稚園・保育園による保育サービス」がそれぞれ最も多い。

（回答者属性別クロス集計は次ページ参照）

	上段：人数（人） 下段：割合（%） 網掛：各項目の第1位	合計	市民の健康づくりへの支援	病院、かかりつけ医による医療	救急や休日の医療	子育てへの支援	幼稚園・保育園による保育サービス	高齢者への支援	障がい者への支援	ひとり親や経済的に困っている人への支援	地域で支え合う環境（福祉ボランティアなど）
満足しているサービス	独身期	57	12	11	7	8	7	4	7	5	6
		100.0	21.1	19.3	12.3	14.0	12.3	7.0	12.3	8.8	10.5
	家族形成期	104	33	36	38	35	19	22	16	17	22
		100.0	31.7	34.6	36.5	33.7	18.3	21.2	15.4	16.3	21.2
	家族成長前期	136	44	53	51	45	39	27	22	19	28
		100.0	32.4	39.0	37.5	33.1	28.7	19.9	16.2	14.0	20.6
	家族成長後期	122	42	39	32	31	31	21	16	21	18
		100.0	34.4	32.0	26.2	25.4	25.4	17.2	13.1	17.2	14.8
	家族成熟期	179	57	53	54	39	30	34	24	18	24
		100.0	31.8	29.6	30.2	21.8	16.8	19.0	13.4	10.1	13.4
充実すべきサービス	高齢期	153	57	52	44	28	29	23	20	10	14
		100.0	37.3	34.0	28.8	18.3	19.0	15.0	13.1	6.5	9.2
	その他	494	171	170	133	91	72	91	68	42	64
		100.0	34.6	34.4	26.9	18.4	14.6	18.4	13.8	8.5	13.0
	独身期	57	10	14	13	15	11	11	12	10	9
		100.0	17.5	24.6	22.8	26.3	19.3	19.3	21.1	17.5	15.8
	家族形成期	104	25	25	31	40	48	22	24	27	20
		100.0	24.0	24.0	29.8	38.5	46.2	21.2	23.1	26.0	19.2
	家族成長前期	136	25	33	51	63	55	36	37	51	30
		100.0	18.4	24.3	37.5	46.3	40.4	26.5	27.2	37.5	22.1
	家族成長後期	122	30	35	46	43	34	48	41	42	35
		100.0	24.6	28.7	37.7	35.2	27.9	39.3	33.6	34.4	28.7
	家族成熟期	179	47	48	56	55	53	71	64	65	58
		100.0	26.3	26.8	31.3	30.7	29.6	39.7	35.8	36.3	32.4
	高齢期	153	39	38	42	36	26	81	46	40	49
		100.0	25.5	24.8	27.5	23.5	17.0	52.9	30.1	26.1	32.0
	その他	494	113	158	144	123	122	222	157	196	165
		100.0	22.9	32.0	29.1	24.9	24.7	44.9	31.8	39.7	33.4

【こころの豊かさを育む「すその」】

- 満足しているサービスは「生涯学習センター・公民館を拠点とする生涯学習活動」25.4%が最も多い。
- 充実すべきサービスは、「スポーツ教室やスポーツ施設の整備」37.9%が多く、満足度も低い。



<回答者属性別クロス集計>

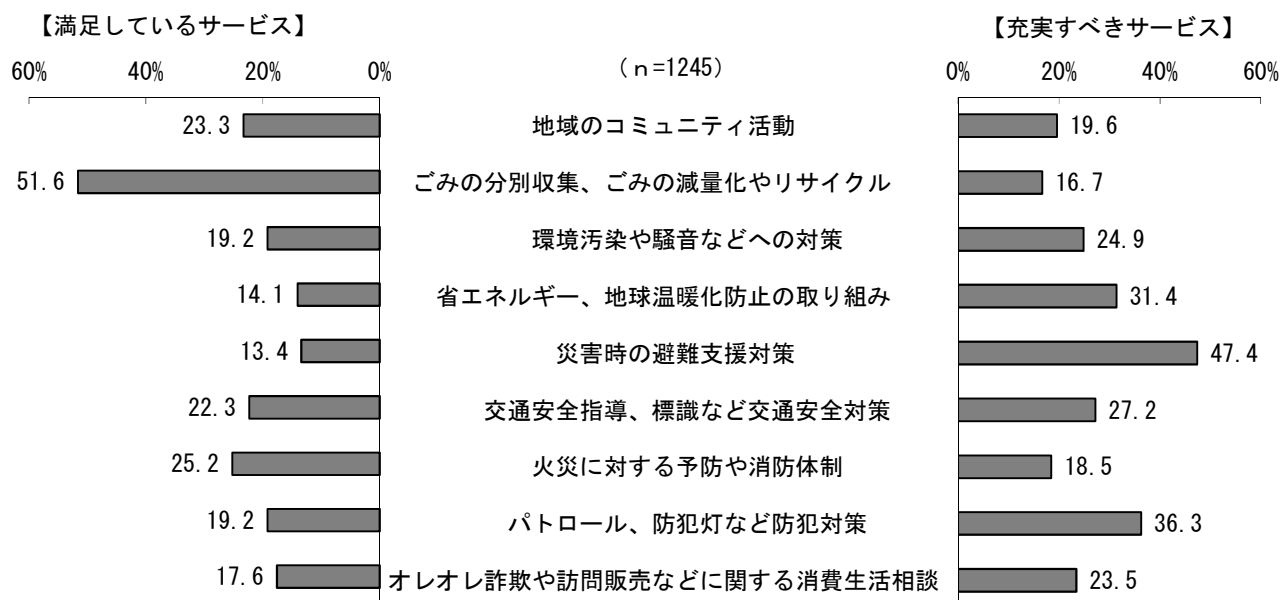
- ライフステージ別に満足しているサービスをみると全体結果と同様に概ね「生涯学習センター・公民館を拠点とする生涯学習活動」が最も多いが、独身期、高齢期では「スポーツ教室やスポーツ施設の整備」が最も多く、家族成長前期は「小・中学校の教育」が最も多い。
- 充実すべきサービスも全体結果と同様に概ね「スポーツ教室やスポーツ施設の整備」が最も多いが、独身期は「芸術文化の活動や図書館の整備」、家族成長後期は「小・中学校の教育」がそれぞれ最も多い。

(回答者属性別クロス集計は次ページ参照)

	上段：人数（人） 下段：割合（%） 網掛：各項目の第1位	合計	小・中学校の教育	生涯学習 センター・公 民館を拠点とする 生涯学習 活動	スポーツ 教室やス ポーツ施 設の整備	芸術文化 の活動や 図書館の 整備
満足しているサービス	独身期	57	5	9	12	10
		100.0	8.8	15.8	21.1	17.5
	家族形成期	104	21	28	13	27
		100.0	20.2	26.9	12.5	26.0
	家族成長前期	136	42	39	22	36
		100.0	30.9	28.7	16.2	26.5
	家族成長後期	122	24	39	23	29
		100.0	19.7	32.0	18.9	23.8
	家族成熟期	179	34	36	28	33
		100.0	19.0	20.1	15.6	18.4
	高齢期	153	23	35	35	38
		100.0	15.0	22.9	22.9	24.8
充実すべきサービス	独身期	57	9	9	16	19
		100.0	15.8	15.8	28.1	33.3
	家族形成期	104	21	17	46	28
		100.0	20.2	16.3	44.2	26.9
	家族成長前期	136	54	26	65	44
		100.0	39.7	19.1	47.8	32.4
	家族成長後期	122	55	22	53	42
		100.0	45.1	18.0	43.4	34.4
	家族成熟期	179	42	45	78	64
		100.0	23.5	25.1	43.6	35.8
	高齢期	153	27	30	46	37
		100.0	17.6	19.6	30.1	24.2
その他		494	109	99	168	123
		100.0	22.1	20.0	34.0	24.9

【安心と活力のある「すその」】

- 満足しているサービスは「ごみの分別収集、ごみの減量化やリサイクル」51.6%が最も多い。
- 充実すべきサービスは「災害時の避難支援対策」47.4%が多く、満足度も低い。

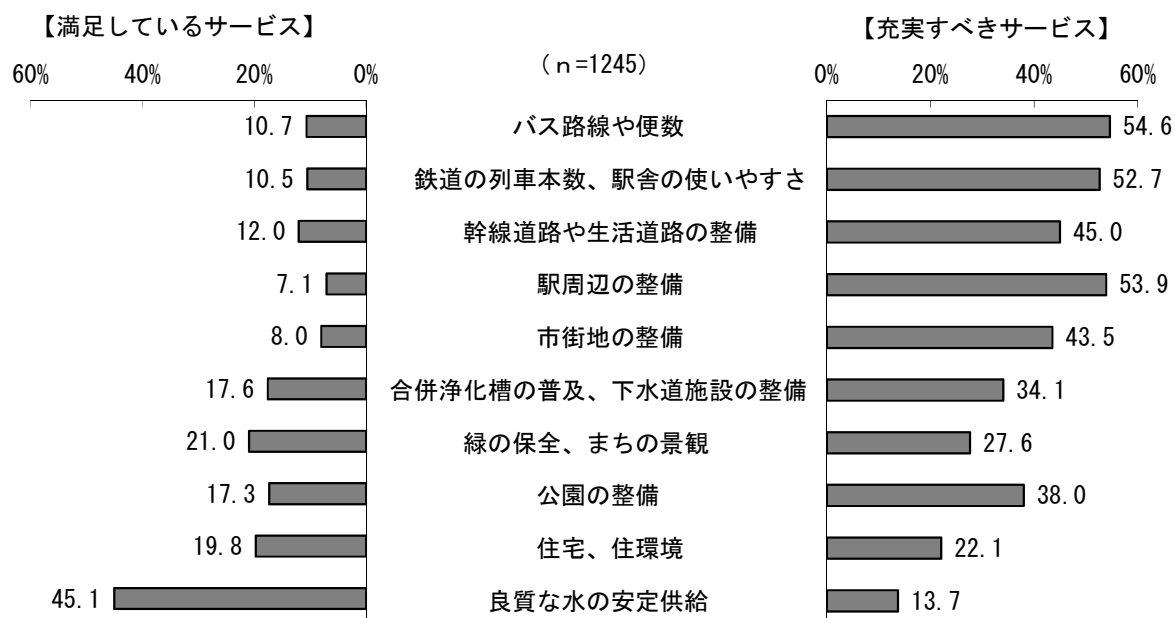


<回答者属性別クロス集計>

- ライフステージ別でも、満足しているサービス、充実すべきサービスともに第1位は全体結果と同様である。

【自然と暮らしやすさが調和した「すその」】

- 満足しているサービスは、「良質な水の安定供給」45.1%が最も多い。
- 充実すべきサービスは「バス路線や便数」54.6%、「駅周辺の整備」53.9%、「鉄道の列車本数、駅舎の使いやすさ」52.7%が多く、それぞれの満足度も低い。



<回答者属性別クロス集計>

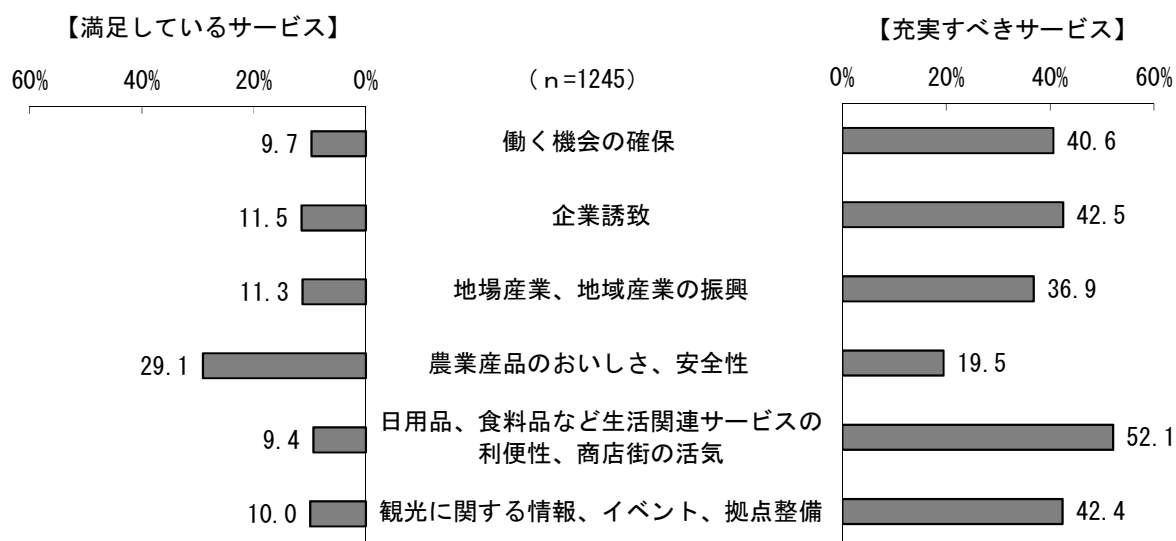
- ライフステージ別に満足しているサービスでも全体結果と同様に「良質な水の安定供給」が最も多い。
- 充実すべきサービスも全体結果と同様、どのライフステージにおいても「バス路線や便数」「駅周辺の整備」「鉄道の列車本数、駅舎の使いやすさ」を上位に挙げている。

(回答者属性別クロス集計は次ページ参照)

	上段：人数（人） 下段：割合（%） 網掛：各項目の第1位	合計	バス路線 や便数	鉄道の列 車本数、 駅舎の使 いやすさ	幹線道路 や生活道 路の整備	駅周辺の 整備	市街地の 整備	合併浄化 槽の普 及、下水 道施設の 整備	緑の保 全、まち の景観	公園の整 備	住宅、住 環境	良質な水 の安定供 給
満足してい るサービス	独身期	57	7	5	9	6	3	6	15	13	9	23
		100.0	12.3	8.8	15.8	10.5	5.3	10.5	26.3	22.8	15.8	40.4
	家族形成期	104	11	5	13	7	8	25	35	16	23	50
		100.0	10.6	4.8	12.5	6.7	7.7	24.0	33.7	15.4	22.1	48.1
	家族成長前期	136	11	11	19	15	15	29	35	26	32	66
		100.0	8.1	8.1	14.0	11.0	11.0	21.3	25.7	19.1	23.5	48.5
	家族成長後期	122	8	9	13	7	11	22	22	14	21	51
		100.0	6.6	7.4	10.7	5.7	9.0	18.0	18.0	11.5	17.2	41.8
	家族成熟期	179	16	11	18	12	10	25	28	29	36	83
		100.0	8.9	6.1	10.1	6.7	5.6	14.0	15.6	16.2	20.1	46.4
	高齢期	153	16	24	24	9	11	27	28	32	33	77
		100.0	10.5	15.7	15.7	5.9	7.2	17.6	18.3	20.9	21.6	50.3
	その他	494	64	66	54	32	42	85	98	86	92	211
		100.0	13.0	13.4	10.9	6.5	8.5	17.2	19.8	17.4	18.6	42.7
充実すべき サービス	独身期	57	33	36	23	30	22	12	7	8	10	5
		100.0	57.9	63.2	40.4	52.6	38.6	21.1	12.3	14.0	17.5	8.8
	家族形成期	104	56	72	54	67	52	21	15	56	30	12
		100.0	53.8	69.2	51.9	64.4	50.0	20.2	14.4	53.8	28.8	11.5
	家族成長前期	136	81	77	57	65	54	42	36	70	31	18
		100.0	59.6	56.6	41.9	47.8	39.7	30.9	26.5	51.5	22.8	13.2
	家族成長後期	122	79	84	63	76	53	48	41	48	34	21
		100.0	64.8	68.9	51.6	62.3	43.4	39.3	33.6	39.3	27.9	17.2
	家族成熟期	179	106	116	90	99	81	67	56	62	35	27
		100.0	59.2	64.8	50.3	55.3	45.3	37.4	31.3	34.6	19.6	15.1
	高齢期	153	77	63	63	79	70	68	54	59	31	20
		100.0	50.3	41.2	41.2	51.6	45.8	44.4	35.3	38.6	20.3	13.1
	その他	494	248	208	210	255	210	166	135	170	104	68
		100.0	50.2	42.1	42.5	51.6	42.5	33.6	27.3	34.4	21.1	13.8

【未来へつなげる「すその」】

- 満足しているサービスは、「農業産品のおいしさ、安全性」29.1%が最も多い。
- 充実すべきサービスは、「日用品、食料品など生活関連サービスの利便性、商店街の活気」52.1%が多く、満足度も低い。

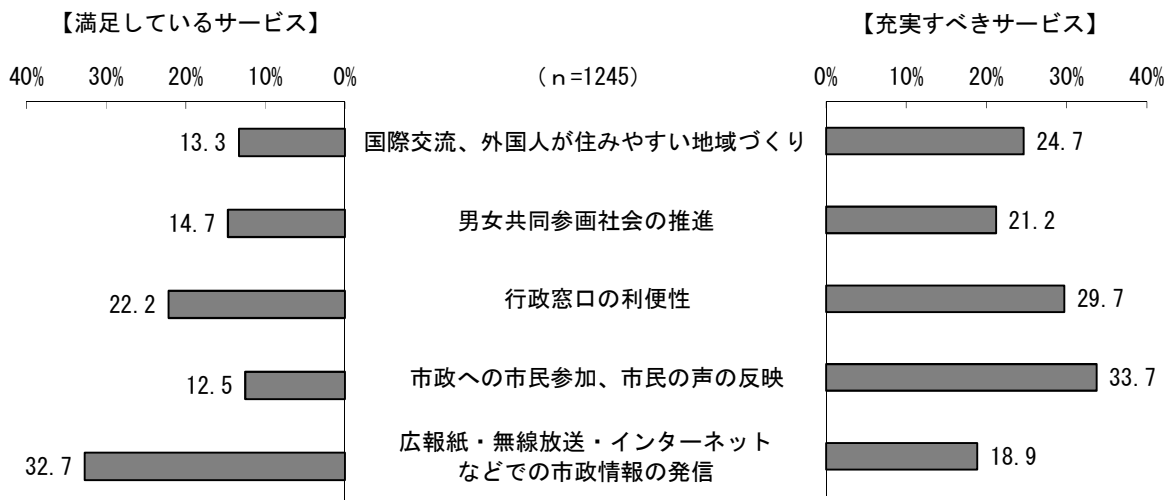


<回答者属性別クロス集計>

- ライフステージ別でも、満足しているサービス、充実すべきサービスともに第1位は全体結果と同様である。

【市民と未来に開かれた「すその」】

- 満足しているサービスは、「広報誌・無線放送・インターネットなどでの市政情報の発信」32.7%が最も多い。
- 充実すべきサービスは、「市政への市民参加、市民の声の反映」33.7%が多く、満足度も低い。



<回答者属性別クロス集計>

- ライフステージ別でも満足しているサービスは、全体結果と同様に「広報誌・無線放送・インターネットなどでの市政情報の発信」が最も多い。
- 充実すべきサービスをみると、全体結果と同様に概ね「市政への市民参加、市民の声の反映」が最も多いが、独身期は「行政窓口の利便性」が最も多い。家族形成期は「市政への市民参加、市民の声の反映」と「行政窓口の利便性」の両項目が最も多い。

(回答者属性別クロス集計は次ページ参照)

	上段：人数（人） 下段：割合（%） 網掛：各項目の第1位	合計	国際交 流、外国 人が住み やすい地 域づくり	男女共同 参画社会 の推進	行政窓口 の利便性	市政への 市民参 加、市民 の声の反 映	広報紙・ 無線放 送・イン ターネッ トなど での市政 情報の発 信
満足してい るサービス	独身期	57	8	7	8	5	10
		100.0	14.0	12.3	14.0	8.8	17.5
	家族形成期	104	13	15	23	15	37
		100.0	12.5	14.4	22.1	14.4	35.6
	家族成長前期	136	30	28	24	19	52
		100.0	22.1	20.6	17.6	14.0	38.2
	家族成長後期	122	20	24	23	12	44
		100.0	16.4	19.7	18.9	9.8	36.1
	家族成熟期	179	20	22	32	14	55
		100.0	11.2	12.3	17.9	7.8	30.7
充実すべき サービス	独身期	153	15	18	47	25	57
		100.0	9.8	11.8	30.7	16.3	37.3
	その他	494	60	69	119	66	152
		100.0	12.1	14.0	24.1	13.4	30.8
	独身期	57	8	7	15	12	8
		100.0	14.0	12.3	26.3	21.1	14.0
	家族形成期	104	29	29	34	34	16
		100.0	27.9	27.9	32.7	32.7	15.4
	家族成長前期	136	27	25	46	47	22
		100.0	19.9	18.4	33.8	34.6	16.2
	家族成長後期	122	35	26	46	47	21
		100.0	28.7	21.3	37.7	38.5	17.2
	家族成熟期	179	46	36	60	65	40
		100.0	25.7	20.1	33.5	36.3	22.3
	高齢期	153	36	29	35	51	24
		100.0	23.5	19.0	22.9	33.3	15.7
	その他	494	126	112	134	164	104
		100.0	25.5	22.7	27.1	33.2	21.1

(3) 裾野市の取り組みについて

問4 裾野市が行っている取り組みや生活環境について、どのように感じていますか。
(項目ごと1つに○)

- 市が行っている取り組みや生活環境について、19 項目中 16 項目で「ふつう」が最も多い。
- 「やや不満」が最も多い3項目は、「宅地の供給、駅周辺の整備や買物の利便性など生活しやすいまちづくり」、「道路網の便利さや快適さと歩道の整備状況」、「鉄道やバスの便利さ」である。

n=1245 上 段：人数（人） 下 段：割合（％） 網掛け：各項目の第1位		満足	まあ満足	ふつう	やや不満	不満	無回答
1	市が行う「健康づくりプログラム」の充実感 (個人が設定する目標にチャレンジする健康マイレージ事業などを実施)	38	165	785	94	39	124
		3.1	13.3	63.1	7.6	3.1	10.0
2	市が行う「高齢者に対する施策」の充実感 (高齢者医療費助成や敬老会を実施)	45	182	732	140	37	109
		3.6	14.6	58.8	11.2	3.0	8.8
3	小・中学校の「学力の育成」や「人間の育成」についての取り組み (今年度から文化芸術やトップアスリートにふれ合う課外授業を開始)	35	209	665	116	30	190
		2.8	16.8	53.4	9.3	2.4	15.3
4	市の行う「生涯学習プログラム」の充実度 (生涯学習センター講座や公民館講座を実施)	39	169	749	117	21	150
		3.1	13.6	60.2	9.4	1.7	12.0
5	音楽・伝統文化・史跡や旧跡などの文化に触れる機会の多さ (文化センターでの公演の充実や深良用水特別展示の開始、富士山資料館の充実)	37	174	660	206	37	131
		3.0	14.0	53.0	16.5	3.0	10.5
6	男女が共に活躍できる社会の実現 (ママフェスの開催や子育て世帯へのパパママスクールの実施)	24	124	750	117	21	209
		1.9	10.0	60.2	9.4	1.7	16.8
7	空気や河川の水のきれいさ (住宅への太陽光発電パネルなどの環境機器導入を支援)	58	318	567	164	39	99
		4.7	25.5	45.5	13.2	3.1	8.0
8	「悪臭のなさ」「散乱ごみの少なさ」 (地域の協力による資源ごみの回収などリサイクル活動を推進)	101	413	491	131	35	74
		8.1	33.2	39.4	10.5	2.8	5.9

n=1245

上 段：人数（人）

下 段：割合（％）

網掛け：各項目の第1位

	満足	まあ満足	ふつう	やや不満	不満	無回答
9 河川や水路の整備状況 （動植物が棲みやすい環境を確保する河川改修を推進）	41 3.3	257 20.6	593 47.6	202 16.2	58 4.7	94 7.6
10 公園などの身近な緑地の環境整備 （中央公園の管理や、運動公園でローラーすべり台の改修を実施）	69 5.5	253 20.3	539 43.3	214 17.2	68 5.5	102 8.2
11 安全・安心で快適な住環境の整備 （住宅建設や耐震化・リフォームへの助成を実施）	20 1.6	153 12.3	704 56.5	186 14.9	44 3.5	138 11.1
12 宅地の供給、駅周辺の整備や買物の利便性など生活しやすいまちづくり （都市計画道路の開通により商業施設の立地を促進するなど生活利便性の向上を推進）	10 0.8	71 5.7	390 31.3	466 37.4	211 16.9	97 7.8
13 道路網の便利さや快適さと歩道の整備状況 （市街化区域道路整備計画に基づく生活道整備を推進）	19 1.5	81 6.5	414 33.3	438 35.2	201 16.1	92 7.4
14 まちなみや自然の景観の美しさ （H22 から景観行政団体になり、一定の建築物等への届出制度を導入）	23 1.8	178 14.3	663 53.3	194 15.6	63 5.1	124 10.0
15 鉄道やバスの便利さ （バスの継続運行、バス・タクシー券制度の導入や御殿場線の三島駅乗入れ拡充の働きかけを実施）	15 1.2	106 8.5	379 30.4	397 31.9	250 20.1	98 7.9
16 市の行う広報（広報紙・無線、報道など）の「わかりやすさ」や「情報の量」 （広報すその4/15号から紙面デザインを刷新するなど分かりやすい広報紙づくりを実施）	66 5.3	278 22.3	660 53.0	126 10.1	35 2.8	80 6.4
17 誰もが平等に情報を受け取ることができる（広報紙・無線、ホームページ、メールなど）環境 （広報紙の配布、無線放送に加え、まもメールやフェイスブックでの情報発信を実施）	70 5.6	303 24.3	630 50.6	120 9.6	20 1.6	102 8.2
18 市の効率的な行政運営 （厳しい財政状況の中でも、将来につながる事業枠を確保する行政運営を実施）	9 0.7	100 8.0	713 57.3	210 16.9	65 5.2	148 11.9
19 各種手続きなど行政サービスに対応する市職員の対応・信頼度 （市民課窓口手続きの改善を実施（H27）、全職員の接遇意識の向上を推進）	67 5.4	244 19.6	598 48.0	174 14.0	81 6.5	81 6.5

<回答者属性別クロス集計>

○ ライフステージ別でみても全体結果と概ね同様である。

<経年比較>

- 平成 26 年度調査とは回答方法が異なる設問もあるため参考データとなるが、平成 26 年度と比較すると、満足あるいは不満の割合に差はあるものの、ほとんどの項目では「ふつう」が最も多く、大きな変化はみられない。
- 「12 宅地の供給、駅周辺の整備や買物の利便性など生活しやすいまちづくり」で平成 26 年度は「ふつう」が最も多かったが、平成 27 年度は「やや不満」が最も多くなった。

平成 27 年度 n=1245

平成 26 年度 n=546

数値：割合（％）

網掛け：各項目の第 1 位

		満足	まあ満足	ふつう	やや不満	不満
1 市が行う「健康づくりプログラム」の充実感	平成 27 年度	3.1	13.3	63.1	7.6	3.1
	平成 26 年度	1.3	13.2	62.3	15.8	4.8
2 市が行う「高齢者に対する施策」の充実感	平成 27 年度	3.6	14.6	58.8	11.2	3.0
	平成 26 年度	1.5	11.0	32.6	17.4	4.8
3 小・中学校の「学力の育成」や「人間の育成」についての取り組み	平成 27 年度	2.8	16.8	53.4	9.3	2.4
	平成 26 年度	1.3	12.1	62.8	15.6	4.4
4 市の行う「生涯学習プログラム」の充実度	平成 27 年度	3.1	13.6	60.2	9.4	1.7
	平成 26 年度	1.1	11.9	66.3	14.1	3.5
5 音楽・伝統文化・史跡や旧跡などの文化に触れる機会の多さ	平成 27 年度	3.0	14.0	53.0	16.5	3.0
	平成 26 年度	0.5	6.8	55.5	26.4	8.2
6 男女が共に活躍できる社会の実現	平成 27 年度	1.9	10.0	60.2	9.4	1.7
	平成 26 年度	未実施				
7 空気や河川の水のきれいさ	平成 27 年度	4.7	25.5	45.5	13.2	3.1
	平成 26 年度※	8.6	28.0	48.9	10.8	2.2
8 「悪臭のなさ」「散乱ごみの少なさ」	平成 27 年度	8.1	33.2	39.4	10.5	2.8
	平成 26 年度※	7.5	28.4	48.9	9.9	2.4
9 河川や水路の整備状況	平成 27 年度	3.3	20.6	47.6	16.2	4.7
	平成 26 年度※	3.8	14.8	61.2	12.6	4.9

平成 27 年度 n=1245

平成 26 年度 n=546

数値：割合（％）

網掛け：各項目の第 1 位

		満足	まあ満足	ふつう	やや不満	不満
10 公園などの身近な緑地の環境整備	平成 27 年度	5.5	20.3	43.3	17.2	5.5
	平成 26 年度※	2.4	11.0	41.0	28.4	15.2
11 安全・安心で快適な住環境の整備	平成 27 年度	1.6	12.3	56.5	14.9	3.5
	平成 26 年度※	2.6	1.8	56.0	20.3	7.7
12 宅地の供給、駅周辺の整備や買物の利便性など生活しやすいまちづくり (H26:「近くで買い物ができる」「家の周りが静かである」など、まちの環境の快適度)	平成 27 年度	0.8	5.7	31.3	37.4	16.9
	平成 26 年度※	5.9	25.1	35.3	20.5	11.5
13 道路網の便利さや快適さと歩道の整備状況	平成 27 年度	1.5	6.5	33.3	35.2	16.1
	平成 26 年度※	2.0	10.6	30.6	34.2	21.2
14 まちなみや自然の景観の美しさ	平成 27 年度	1.8	14.3	53.3	15.6	5.1
	平成 26 年度※	6.2	17.6	49.3	16.8	7.3
15 鉄道やバスの便利さ	平成 27 年度	1.2	8.5	30.4	31.9	20.1
	平成 26 年度※	2.0	6.4	24.7	33.3	31.5
16 市の行う広報(広報紙・無線、報道など)の「わかりやすさ」や「情報の量」	平成 27 年度	5.3	22.3	53.0	10.1	2.8
	平成 26 年度	4.8	18.1	55.1	15.4	4.6
17 誰もが平等に情報を受け取ることができる環境	平成 27 年度	5.6	24.3	50.6	9.6	1.6
	平成 26 年度※	6.4	21.2	58.4	9.5	2.9
18 市の効率的な行政運営	平成 27 年度	0.7	8.0	57.3	16.9	5.2
	平成 26 年度	1.5	6.2	57.0	21.1	10.3
19 各種手続きなど行政サービスに対応する市職員の対応・信頼度 (H26:市職員に仕事や地域活動を任せられる、職員の信頼度)	平成 27 年度	5.4	19.6	48.0	14.0	6.5
	平成 26 年度	2.4	8.6	56.4	20.1	9.2

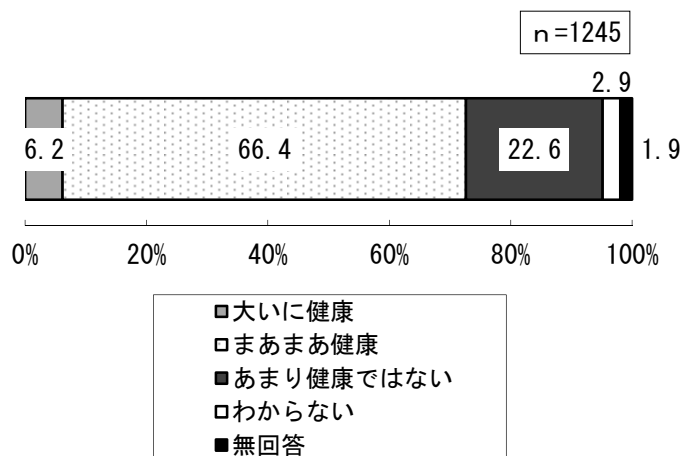
※前回調査と回答方法が異なるため、参考掲載

(無回答は非表示)

(4) スポーツ活動について

問5 ご自分の健康についてどのように感じていますか。(1つに○)

- 健康状態は、「まあまあ健康」66.4%が最も多く、次いで「あまり健康ではない」22.6%、「大いに健康」6.2%と続く。

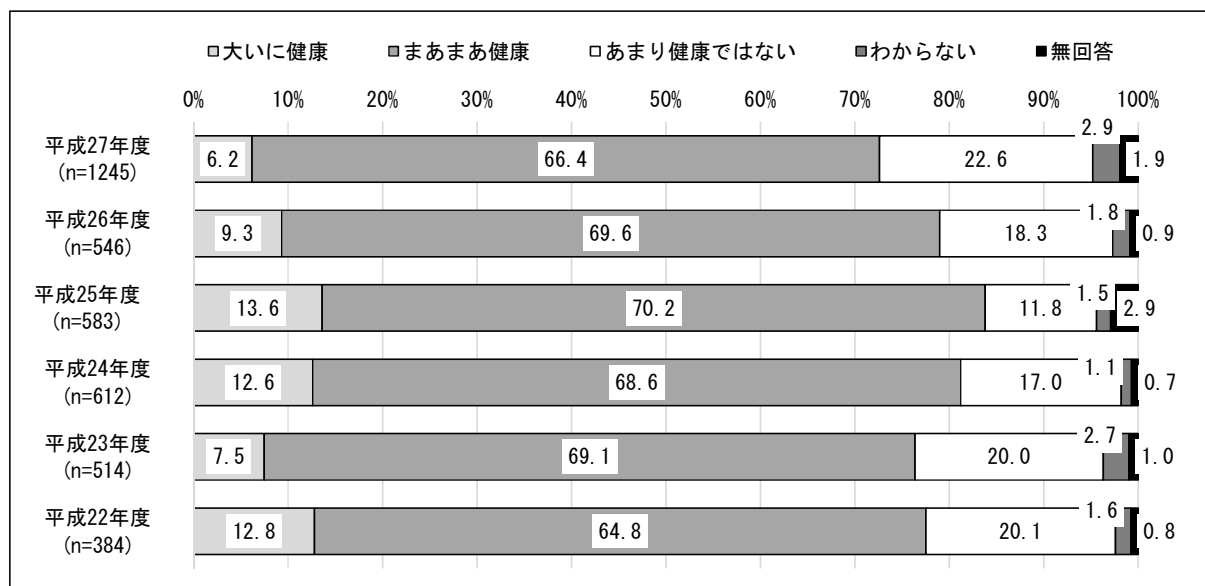


<回答者属性別クロス集計>

- 年齢別でも全体結果と概ね同様の傾向である。

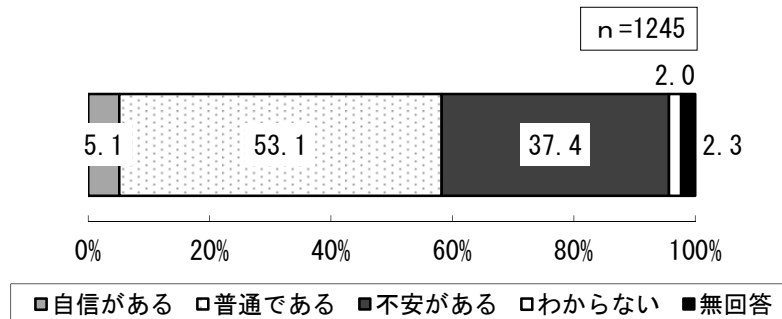
<経年比較>

- 経年比較でみると、「大いに健康」は10%前後、「まあまあ健康」は70%前後、「あまり健康ではない」10~20%台で推移しており、大きな変化はみられない。



問6 ご自分の体力についてどのように感じていますか。（1つに○）

- 体力は、「普通である」53.1%が最も多く、次いで「不安がある」37.4%、「自信がある」5.1%と続く。

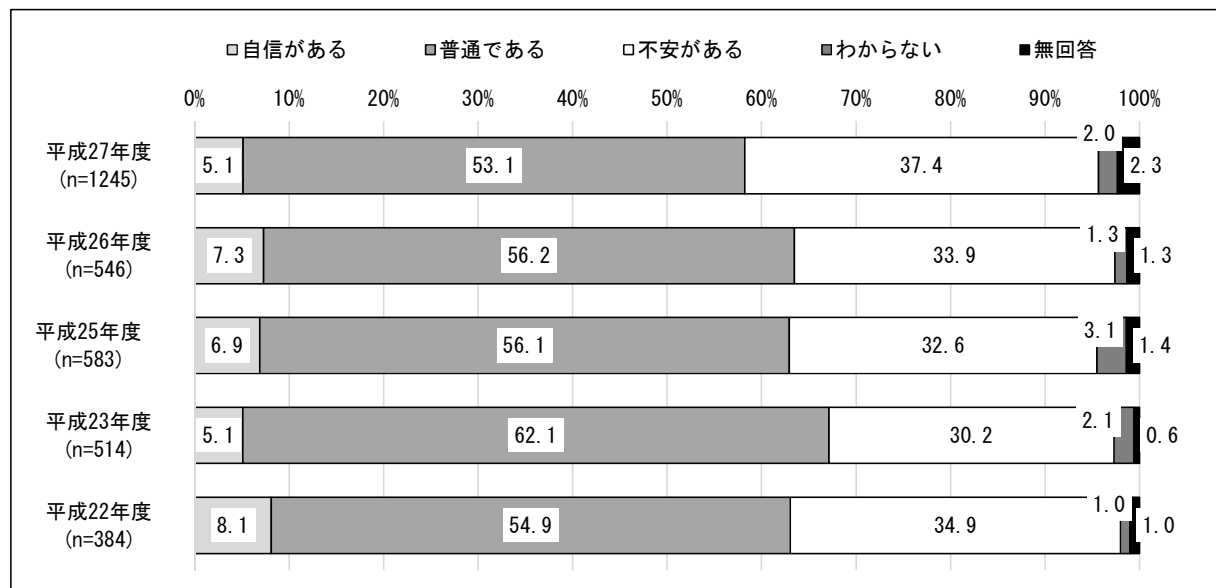


<回答者属性別クロス集計>

- 年齢別でみても全体結果と概ね同様の傾向である。

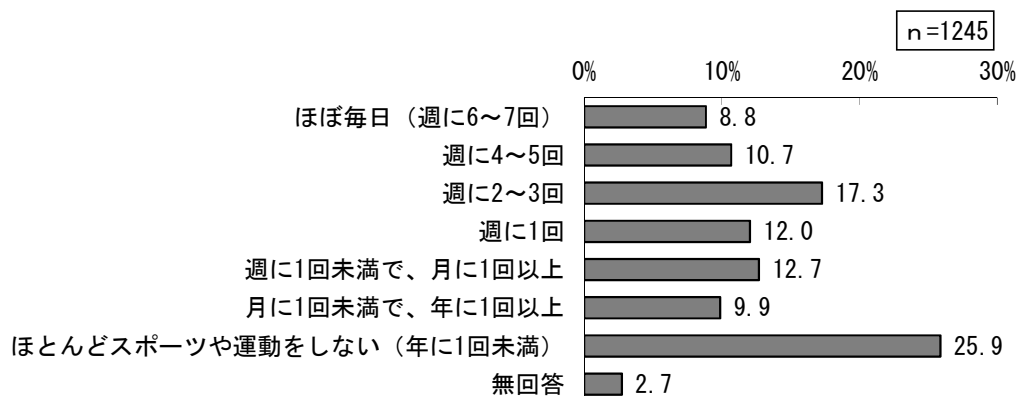
<経年比較>

- 経年比較でみると、「自信がある」10%未満、「普通である」は60%前後、「不安がある」は30%台で推移しており、大きな変化はみられない。



問7 この1年間で、スポーツや運動（1回あたり30分程度以上、散歩・ストレッチ等の軽運動を含む）をどれくらいの頻度で行いましたか。（1つに○）

- 1年間の運動の頻度は、「ほとんどスポーツや運動をしない」25.9%が最も多く、次いで「週に2～3回」17.3%、「週に1回未満で、月に1回以上」12.7%と続く。
- 比較的良好に運動している割合（週に4回以上）は19.5%、定期的に運動している割合（週に1回以上）は48.8%に上る。



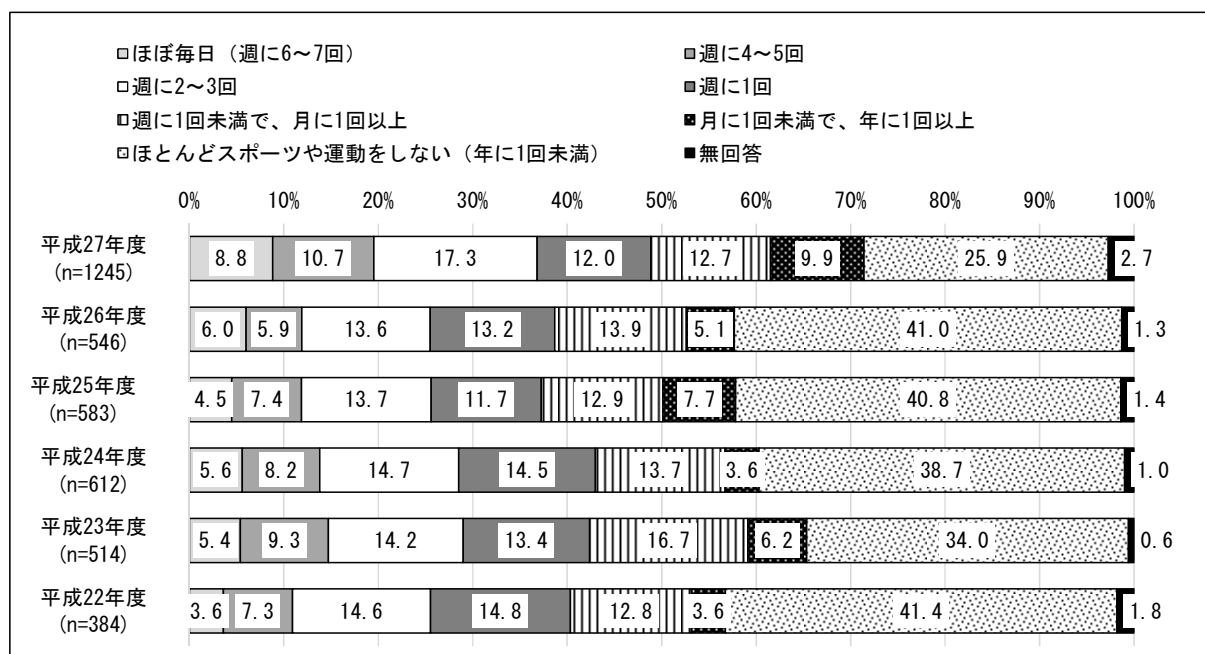
<回答者属性別クロス集計>

- 年齢別でみると、20歳～24歳及び60歳以上で「週に2～3回」が最も多く、「週に2～3回」以上の割合が50%を超えている。

上段：人数（人） 下段：割合（%） 網掛：各項目の第1位	合計	ほぼ毎日 （週に6～7回）	週に4～5回	週に2～3回	週に1回	週に1回未満で、月に1回以上	月に1回未満で、年に1回以上	ほとんどスポーツや運動をしない （年に1回未満）	無回答
全体	1245	110	133	215	150	158	123	322	34
	100.0	8.8	10.7	17.3	12.0	12.7	9.9	25.9	2.7
20歳～24歳	15	2	1	5	1	2	2	2	0
	100.0	13.3	6.7	33.3	6.7	13.3	13.3	13.3	0.0
25歳～29歳	47	3	2	3	6	10	11	12	0
	100.0	6.4	4.3	6.4	12.8	21.3	23.4	25.5	0.0
30歳～34歳	67	2	4	12	11	7	12	18	1
	100.0	3.0	6.0	17.9	16.4	10.4	17.9	26.9	1.5
35歳～39歳	91	4	2	18	7	16	15	28	1
	100.0	4.4	2.2	19.8	7.7	17.6	16.5	30.8	1.1
40歳～44歳	109	8	10	9	13	14	19	34	2
	100.0	7.3	9.2	8.3	11.9	12.8	17.4	31.2	1.8
45歳～49歳	116	6	4	20	10	20	13	41	2
	100.0	5.2	3.4	17.2	8.6	17.2	11.2	35.3	1.7
50歳～54歳	89	4	8	11	15	17	9	25	0
	100.0	4.5	9.0	12.4	16.9	19.1	10.1	28.1	0.0
55歳～59歳	121	9	10	15	16	21	10	38	2
	100.0	7.4	8.3	12.4	13.2	17.4	8.3	31.4	1.7
60歳～64歳	137	14	20	25	22	22	10	23	1
	100.0	10.2	14.6	18.2	16.1	16.1	7.3	16.8	0.7
65歳～69歳	189	25	36	36	23	15	11	35	8
	100.0	13.2	19.0	19.0	12.2	7.9	5.8	18.5	4.2
70歳以上	248	32	35	60	26	13	11	59	12
	100.0	12.9	14.1	24.2	10.5	5.2	4.4	23.8	4.8

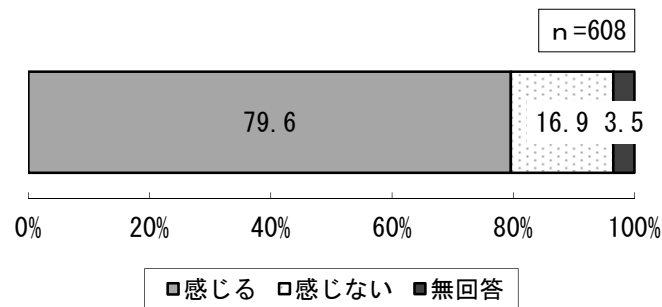
<経年比較>

- 経年比較でみると平成27年度は「ほとんどスポーツや運動をしない」が大きく低下する一方、「ほぼ毎日（週に6～7回）」から「週に2～3回」までの割合が増えている。



問 7-2 問 7 で「1～4（週に 1 回以上）」に○をつけた方のみお答えください。
 習慣的な運動によって、自分が健康を保つことができていると感じますか。（1 つに○）

○ 習慣的な運動で健康が保たれていると感じるかは、「感じる」79.6%、「感じない」16.9%。

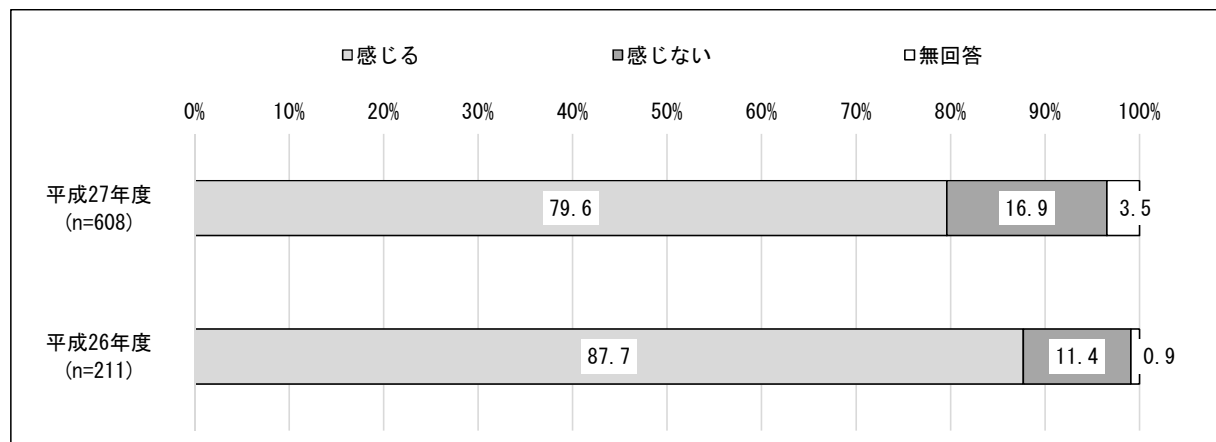


<回答者属性別クロス集計>

○ 年齢別でも全体結果と概ね同様の傾向である。

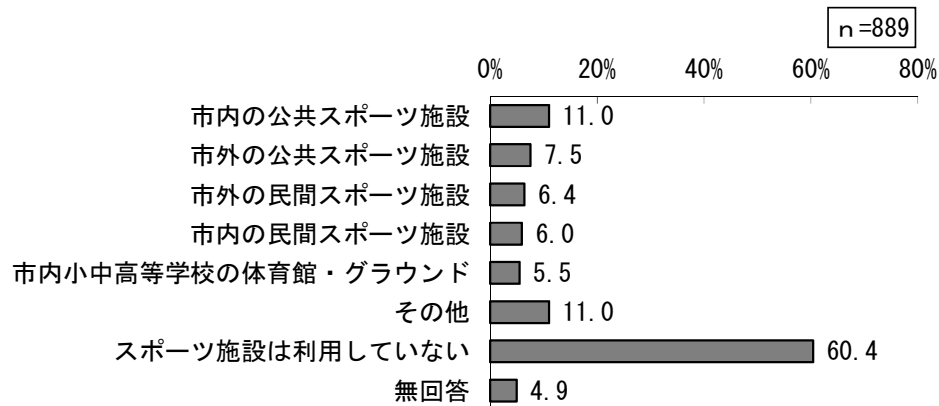
<経年比較>

○ 経年比較でみると「感じる」がやや低下している。



問 7-3 問 7 で「1～6（年に 1 回以上）」に○をつけた方のみお答えください。
ふだん利用するスポーツ施設は何ですか。（○はいくつでも）

- ふだん利用するスポーツ施設は、「スポーツ施設は利用していない」60.4%が最も多い。



<回答者属性別クロス集計>

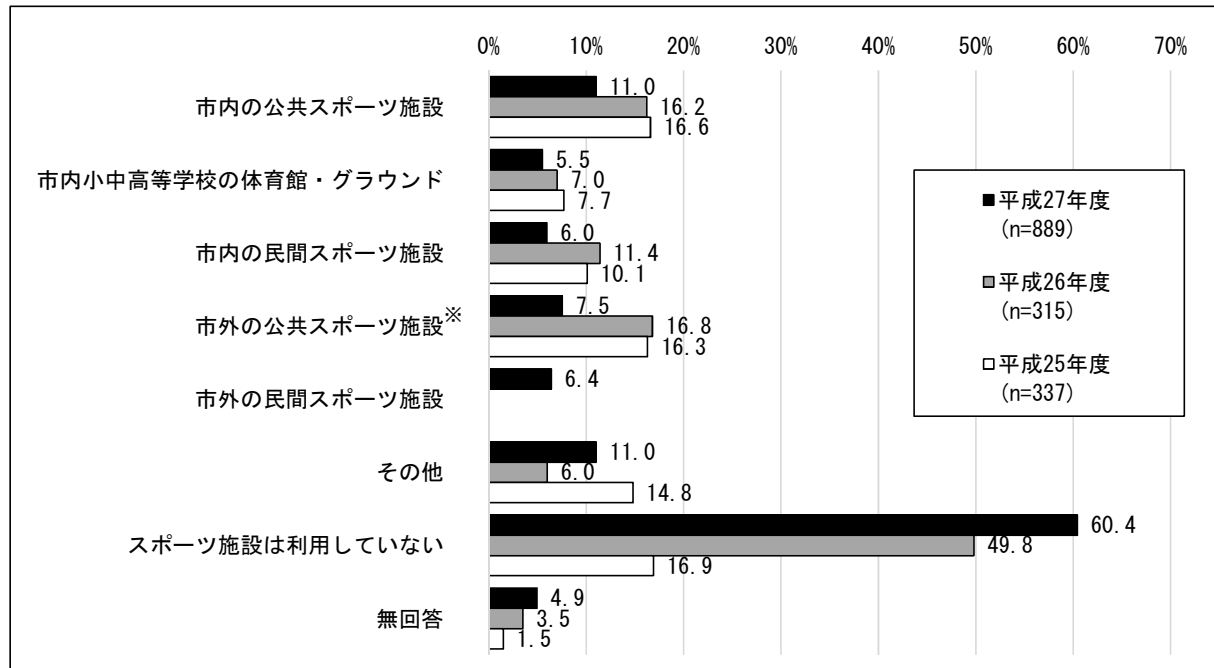
- 年齢別でみても全体結果と概ね同様の傾向であるが、20 歳～24 歳では「市内小中高等学校の体育館・グラウンド」「市内の民間スポーツ施設」がやや多い。
- 地区別でみても全体結果と概ね同様の傾向である。

上段：人数（人） 下段：割合（%） 網掛：各項目の第1位	合計	市内の公共スポーツ施設	市内小中高等学校の体育館・グラウンド	市内の民間スポーツ施設	市外の公共スポーツ施設	市外の民間スポーツ施設	その他	スポーツ施設は利用していない
全体	889 100.0	98 11.0	49 5.5	53 6.0	67 7.5	57 6.4	98 11.0	537 60.4
20歳～24歳	13 100.0	1 7.7	3 23.1	4 30.8	2 15.4	0 0.0	0 0.0	5 38.5
25歳～29歳	35 100.0	4 11.4	1 2.9	1 2.9	4 11.4	2 5.7	2 5.7	22 62.9
30歳～34歳	48 100.0	6 12.5	2 4.2	3 6.3	2 4.2	1 2.1	6 12.5	32 66.7
35歳～39歳	62 100.0	12 19.4	3 4.8	2 3.2	7 11.3	8 12.9	3 4.8	35 56.5
40歳～44歳	73 100.0	10 13.7	6 8.2	3 4.1	12 16.4	4 5.5	5 6.8	40 54.8
45歳～49歳	73 100.0	11 15.1	7 9.6	7 9.6	9 12.3	6 8.2	7 9.6	43 58.9
50歳～54歳	64 100.0	6 9.4	7 10.9	2 3.1	3 4.7	7 10.9	7 10.9	38 59.4
55歳～59歳	81 100.0	5 6.2	4 4.9	3 3.7	4 4.9	3 3.7	6 7.4	55 67.9
60歳～64歳	113 100.0	6 5.3	4 3.5	7 6.2	7 6.2	11 9.7	7 6.2	71 62.8
65歳～69歳	146 100.0	18 12.3	7 4.8	9 6.2	11 7.5	10 6.8	25 17.1	86 58.9
70歳以上	177 100.0	19 10.7	5 2.8	12 6.8	5 2.8	5 2.8	30 16.9	107 60.5

（無回答は非表示）

<経年比較>

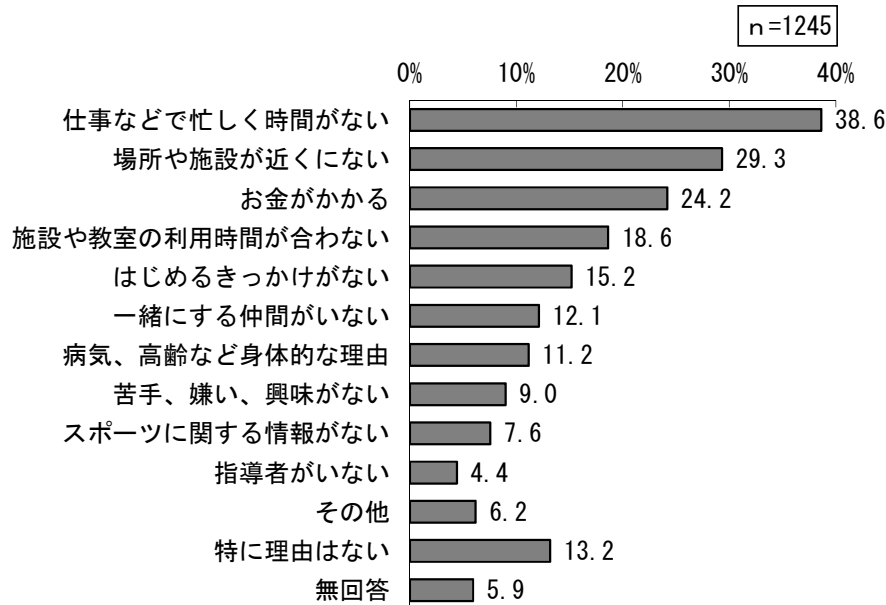
○ 経年比較でみると「スポーツ施設は利用していない」が増えている。



※平成 25～26 年度調査の選択肢は「市外のスポーツ施設」

問8 スポーツを頻繁に行うために、障害となっているものは何ですか。（〇はいくつでも）

- スポーツを頻繁に行うために、障害となっているものは、「仕事などで忙しく時間がない」38.6%が最も多く、次いで「場所や施設が近くにない」29.3%、「お金がかかる」24.2%と続く。



<回答者属性別クロス集計>

- 年齢別でみると全体結果と概ね同様だが、20歳～24歳では「施設や教室の利用時間が合わない」が最も多い。

上段：人数（人） 下段：割合（%） 網掛：各項目の第1位	合計	仕事などで忙しく時間がない	病気、高齢など身体的な理由	場所や施設が近くにない	施設や教室の利用時間が合わない	一緒にする仲間がいない	指導者がいない	お金がかかる	はじめるきっかけがない	スポーツに関する情報がない	苦手、嫌い、興味がない
全体	1245	481	139	365	232	151	55	301	189	94	112
	100.0	38.6	11.2	29.3	18.6	12.1	4.4	24.2	15.2	7.6	9.0
20歳～24歳	15	6	0	5	7	5	0	5	5	0	1
	100.0	40.0	0.0	33.3	46.7	33.3	0.0	33.3	33.3	0.0	6.7
25歳～29歳	47	30	0	21	15	8	2	15	9	5	9
	100.0	63.8	0.0	44.7	31.9	17.0	4.3	31.9	19.1	10.6	19.1
30歳～34歳	67	37	4	23	20	10	4	28	12	8	6
	100.0	55.2	6.0	34.3	29.9	14.9	6.0	41.8	17.9	11.9	9.0
35歳～39歳	91	60	3	28	27	8	8	31	11	10	5
	100.0	65.9	3.3	30.8	29.7	8.8	8.8	34.1	12.1	11.0	5.5
40歳～44歳	109	65	3	36	25	13	3	30	14	5	14
	100.0	59.6	2.8	33.0	22.9	11.9	2.8	27.5	12.8	4.6	12.8
45歳～49歳	116	74	9	25	23	18	7	33	18	10	13
	100.0	63.8	7.8	21.6	19.8	15.5	6.0	28.4	15.5	8.6	11.2
50歳～54歳	89	44	6	29	17	5	2	30	13	7	15
	100.0	49.4	6.7	32.6	19.1	5.6	2.2	33.7	14.6	7.9	16.9
55歳～59歳	121	62	10	40	32	15	5	38	20	12	9
	100.0	51.2	8.3	33.1	26.4	12.4	4.1	31.4	16.5	9.9	7.4
60歳～64歳	137	42	18	34	26	16	6	28	31	15	12
	100.0	30.7	13.1	24.8	19.0	11.7	4.4	20.4	22.6	10.9	8.8
65歳～69歳	189	31	23	57	22	24	7	29	24	7	12
	100.0	16.4	12.2	30.2	11.6	12.7	3.7	15.3	12.7	3.7	6.3
70歳以上	248	26	60	60	17	27	10	34	28	12	13
	100.0	10.5	24.2	24.2	6.9	10.9	4.0	13.7	11.3	4.8	5.2

（選択肢の「その他」、無回答は非表示）

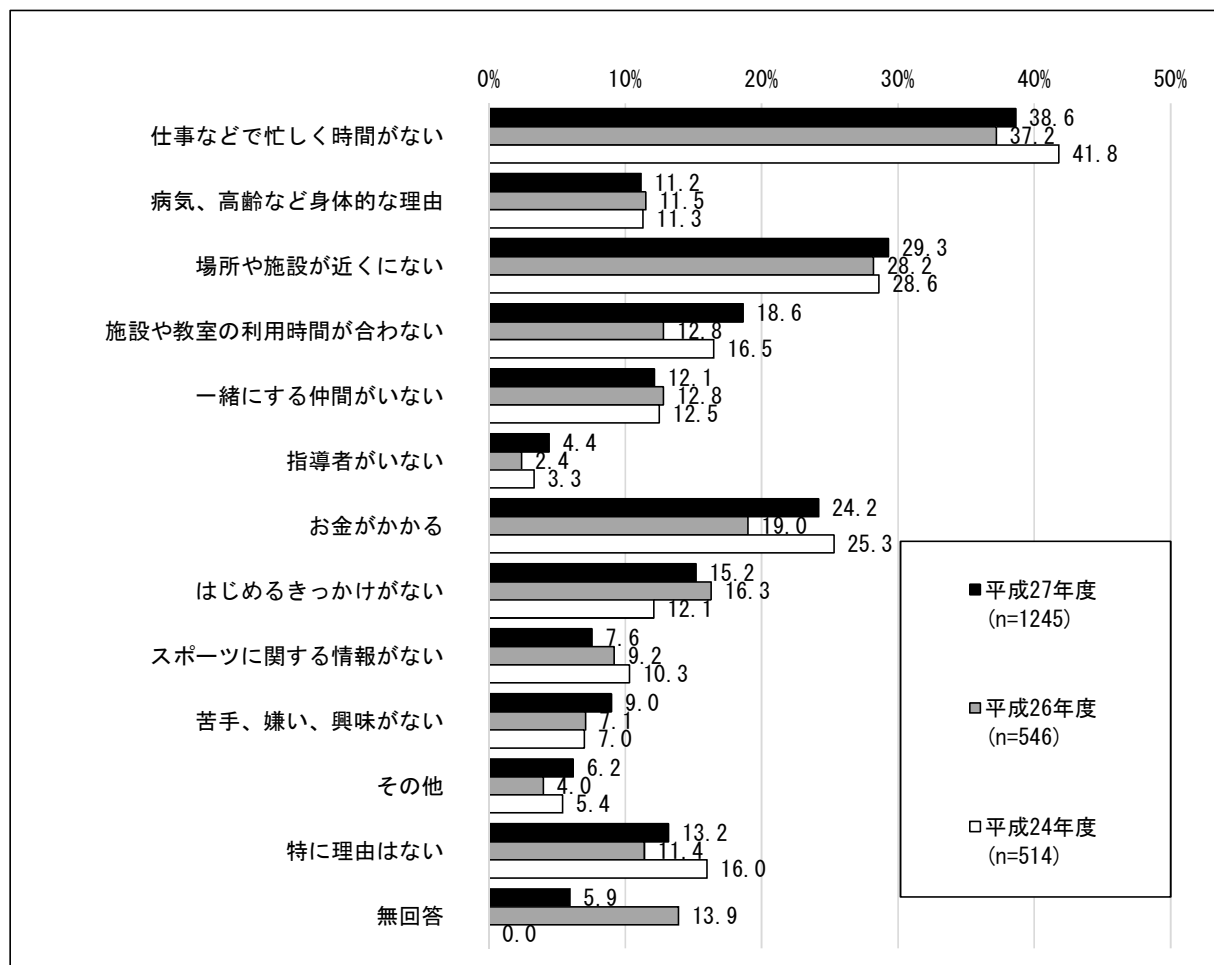
- 地区別でみると全体結果と概ね同様だが、須山地区では「場所や施設が近くにならない」が最も多い。

上段：人数（人） 下段：割合（％） 網掛：各項目の第1位	合計	仕事などで忙しく時間がない	病気、高齢など身体的な理由	場所や施設が近くがない	施設や教室の利用時間が合わない	一緒にする仲間がいない	指導者がいない	お金がかかる	はじめるきっかけがない	スポーツに関する情報がない	苦手、嫌い、興味がない
全体	1245	481	139	365	232	151	55	301	189	94	112
	100.0	38.6	11.2	29.3	18.6	12.1	4.4	24.2	15.2	7.6	9.0
東地区	372	143	42	101	72	59	18	105	73	29	41
	100.0	38.4	11.3	27.2	19.4	15.9	4.8	28.2	19.6	7.8	11.0
西地区	319	120	38	83	59	36	10	87	38	18	25
	100.0	37.6	11.9	26.0	18.5	11.3	3.1	27.3	11.9	5.6	7.8
富岡地区	314	126	27	104	59	25	13	70	44	24	30
	100.0	40.1	8.6	33.1	18.8	8.0	4.1	22.3	14.0	7.6	9.6
須山地区	57	19	7	20	11	6	4	11	10	6	2
	100.0	33.3	12.3	35.1	19.3	10.5	7.0	19.3	17.5	10.5	3.5
深良地区	143	55	20	44	22	18	8	23	18	13	9
	100.0	38.5	14.0	30.8	15.4	12.6	5.6	16.1	12.6	9.1	6.3

（選択肢の「その他」、無回答は非表示）

<経年比較>

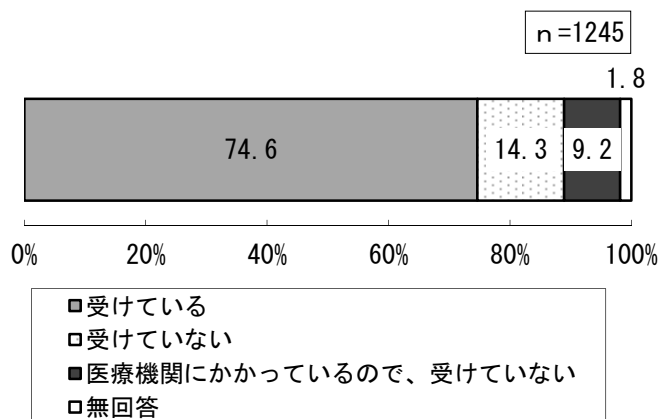
- 経年比較でみても「仕事などで忙しく時間がない」「場所や施設が近くがない」「お金がかかる」の上位3項目は変わらない。



(5) 健康管理について

問9 あなたは、ほぼ毎年、健康診査を受けていますか。(1つに○)

- 健康診査の受診について、毎年「受けている」74.6%、「受けていない」14.3%、「医療機関にかかっているので、受けていない」9.2%。

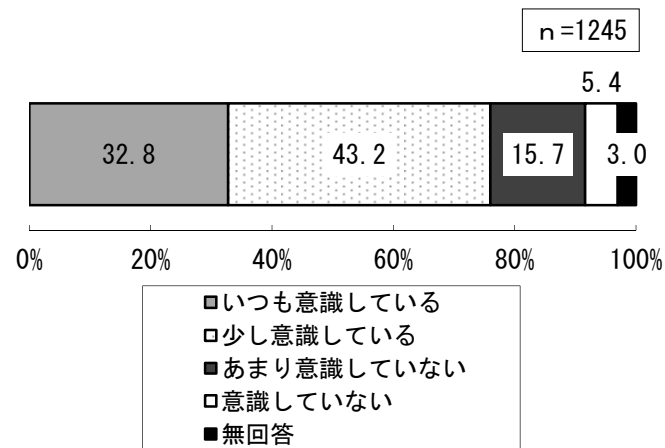


<回答者属性別クロス集計>

- 年齢別でも全体結果と概ね同様の傾向である。

問10 ふだんの生活で健康診査の結果を意識していますか。（1つに○）

- ふだんの生活で健康診査の結果を意識しているかは、「少し意識している」43.2%が最も多く、次いで「いつも意識している」32.8%、「あまり意識していない」15.7%と続く。



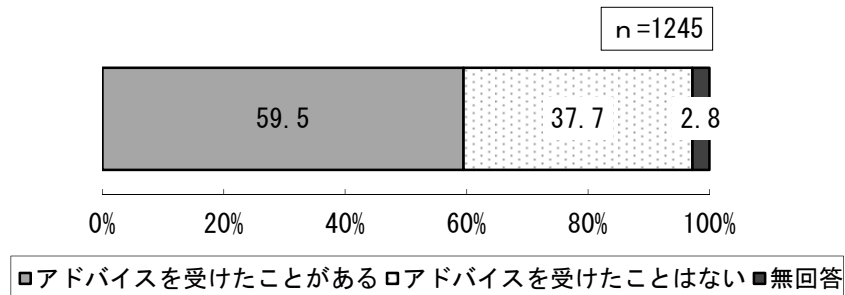
<回答者属性別クロス集計>

- 年齢別でみると64歳以下では「少し意識している」が最も多く、65歳以上では「いつも意識している」が最も多い。

上段：人数（人） 下段：割合（%） 網掛：各項目の第1位	合計	いつも意識している	少し意識している	あまり意識していない	意識していない	無回答
全体	1245	408	538	195	67	37
	100.0	32.8	43.2	15.7	5.4	3.0
20歳～24歳	15	4	7	4	0	0
	100.0	26.7	46.7	26.7	0.0	0.0
25歳～29歳	47	1	25	12	9	0
	100.0	2.1	53.2	25.5	19.1	0.0
30歳～34歳	67	7	28	24	8	0
	100.0	10.4	41.8	35.8	11.9	0.0
35歳～39歳	91	11	46	19	13	2
	100.0	12.1	50.5	20.9	14.3	2.2
40歳～44歳	109	20	57	21	8	3
	100.0	18.3	52.3	19.3	7.3	2.8
45歳～49歳	116	19	69	22	3	3
	100.0	16.4	59.5	19.0	2.6	2.6
50歳～54歳	89	24	48	10	6	1
	100.0	27.0	53.9	11.2	6.7	1.1
55歳～59歳	121	48	50	17	3	3
	100.0	39.7	41.3	14.0	2.5	2.5
60歳～64歳	137	47	65	21	2	2
	100.0	34.3	47.4	15.3	1.5	1.5
65歳～69歳	189	95	62	16	8	8
	100.0	50.3	32.8	8.5	4.2	4.2
70歳以上	248	128	75	27	5	13
	100.0	51.6	30.2	10.9	2.0	5.2

問11 あなたは、健康診査の結果について、医師、保健師、管理栄養士などから説明を受けたり、アドバイスを受けたりしたことがありますか。（1つに○）

- 健康診査の結果について、医師等から説明やアドバイスを受けたことがあるかは、「ある」59.5%、「ない」37.7%。



<回答者属性別クロス集計>

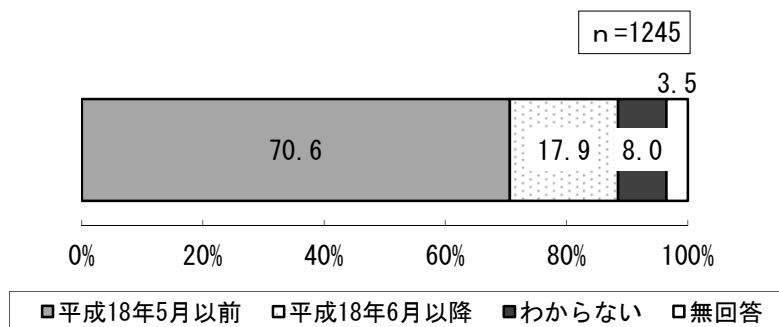
- 年齢別でみると34歳以下では「ない」が最も多く、35歳以上では「ある」が最も多い。

上段：人数（人） 下段：割合（%） 網掛：各項目の第1位	合計	アドバイスを受けたことがある	アドバイスを受けたことはない	無回答
20歳～24歳	15 100.0	4 26.7	11 73.3	0 0.0
25歳～29歳	47 100.0	13 27.7	34 72.3	0 0.0
30歳～34歳	67 100.0	19 28.4	48 71.6	0 0.0
35歳～39歳	91 100.0	50 54.9	40 44.0	1 1.1
40歳～44歳	109 100.0	55 50.5	52 47.7	2 1.8
45歳～49歳	116 100.0	73 62.9	40 34.5	3 2.6
50歳～54歳	89 100.0	56 62.9	32 36.0	1 1.1
55歳～59歳	121 100.0	84 69.4	34 28.1	3 2.5
60歳～64歳	137 100.0	95 69.3	39 28.5	3 2.2
65歳～69歳	189 100.0	128 67.7	57 30.2	4 2.1
70歳以上	248 100.0	157 63.3	76 30.6	15 6.0

(6) 住宅用火災警報器の設置について

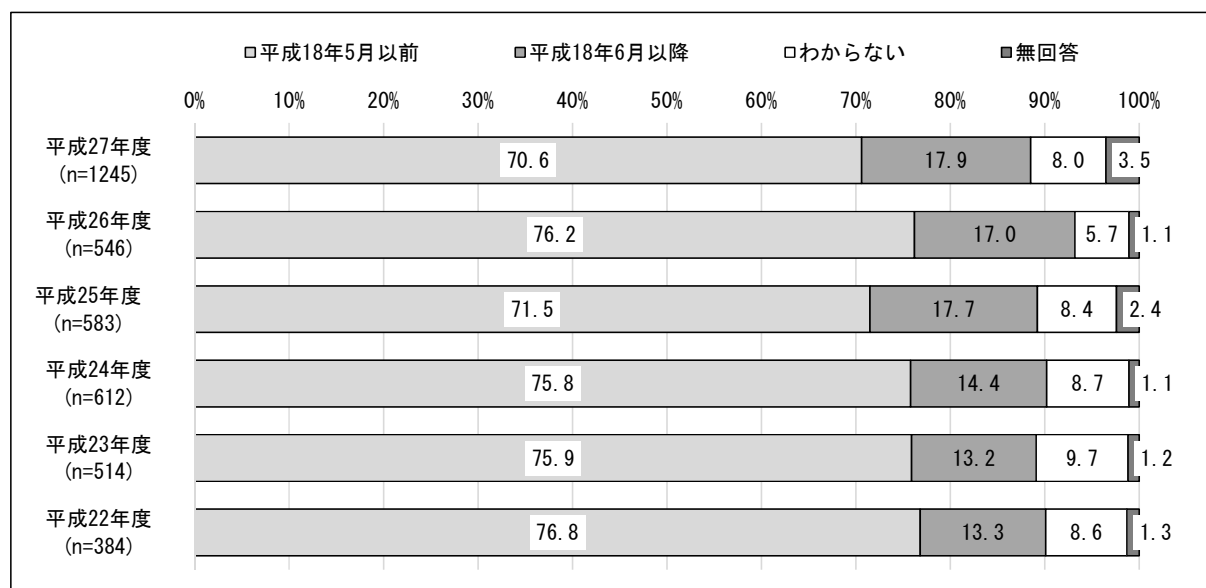
問12 お住まいの住宅（共同住宅等含む）が建てられた時期はいつですか。（1つに○）

- 居住している住宅が建てられた時期は、「平成 18 年 5 月以前」70.6%、「平成 18 年 6 月以降」17.9%「わからない」8.0%。



<経年比較>

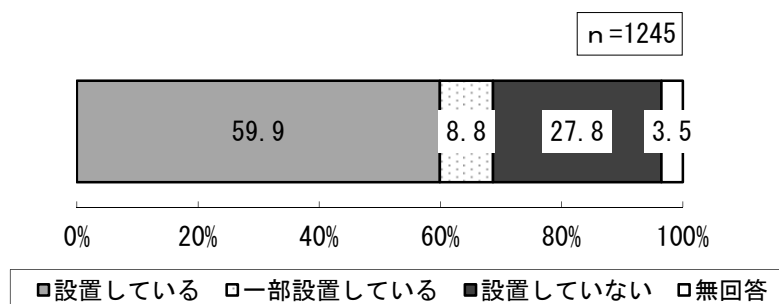
- 経年比較をすると、「平成 18 年 5 月以前」は常に 70%台で推移している。
○ 「平成 18 年 6 月以降」は平成 25 年調査から 17%台で推移している。



問13 平成 21 年 6 月 1 日より、お住まいの住宅（共同住宅等含む）では、「寝室」と「階段（寝室が 2 階以上の階にある場合）」に住宅用火災警報器の設置が義務付けられています。

あなたのお住まいには義務となる場所に住宅用火災警報器が設置されていますか。
（1 つに○）

- 住宅用火災警報器を設置しているかは、「設置している」59.9%、「設置していない」27.8%、「一部設置している」8.8%。
- ライフステージ別でも全体結果と概ね同様の傾向である。



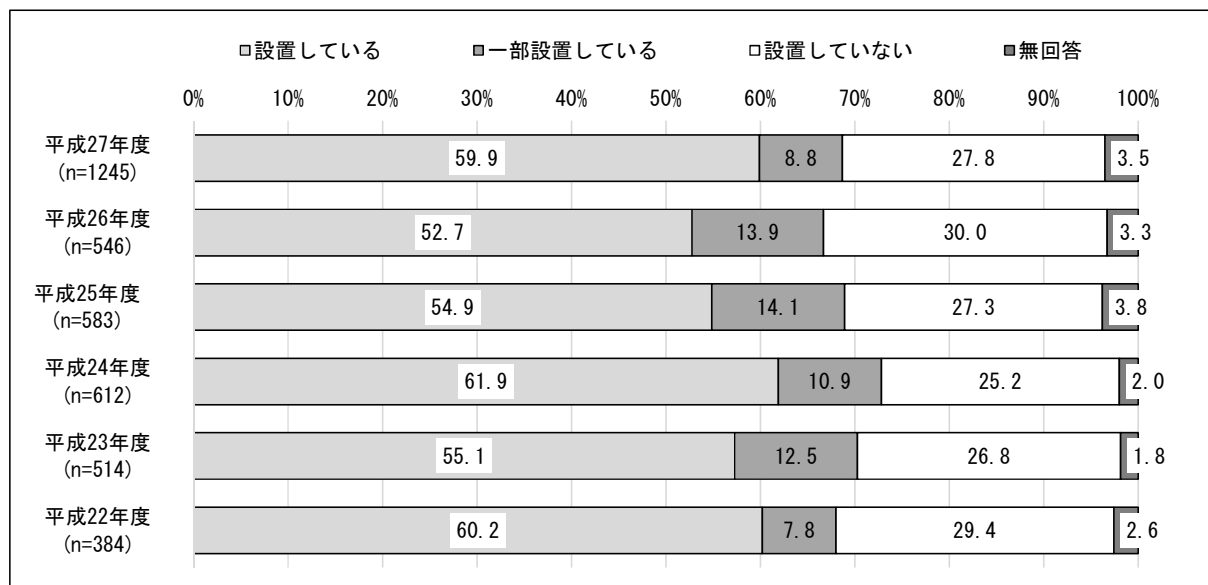
<回答者属性別クロス集計>

- 住居形態別でも全体結果と概ね同様の傾向であるが、一戸建て持ち家（家族名義を含む）、一戸建て借家で「設置していない」がやや多い。

上 段：人数（人） 下 段：割合（%） 網掛け：各項目の第1位	合計	設置して いる	一部設置 している	設置して いない	無回答
全体	1245	746	109	346	44
	100.0	59.9	8.8	27.8	3.5
一戸建て持ち家（家族名義を含む）	933	506	91	306	30
	100.0	54.2	9.8	32.8	3.2
分譲マンション（家族名義を含む）	19	13	2	3	1
	100.0	68.4	10.5	15.8	5.3
一戸建て借家	33	14	3	14	2
	100.0	42.4	9.1	42.4	6.1
民間アパート、民間賃貸マンション	176	138	11	19	8
	100.0	78.4	6.3	10.8	4.5
県営・市営・雇用促進住宅	28	25	0	1	2
	100.0	89.3	0.0	3.6	7.1
社宅、公務員住宅、社員寮	45	43	1	1	0
	100.0	95.6	2.2	2.2	0.0
間借り、住み込み	1	0	1	0	0
	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0
福祉施設、その他	4	3	0	1	0
	100.0	75.0	0.0	25.0	0.0

<経年比較>

- 経年比較でみると、「設置している」は 60%前後、「一部設置している」10%前後、「設置していない」30%前後で推移しており、大きな変化はみられない。

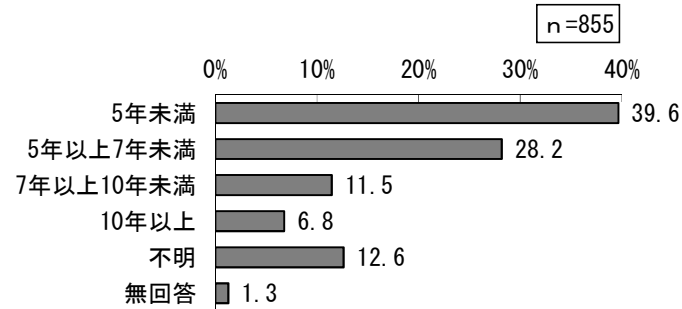


※平成 23 年度調査は選択肢に「わからない」(3.9%)があった(非表示)

問 13-2 問 13 で「1～2（設置または一部設置している）」に○をつけた方のみお答えください。

住宅用火災報知器設置後、何年が経過しましたか。（1 つに○）

- 住宅用火災報知器設置後の経過年数は、「5 年未満」39.6%が最も多く、次いで「5 年以上 7 年未満」28.2%、「不明」12.6%と続く。



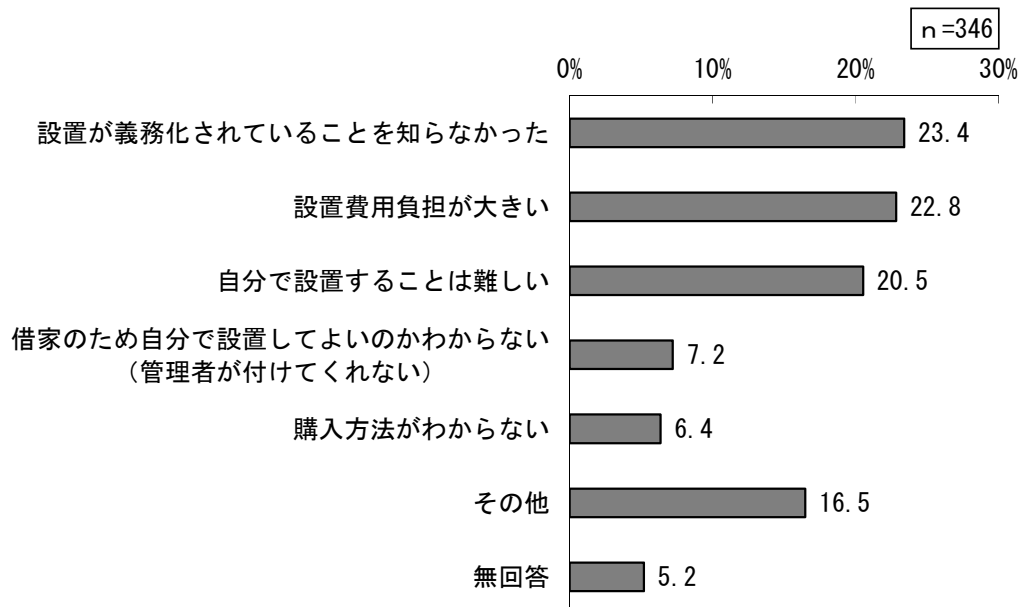
<回答者属性別クロス集計>

- 住居形態別でも全体結果と概ね同様の傾向であるが、分譲マンション（家族名義を含む）では「10 年以上」が最も多く、民間アパート、民間賃貸マンション、社宅、公務員住宅、社員寮では「不明」が最も多い。

	合計	5年未満	5年以上7年未満	7年以上10年未満	10年以上	不明	無回答
全体	855	339	241	98	58	108	11
	100.0	39.6	28.2	11.5	6.8	12.6	1.3
一戸建て持ち家（家族名義を含む）	597	250	200	79	39	22	7
	100.0	41.9	33.5	13.2	6.5	3.7	1.2
分譲マンション（家族名義を含む）	15	2	3	2	7	1	0
	100.0	13.3	20.0	13.3	46.7	6.7	0.0
一戸建て借家	17	8	6	1	0	1	1
	100.0	47.1	35.3	5.9	0.0	5.9	5.9
民間アパート、民間賃貸マンション	149	51	19	11	8	58	2
	100.0	34.2	12.8	7.4	5.4	38.9	1.3
県営・市営・雇用促進住宅	25	10	8	2	0	5	0
	100.0	40.0	32.0	8.0	0.0	20.0	0.0
社宅、公務員住宅、社員寮	44	15	4	2	2	21	0
	100.0	34.1	9.1	4.5	4.5	47.7	0.0
間借り、住み込み	1	1	0	0	0	0	0
	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
福祉施設、その他	3	2	0	0	1	0	0
	100.0	66.7	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0

問 13-3 問 13 で「3（設置していない）」に○をつけた方のみお答えください。
住宅用火災報知器を設置していない理由は何ですか。（1 つに○）

- 住宅用火災報知器を設置していない理由は、「設置が義務化されていることを知らなかった」23.4%が最も多く、次いで「設置費用負担が大きい」22.8%、「自分で設置することは難しい」20.5%と続く。



<回答者属性別クロス集計>

- 回答対象者が少数のため参考データとなるが、住居形態別でみると、一戸建て持ち家（家族名義を含む）では全体結果と概ね同様の傾向である。
- 一戸建て借家、民間アパート、民間賃貸マンションでは「借家のため自分で設置してよいかわからない（管理者が付けてくれない）」が最も多い。

（回答者属性別クロス集計は次ページ参照）

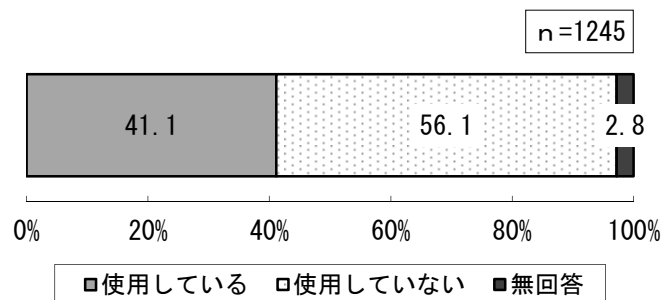
	合計	設置が義務化されていることを知らなかった	設置費用負担が大きい	自分で設置することは難しい	購入方法がわからない	借家のため自分で設置してよいのかわからない（管理者が付けてくれない）	その他	無回答
全体	346	81	79	71	22	25	57	18
	100.0	23.4	22.8	20.5	6.4	7.2	16.5	5.2
一戸建て持ち家（家族名義を含む）	306	76	77	69	22	0	54	14
	100.0	24.8	25.2	22.5	7.2	0.0	17.6	4.6
分譲マンション（家族名義を含む）	3	1	0	0	0	1	0	1
	100.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3
一戸建て借家	14	1	2	2	0	8	0	2
	100.0	7.1	14.3	14.3	0.0	57.1	0.0	14.3
民間アパート、民間賃貸マンション	19	2	0	0	0	14	2	1
	100.0	10.5	0.0	0.0	0.0	73.7	10.5	5.3
県営・市営・雇用促進住宅	1	1	0	0	0	0	0	0
	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
社宅、公務員住宅、社員寮	1	0	0	0	0	1	0	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
間借り、住み込み	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
福祉施設、その他	1	0	0	0	0	0	1	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

（対象者が少数のため、参考掲載）

(7) スマートフォンを活用した新しいサービスについて

問14 スマートフォン（スマホ）を使用していますか。（1つに○）

- スマートフォンの使用について、「使用している」41.1%、「使用していない」56.1%。



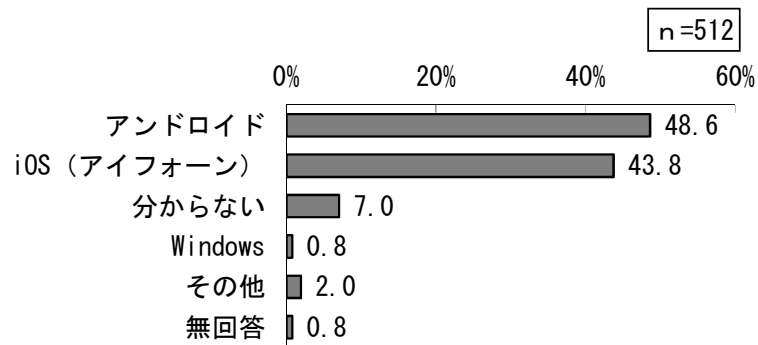
<回答者属性別クロス集計>

- 年齢別でみると、20～54歳では「使用している」が多く、55歳以上では「使用していない」が多い。

上段：人数（人） 下段：割合（%） 網掛：各項目の第1位	合計	使用して いる	使用して いない	無回答
全体	1245	512	698	35
	100.0	41.1	56.1	2.8
20歳～24歳	15	12	3	0
	100.0	80.0	20.0	0.0
25歳～29歳	47	41	6	0
	100.0	87.2	12.8	0.0
30歳～34歳	67	58	9	0
	100.0	86.6	13.4	0.0
35歳～39歳	91	73	18	0
	100.0	80.2	19.8	0.0
40歳～44歳	109	74	34	1
	100.0	67.9	31.2	0.9
45歳～49歳	116	69	47	0
	100.0	59.5	40.5	0.0
50歳～54歳	89	52	36	1
	100.0	58.4	40.4	1.1
55歳～59歳	121	47	71	3
	100.0	38.8	58.7	2.5
60歳～64歳	137	42	94	1
	100.0	30.7	68.6	0.7
65歳～69歳	189	27	153	9
	100.0	14.3	81.0	4.8
70歳以上	248	15	216	17
	100.0	6.0	87.1	6.9

問 14-2 問 14 で「1（使用している）」に○をつけた方のみお答えください。
 お使いのスマホの種類は何ですか。（○はいくつでも）

- 使用中のスマホの種類は、「アンドロイド」48.6%が最も多く、次いで「iOS（アイフォーン）」43.8%、「わからない」7.0%と続く。



<回答者属性別クロス集計>

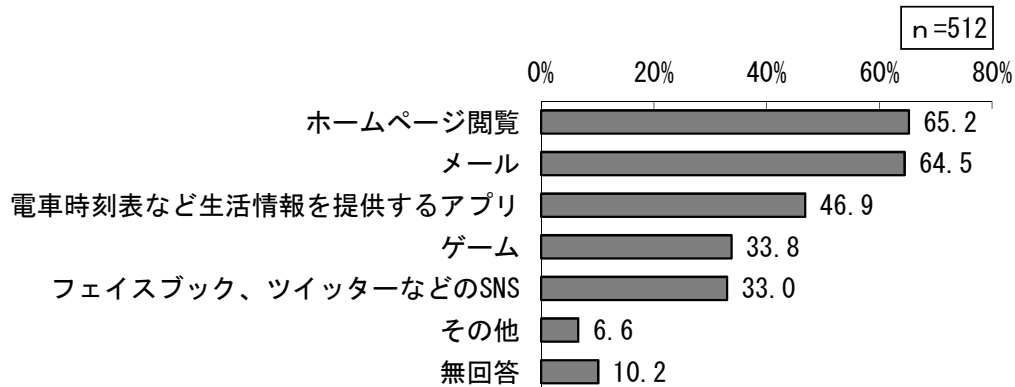
- 年齢別でも全体結果と概ね同様であり、主に「アンドロイド」あるいは「iOS（アイフォーン）」を使用している。

上段：人数（人） 下段：割合（%） 網掛：各項目の第1位	合計	アンドロ イド	iOS（アイ フォーン）	Windows	分からな い	その他	無回答
全体	512 100.0	249 48.6	224 43.8	4 0.8	36 7.0	10 2.0	4 0.8
20歳～24歳	12 100.0	6 50.0	6 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
25歳～29歳	41 100.0	20 48.8	20 48.8	0 0.0	1 2.4	1 2.4	0 0.0
30歳～34歳	58 100.0	29 50.0	26 44.8	0 0.0	3 5.2	2 3.4	0 0.0
35歳～39歳	73 100.0	40 54.8	30 41.1	1 1.4	3 4.1	1 1.4	0 0.0
40歳～44歳	74 100.0	40 54.1	32 43.2	0 0.0	4 5.4	1 1.4	0 0.0
45歳～49歳	69 100.0	34 49.3	37 53.6	1 1.4	1 1.4	0 0.0	0 0.0
50歳～54歳	52 100.0	30 57.7	20 38.5	0 0.0	3 5.8	0 0.0	0 0.0
55歳～59歳	47 100.0	22 46.8	21 44.7	0 0.0	4 8.5	0 0.0	1 2.1
60歳～64歳	42 100.0	13 31.0	17 40.5	0 0.0	11 26.2	1 2.4	1 2.4
65歳～69歳	27 100.0	9 33.3	11 40.7	1 3.7	4 14.8	2 7.4	0 0.0
70歳以上	15 100.0	4 26.7	4 26.7	1 6.7	2 13.3	2 13.3	2 13.3

問 14-3 問 14 で「1（使用している）」に○をつけた方のみお答えください。

通話以外によく利用するサービスは何ですか。（○はいくつでも）

- 通話以外によく利用するサービスは、「ホームページ閲覧」65.2%が最も多く、次いで「メール」64.5%、「電車時刻表など生活情報を提供するアプリ」46.9%と続く。



<回答者属性別クロス集計>

- 年齢別でみると、20～30 歳代は「ホームページ閲覧」が最も多く、また、「フェイスブック、ツイッターなどの SNS」「ゲーム」の利用も比較的多い。

- 40 歳以上は「メール」が最も多い。

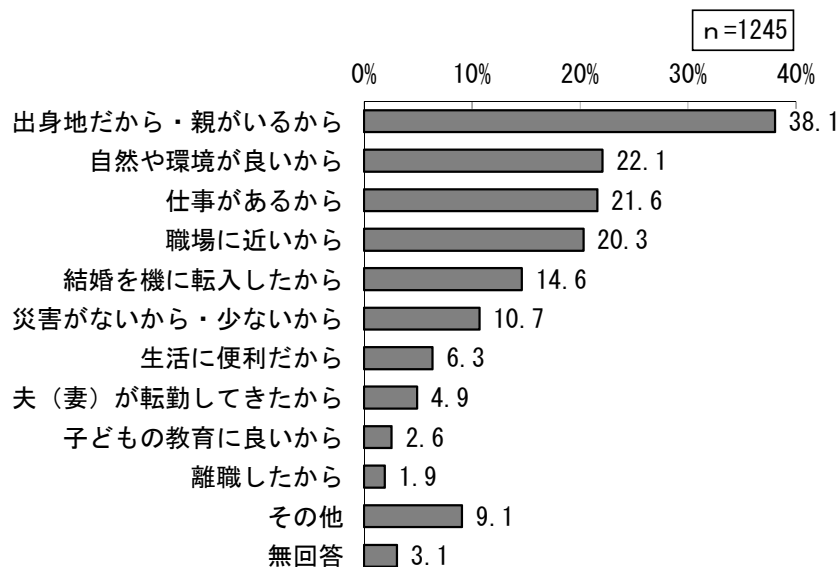
上段：人数（人） 下段：割合（%） 網掛：各項目の第1位	合計	ホーム ページ 閲覧	メール	ゲーム	フェイス ブック、 ツイッ ターな どのSNS	電車時刻 表など生 活情報を 提供する アプリ	その他	無回答
全体	512 100.0	334 65.2	330 64.5	173 33.8	169 33.0	240 46.9	34 6.6	52 10.2
20歳～24歳	12 100.0	9 75.0	3 25.0	7 58.3	5 41.7	5 41.7	1 8.3	2 16.7
25歳～29歳	41 100.0	34 82.9	16 39.0	18 43.9	26 63.4	19 46.3	2 4.9	3 7.3
30歳～34歳	58 100.0	41 70.7	33 56.9	25 43.1	23 39.7	23 39.7	4 6.9	7 12.1
35歳～39歳	73 100.0	57 78.1	50 68.5	32 43.8	30 41.1	32 43.8	7 9.6	3 4.1
40歳～44歳	74 100.0	44 59.5	48 64.9	32 43.2	26 35.1	33 44.6	2 2.7	5 6.8
45歳～49歳	69 100.0	50 72.5	51 73.9	27 39.1	20 29.0	37 53.6	4 5.8	4 5.8
50歳～54歳	52 100.0	31 59.6	37 71.2	12 23.1	18 34.6	26 50.0	4 7.7	7 13.5
55歳～59歳	47 100.0	27 57.4	33 70.2	9 19.1	7 14.9	26 55.3	4 8.5	6 12.8
60歳～64歳	42 100.0	21 50.0	30 71.4	5 11.9	12 28.6	24 57.1	0 0.0	9 21.4
65歳～69歳	27 100.0	16 59.3	18 66.7	4 14.8	2 7.4	12 44.4	2 7.4	2 7.4
70歳以上	15 100.0	4 26.7	11 73.3	1 6.7	0 0.0	3 20.0	4 26.7	3 20.0

(8) 裾野市での暮らしについて

問15 あなたが裾野市で暮らしている最も大きな理由はなんですか。

(〇はいくつでも)

- 〇 裾野市で暮らしている最も大きな理由は、「出身地だから・親がいるから」38.1%が最も多く、次いで「自然や環境が良いから」22.1%、「仕事があるから」21.6%、「職場に近いから」20.3%と続く。



<回答者属性別クロス集計>

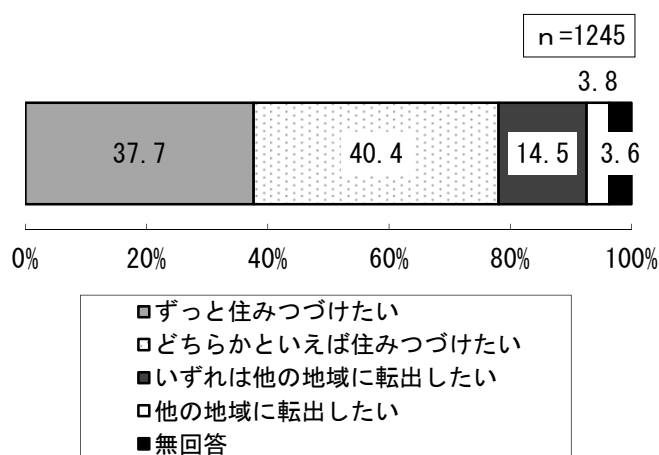
- 〇 ライフステージ別でみると独身期、家族形成期では「仕事があるから」が最も多い。
 〇 家族成長前期、家族成長後期、家族成熟期、その他では「出身地だから・親がいるから」が、高齢期では「自然や環境が良いから」がそれぞれ最も多い。

上段：人数（人） 下段：割合（%） 網掛：各項目の第1位	合計	出身地だから・親がいるから	仕事があるから	夫（妻）が転勤してきたから	職場に近いから	子どもの教育に良いから	生活に便利だから	自然や環境が良いから	災害がないから・少ないから	結婚を機に転入したから	退職したから
全体	1245 100.0	474 38.1	269 21.6	61 4.9	253 20.3	32 2.6	79 6.3	275 22.1	133 10.7	182 14.6	24 1.9
独身期	57 100.0	17 29.8	26 45.6	0 0.0	24 42.1	1 1.8	4 7.0	7 12.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
家族形成期	104 100.0	32 30.8	36 34.6	7 6.7	33 31.7	3 2.9	6 5.8	7 6.7	2 1.9	15 14.4	0 0.0
家族成長前期	136 100.0	70 51.5	33 24.3	5 3.7	32 23.5	12 8.8	3 2.2	24 17.6	4 2.9	19 14.0	2 1.5
家族成長後期	122 100.0	57 46.7	30 24.6	12 9.8	30 24.6	4 3.3	8 6.6	27 22.1	12 9.8	13 10.7	1 0.8
家族成熟期	179 100.0	83 46.4	47 26.3	8 4.5	48 26.8	5 2.8	12 6.7	34 19.0	16 8.9	18 10.1	4 2.2
高齢期	153 100.0	40 26.1	22 14.4	14 9.2	20 13.1	3 2.0	10 6.5	52 34.0	30 19.6	32 20.9	3 2.0
その他	494 100.0	175 35.4	75 15.2	15 3.0	66 13.4	4 0.8	36 7.3	124 25.1	69 14.0	85 17.2	14 2.8

（選択肢の「その他」及び無回答は非表示）

問16 あなたは、これからも裾野市に住みつづけたいと思いますか。（1つに○）

- これからも裾野市に住み続けたいかは、「どちらかといえば住みつづけたい」40.4%が最も多く、次いで「ずっと住みつづけたい」37.7%、「いずれは他の地域に転出したい」14.5%と続く。



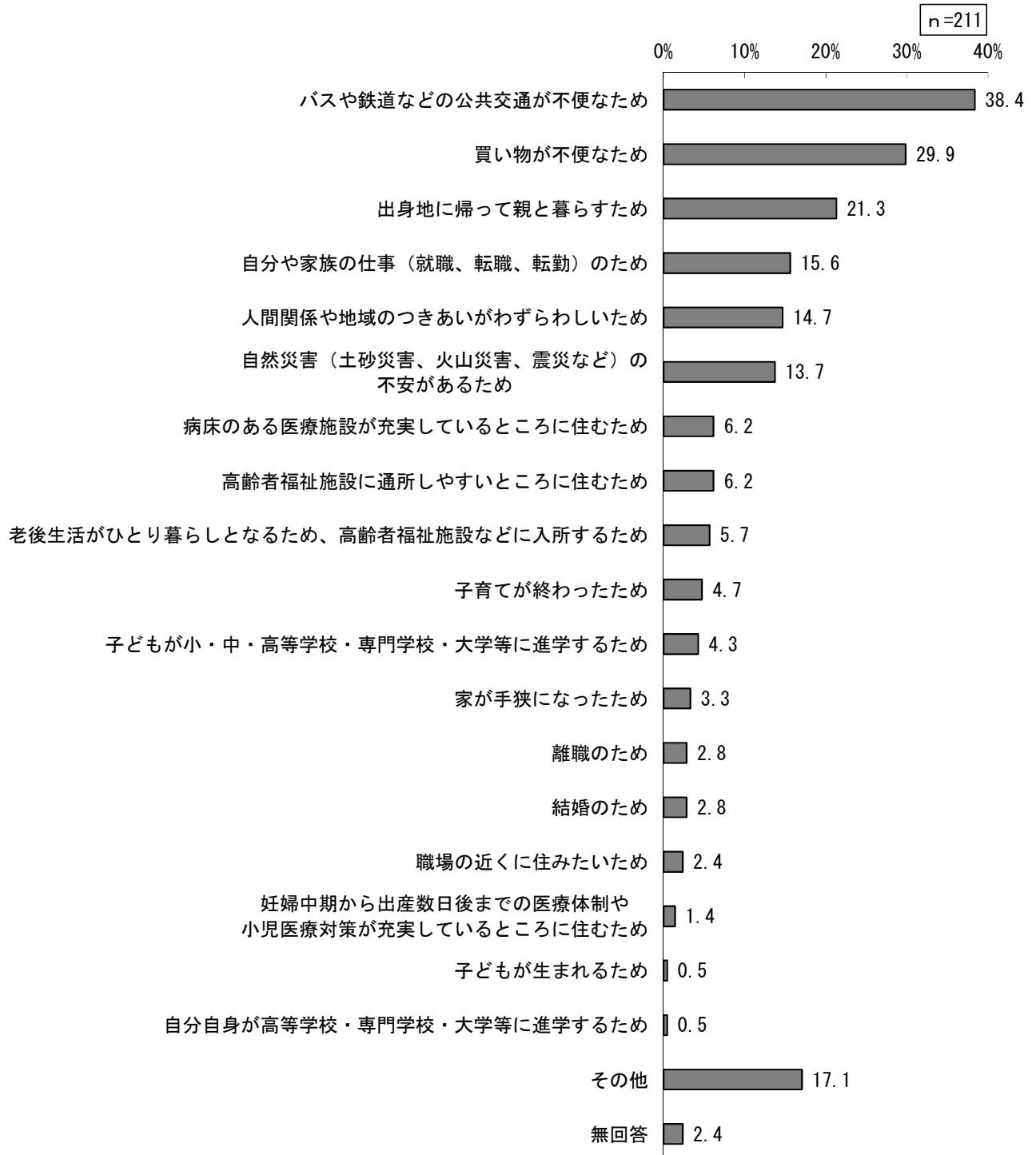
<回答者属性別クロス集計>

- ライフステージ別でみると独身期では「いずれは他の地域に転出したい」が最も多い。
- 家庭を持つ家族形成期、家族成長前期、家族成長後期、家族成熟期では「どちらかといえば住みつづけたい」が最も多く、子どもが巣立った後の高齢期、その他では「ずっと住みつづけたい」が最も多い。

上段：人数（人） 下段：割合（%） 網掛：各項目の第1位	合計	ずっと住みつづけたい	どちらかといえば住みつづけたい	いずれは他の地域に転出したい	他の地域に転出したい	無回答
全体	1245	469	503	181	47	45
	100.0	37.7	40.4	14.5	3.8	3.6
独身期	57	7	21	23	4	2
	100.0	12.3	36.8	40.4	7.0	3.5
家族形成期	104	15	52	33	4	0
	100.0	14.4	50.0	31.7	3.8	0.0
家族成長前期	136	47	58	26	3	2
	100.0	34.6	42.6	19.1	2.2	1.5
家族成長後期	122	37	59	22	3	1
	100.0	30.3	48.4	18.0	2.5	0.8
家族成熟期	179	69	79	21	5	5
	100.0	38.5	44.1	11.7	2.8	2.8
高齢期	153	81	48	11	5	8
	100.0	52.9	31.4	7.2	3.3	5.2
その他	494	213	186	45	23	27
	100.0	43.1	37.7	9.1	4.7	5.5

問 16-2 前問で「3～4（転出希望）」に○をつけた方のみお答えください。
その主な理由は何ですか。（主なもの3つまでに○）

- 転出したい理由は「バスや鉄道などの公共交通が不便なため」38.4%が最も多く、次いで「買い物が不便なため」29.9%、「出身地に帰って親と暮らすため」21.3%と続く。



注：指定数以上の回答をした票を除いて集計

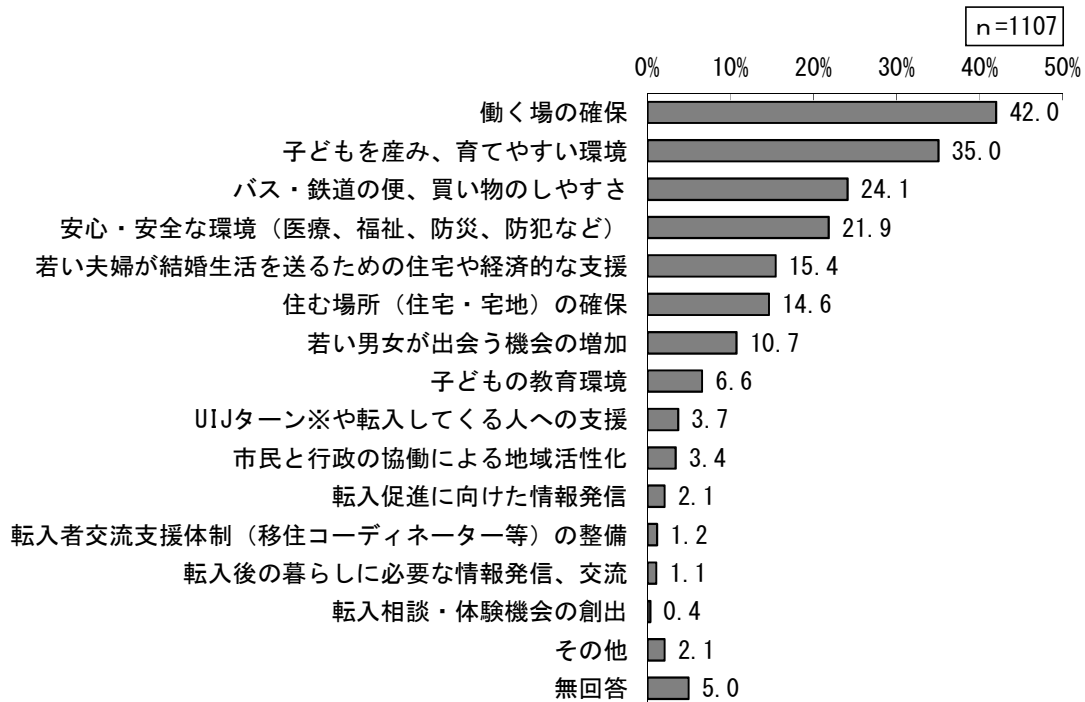
＜回答者属性別クロス集計＞

- ライフステージ別でも上位項目は全体結果と概ね同様だが、家族形成期では「自分や家族の仕事（就職、転職、転勤）のため」が最も多い。

	第 1 位	第 2 位	第 3 位
独身期	バスや鉄道などの公共交通が不便なため 50.0	出身地に帰って親と暮らすため 買い物が不便なため 34.6	
家族形成期	自分や家族の仕事（就職、転職、転勤）のため 37.1	出身地に帰って親と暮らすため 28.6	買い物が不便なため バスや鉄道などの公共交通が不便なため 25.7
家族成長前期	バスや鉄道などの公共交通が不便なため 40.7	出身地に帰って親と暮らすため 買い物が不便なため 25.9	
家族成長後期	バスや鉄道などの公共交通が不便なため その他 29.2		出身地に帰って親と暮らすため 買い物が不便なため 25.0
家族成熟期	バスや鉄道などの公共交通が不便なため 45.8	買い物が不便なため 自然災害（土砂災害、火山災害、震災など）の不安があるため 25.0	
高齢期	バスや鉄道などの公共交通が不便なため 62.5	買い物が不便なため 50.0	その他 25.0
その他	バスや鉄道などの公共交通が不便なため 33.9	買い物が不便なため 30.5	人間関係や地域のつきあいがわずらわしいため 28.8

問17 市の人口増加に向けて重要な取り組みは何だと思いますか。（主なもの2つまでに○）

- 市の人口増加に向けて重要だと思う取り組みは、「働く場の確保」42.0%が最も多く、次いで「子どもを産み、育てやすい環境」35.0%、「バス・鉄道の便、買い物のしやすさ」24.1%と続く。



注：指定数以上の回答をした票を除いて集計

※Uターンは地方から都会に移住し、生まれ故郷の地方に戻る。Iターンは生まれ故郷とは別の地方へ移住すること。Jターンは地方から都会に移住し、生まれ故郷に近い地方に戻る。

<回答者属性別クロス集計>

- ライフステージ別でみると独身期では「バス・鉄道の便、買い物のしやすさ」が最も多い。
- 小さい子どもを持つ家族形成期、家族成長前期では「子どもを産み、育てやすい環境」が最も多く、家族成長後期、家族成熟期、高齢期、その他では「働く場の確保」が最も多い。

上段：人数（人） 下段：割合（%） 網掛：各項目の第1位	合計	若い男女 が会える 機会の増 加	若い夫婦 が結婚生 活を送る ための住 宅や経済 的な支援	働く場の 確保	子どもを 産み、育 てやすい 環境	住む場所 （住宅・ 宅地）の 確保	バス・鉄 道の便、 買い物の しやすさ	安心・安 全な環境 （医療、 福祉、防 災、防犯 など）
全体	1107 100.0	119 10.7	171 15.4	465 42.0	388 35.0	162 14.6	267 24.1	242 21.9
独身期	45 100.0	10 22.2	12 26.7	14 31.1	15 33.3	3 6.7	22 48.9	8 17.8
家族形成期	83 100.0	8 9.6	17 20.5	27 32.5	48 57.8	7 8.4	21 25.3	8 9.6
家族成長前期	118 100.0	5 4.2	19 16.1	37 31.4	60 50.8	20 16.9	31 26.3	26 22.0
家族成長後期	108 100.0	6 5.6	16 14.8	45 41.7	37 34.3	24 22.2	27 25.0	17 15.7
家族成熟期	156 100.0	12 7.7	14 9.0	76 48.7	61 39.1	22 14.1	43 27.6	38 24.4
高齢期	143 100.0	17 11.9	17 11.9	69 48.3	45 31.5	21 14.7	37 25.9	29 20.3
その他	454 100.0	61 13.4	76 16.7	197 43.4	122 26.9	65 14.3	86 18.9	116 25.6

（全体結果が 10%未満の項目は非表示）

(9) 家族の希望モデルを実現するために

家族の希望モデル（お父さん、お母さん、子ども3人）

- ◆ 【20～49歳の方におうかがいします】
- ◆ 【結婚していない方、お子さんがいない方も、できる限り、お答えください。】

問18 「家族の希望モデル（お父さん、お母さん、子ども3人）」を実現する場合、宅地（敷地）の広さはどのくらいを希望しますか。（1つに○）

- 「家族の希望モデル」の実現のために、希望する必要な宅地の広さは、「60～70坪」34.6%が最も多く、次いで「70～80坪」27.4%、「80～100坪」16.9%と続く。



<回答者属性別クロス集計>

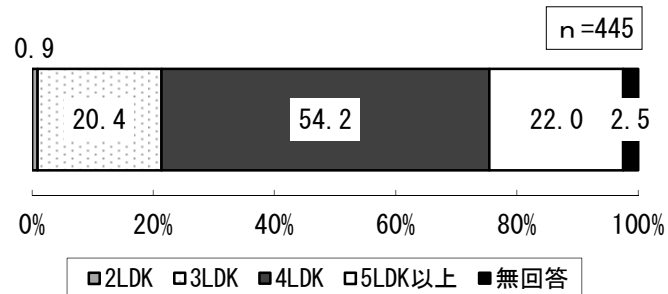
- ライフステージ別でみると独身期、家族形成期では「70～80坪」が最も多い。
- 家族成長前期、家族成長後期、家族成熟期、その他では「60～70坪」が最も多い。

上段：人数（人） 下段：割合（%） 網掛：各項目の第1位	合計	60坪未満	60～70坪	70～80坪	80～100坪	100坪以上	無回答
独身期	57	2	17	25	8	1	4
	100.0	3.5	29.8	43.9	14.0	1.8	7.0
家族形成期	102	13	26	30	25	5	3
	100.0	12.7	25.5	29.4	24.5	4.9	2.9
家族成長前期	126	14	51	32	17	8	4
	100.0	11.1	40.5	25.4	13.5	6.3	3.2
家族成長後期	74	14	25	20	14	1	0
	100.0	18.9	33.8	27.0	18.9	1.4	0.0
家族成熟期	25	5	13	5	1	0	1
	100.0	20.0	52.0	20.0	4.0	0.0	4.0
その他	61	7	22	10	10	4	8
	100.0	11.5	36.1	16.4	16.4	6.6	13.1

（対象者が少数のため、参考掲載）

問19 「家族の希望モデル（お父さん、お母さん、子ども3人）」を実現する場合、住居の広さはどのくらいを希望しますか。（1つに○）

- 「家族の希望モデル」の実現のために、希望する住居の広さは、「4LDK」54.2%が最も多く、次いで「5LDK以上」22.0%、「3LDK」20.4%と続く。



<回答者属性別クロス集計>

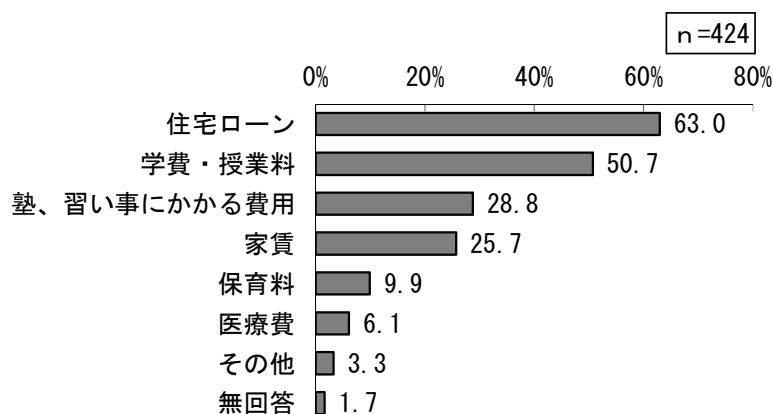
- ライフステージ別でも全体結果と概ね同様の傾向である。

	合計	2LDK	3LDK	4LDK	5LDK以上	無回答	非該当
独身期	57	0	20	26	9	2	0
	100.0	0.0	35.1	45.6	15.8	3.5	
家族成長期	102	2	19	56	25	0	2
	100.0	2.0	18.6	54.9	24.5	0.0	
家族成長前期	126	0	22	71	33	0	10
	100.0	0.0	17.5	56.3	26.2	0.0	
家族成長後期	74	0	12	44	17	1	48
	100.0	0.0	16.2	59.5	23.0	1.4	
家族成熟期	25	0	5	15	4	1	154
	100.0	0.0	20.0	60.0	16.0	4.0	
高齢期	0	0	0	0	0	0	153
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
その他	61	2	13	29	10	7	433
	100.0	3.3	21.3	47.5	16.4	11.5	

（対象者が少数のため、参考掲載）

問20 「家族の希望モデル（お父さん、お母さん、子ども3人）」を実現する場合、経済的に負担を感じることは何ですか（何だと思いませんか）。（主なもの2つまでに○）

- 「家族の希望モデル」を実現する場合、経済的に負担を感じると思うことは、「住宅ローン」63.0%が最も多く、次いで「学費・授業料」50.7%、「塾、習い事にかかる費用」28.8%、「家賃」25.7%と続く。



注：指定数以上の回答をした票を除いて集計

<回答者属性別クロス集計>

- ライフステージ別でみると独身期では「学費・授業料」が最も多い。
 ○ 家族形成期、家族成長前期、家族成長後期、その他では「住宅ローン」が最も多い。
 ○ 家族成熟期では「学費・授業料」と「住宅ローン」が最も多い。

上段：人数（人） 下段：割合（%） 網掛：各項目の第1位	合計	家賃	住宅ローン	保育料	学費・授業料	医療費	塾、習い事にかかる費用
全体	424	109	267	42	215	26	122
	100.0	25.7	63.0	9.9	50.7	6.1	28.8
独身期	53	17	29	3	36	6	9
	100.0	32.1	54.7	5.7	67.9	11.3	17.0
家族形成期	91	28	65	20	42	3	15
	100.0	30.8	71.4	22.0	46.2	3.3	16.5
家族成長前期	123	28	73	13	51	6	55
	100.0	22.8	59.3	10.6	41.5	4.9	44.7
家族成長後期	73	9	54	3	43	3	24
	100.0	12.3	74.0	4.1	58.9	4.1	32.9
家族成熟期	25	8	15	1	15	1	5
	100.0	32.0	60.0	4.0	60.0	4.0	20.0
その他	59	19	31	2	28	7	14
	100.0	32.2	52.5	3.4	47.5	11.9	23.7

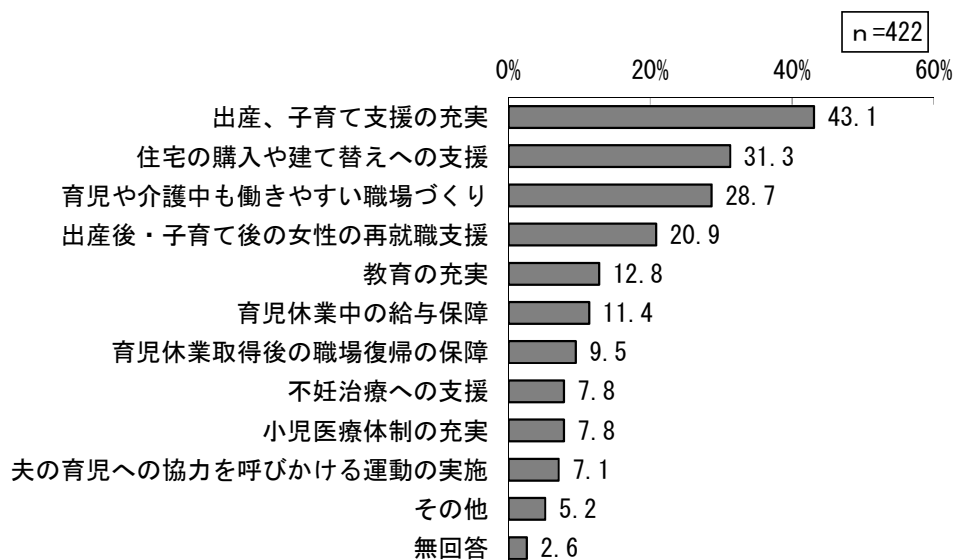
（選択肢の「その他」及び無回答は非表示）

(10) 子育て環境について

- ◆ 【中学生までのお子さまがいらっしゃる方におうかがいします】
- ◆ 【結婚していない方、お子さんがいない方も、できる限り、お答えください。】

問21 「家族の希望モデル（お父さん、お母さん、子ども3人）」を実現するために何が必要だと思いますか。（主なもの2つまでに○）

- 「家族の希望モデル」の実現のために必要だと思うことは、「出産、子育て支援の充実」43.1%、「住宅の購入や建て替えへの支援」31.3%、「育児や介護中でも働きやすい職場づくり」28.7%と続く。



注：指定数以上の回答をした票を除いて集計

<回答者属性別クロス集計>

- ライフステージ別でみると全体結果と概ね同様だが、家族成長後期では「住宅の購入や建て替えへの支援」が最も多い。

上段：人数（人） 下段：割合（%） 網掛：各項目の第1位	合計	不妊治療 への支援	小児医療 体制の充 実	出産、子 育て支援 の充実	教育の充 実	住宅の購 入や建て 替えへの 支援	夫の育児 への協力を 呼びかけ る運動の 実施	育児や介 護中でも働 きやすい 職場づく り	育児休業 中の給与 保障	育児休業 取得後の 職場復帰 の保障	出産後・ 子育て後 の女性の 再就職支 援
全体	422	33	33	182	54	132	30	121	48	40	88
	100.0	7.8	7.8	43.1	12.8	31.3	7.1	28.7	11.4	9.5	20.9
独身期	53	2	2	21	4	18	4	17	10	5	12
	100.0	3.8	3.8	39.6	7.5	34.0	7.5	32.1	18.9	9.4	22.6
家族形成期	91	11	6	54	11	33	8	15	10	7	17
	100.0	12.1	6.6	59.3	12.1	36.3	8.8	16.5	11.0	7.7	18.7
家族成長前期	119	8	11	46	17	36	11	41	11	14	24
	100.0	6.7	9.2	38.7	14.3	30.3	9.2	34.5	9.2	11.8	20.2
家族成長後期	73	4	7	28	11	29	4	26	3	2	21
	100.0	5.5	9.6	38.4	15.1	39.7	5.5	35.6	4.1	2.7	28.8
家族成熟期	25	0	2	13	4	5	0	8	5	3	4
	100.0	0.0	8.0	52.0	16.0	20.0	0.0	32.0	20.0	12.0	16.0
その他	61	8	5	20	7	11	3	14	9	9	10
	100.0	13.1	8.2	32.8	11.5	18.0	4.9	23.0	14.8	14.8	16.4

（選択肢の「その他」及び無回答は非表示）

問22 次の項目は、子育てをする場所として裾野市にお住まいの理由に当てはまりますか。（項目ごと1つに○）

- 子育てをする場所として裾野市を居住地とする理由に当てはまるかについて、7項目中6項目で「当てはまる」が多い。
- 「元々、（父もしくは母が）裾野市の出身だから」では「当てはまらない」が多い。

n=464

上 段：人数（人）

下 段：割合（%）

網掛け：各項目の第1位

		当てはまる	当てはまらない	無回答
1	自然があり子育てに適した環境だから	239 51.5	72 15.5	153 33.0
2	子育て支援に関するサービスが充実しているから	153 33.0	143 30.8	168 36.2
3	職場への通勤に便利だから	207 44.6	100 21.6	157 33.8
4	社宅もしくは持ち家があるから	218 47.0	92 19.8	154 33.2
5	近くにいる祖父母や友人などから育児協力が得られるから	182 39.2	127 27.4	155 33.4
6	元々、（父もしくは母が）裾野市の出身だから	132 28.4	179 38.6	153 33.0
7	医療体制（小児科、救急医療等）が充実しているから	184 39.7	123 26.5	157 33.8

<回答者属性別クロス集計>

- ライフステージ別でみると、「問 22-4 社宅もしくは持ち家があるから」については全体結果と概ね同様だが、以下の設問については全体結果とやや異なる結果である。

■問 22-1 自然があり子育てに適した環境だから

- ライフステージ別でみると全体結果と概ね同様だが、家族成熟期では「当てはまる」と「当てはまらない」が同じである。

上段：人数（人） 下段：割合（%） 網掛：各項目の第1位	合計	当てはまる	当てはまらない	無回答
全体	464 100.0	239 51.5	72 15.5	153 33.0
独身期	57 100.0	17 29.8	8 14.0	32 56.1
家族形成期	104 100.0	65 62.5	18 17.3	21 20.2
家族成長前期	136 100.0	97 71.3	31 22.8	8 5.9
家族成長後期	45 100.0	36 80.0	7 15.6	2 4.4
家族成熟期	6 100.0	3 50.0	3 50.0	0 0.0

（対象者が少数のため、参考掲載。ライフステージの「その他」は無回答が多いため非表示）

■問 22-2 子育て支援に関するサービスが充実しているから

- ライフステージ別でみると全体結果と概ね同様だが、独身期では「当てはまらない」が多い。

上段：人数（人） 下段：割合（%） 網掛：各項目の第1位	合計	当てはまる	当てはまらない	無回答
全体	464 100.0	153 33.0	143 30.8	168 36.2
独身期	57 100.0	10 17.5	12 21.1	35 61.4
家族形成期	104 100.0	41 39.4	39 37.5	24 23.1
家族成長前期	136 100.0	64 47.1	63 46.3	9 6.6
家族成長後期	45 100.0	25 55.6	15 33.3	5 11.1
家族成熟期	6 100.0	4 66.7	2 33.3	0 0.0

（対象者が少数のため、参考掲載。ライフステージの「その他」は無回答が多いため非表示）

■問 22-3 職場への通勤に便利だから

- ライフステージ別でみると全体結果と概ね同様だが、家族成熟期では「当てはまらない」が多い。

上段：人数（人） 下段：割合（%） 網掛：各項目の第1位	合計	当てはまる	当てはまらない	無回答
全体	464 100.0	207 44.6	100 21.6	157 33.8
独身期	57 100.0	16 28.1	8 14.0	33 57.9
家族形成期	104 100.0	57 54.8	27 26.0	20 19.2
家族成長前期	136 100.0	83 61.0	44 32.4	9 6.6
家族成長後期	45 100.0	30 66.7	12 26.7	3 6.7
家族成熟期	6 100.0	2 33.3	4 66.7	0 0.0

（対象者が少数のため、参考掲載。ライフステージの「その他」は無回答が多いため非表示）

■問 22-5 近くにいる祖父母や友人などから育児協力が得られるから

- ライフステージ別でみると全体結果と概ね同様だが、独身期では「当てはまらない」が多い。
- 家族成熟期では「当てはまる」と「当てはまらない」が同じである。

上段：人数（人） 下段：割合（%） 網掛：各項目の第1位	合計	当てはまる	当てはまらない	無回答
全体	464 100.0	182 39.2	127 27.4	155 33.4
独身期	57 100.0	9 15.8	15 26.3	33 57.9
家族形成期	104 100.0	42 40.4	41 39.4	21 20.2
家族成長前期	136 100.0	88 64.7	42 30.9	6 4.4
家族成長後期	45 100.0	26 57.8	16 35.6	3 6.7
家族成熟期	6 100.0	3 50.0	3 50.0	0 0.0

（対象者が少数のため、参考掲載。ライフステージの「その他」は無回答が多いため非表示）

■問 22-6 元々、（父もしくは母が）裾野市の出身だから

- ライフステージ別でみると、独身期、家族形成期では「当てはまらない」が多く、家族成長前期、家族成長後期、家族成熟期では「当てはまる」が多い。

上段：人数（人） 下段：割合（%） 網掛：各項目の第1位	合計	当てはまる	当てはまらない	無回答
全体	464	132	179	153
	100.0	28.4	38.6	33.0
独身期	57	6	19	32
	100.0	10.5	33.3	56.1
家族形成期	104	23	59	22
	100.0	22.1	56.7	21.2
家族成長前期	136	67	64	5
	100.0	49.3	47.1	3.7
家族成長後期	45	22	19	4
	100.0	48.9	42.2	8.9
家族成熟期	6	4	2	0
	100.0	66.7	33.3	0.0

（対象者が少数のため、参考掲載。ライフステージの「その他」は無回答が多いため非表示）

■問 22-7 医療体制（小児科、救急医療等）が充実しているから

- ライフステージ別でみると全体結果と概ね同様だが、独身期では「当てはまらない」が多い。
- 家族成熟期では「当てはまる」と「当てはまらない」が同じである。

上段：人数（人） 下段：割合（%） 網掛：各項目の第1位	合計	当てはまる	当てはまらない	無回答
全体	464	184	123	157
	100.0	39.7	26.5	33.8
独身期	57	10	14	33
	100.0	17.5	24.6	57.9
家族形成期	104	46	34	24
	100.0	44.2	32.7	23.1
家族成長前期	136	77	53	6
	100.0	56.6	39.0	4.4
家族成長後期	45	30	12	3
	100.0	66.7	26.7	6.7
家族成熟期	6	3	3	0
	100.0	50.0	50.0	0.0

（対象者が少数のため、参考掲載。ライフステージの「その他」は無回答が多いため非表示）

問23 次に示す裾野市内での取組み等の中で、裾野市で子育てをするにあたり魅力的だと感じますか。（項目ごとに1つ○）

- 裾野市で子育てをするにあたり魅力的に感じる市の取り組みについて、12項目中11項目で「当てはまる」が多い。
- 「母親クラブの活動」では「当てはまらない」が多い。

n=464

上 段：人数（人）

下 段：割合（%）

網掛け：各項目の第1位

		当てはまる	当てはまらない	無回答
1	妊娠に関わる費用助成（不妊治療費・妊婦健康診査費用）	181 39.0	102 22.0	181 39.0
2	母子健康手帳交付時の個別面接	157 33.8	122 26.3	185 39.9
3	妊婦を対象とした教室（パパママスクール）	170 36.6	111 23.9	183 39.4
4	乳幼児・子ども医療費助成	250 53.9	37 8.0	177 38.1
5	生後4か月までの赤ちゃん訪問	182 39.2	99 21.3	183 39.4
6	子育てに関する相談や教室（乳幼児健康相談、育児教室等）	210 45.3	70 15.1	184 39.7
7	予防接種の費用助成	264 56.9	27 5.8	173 37.3
8	乳児健康診査の費用助成（4か月・10か月児健康診査）	247 53.2	34 7.3	183 39.4
9	保育園での一時預かり	217 46.8	66 14.2	181 39.0
10	私立幼稚園就園奨励費補助	186 40.1	94 20.3	184 39.7
11	放課後児童室での児童の預かり	223 48.1	60 12.9	181 39.0
12	母親クラブの活動	120 25.9	156 33.6	188 40.5

<回答者属性別クロス集計>

- ライフステージ別でみると各項目とも全体結果と概ね同様だが、以下の設問については全体結果とやや異なる結果である。

■問 23-2 母子健康手帳交付時の個別面接

- ライフステージ別でみると全体結果と概ね同様だが、家族成長後期、家族成熟期では「当てはまらない」が多い。

上段：人数（人） 下段：割合（%） 網掛：各項目の第1位	合計	当てはまる	当てはまらない	無回答
全体	464 100.0	157 33.8	122 26.3	185 39.9
独身期	57 100.0	11 19.3	9 15.8	37 64.9
家族形成期	104 100.0	50 48.1	25 24.0	29 27.9
家族成長前期	136 100.0	64 47.1	58 42.6	14 10.3
家族成長後期	45 100.0	20 44.4	22 48.9	3 6.7
家族成熟期	6 100.0	2 33.3	4 66.7	0 0.0

（対象者が少数のため、参考掲載。ライフステージの「その他」は無回答が多いため非表示）

■問 23-3 妊婦を対象とした教室（パパママスクール）

- ライフステージ別でみると全体結果と概ね同様だが、家族成熟期では「当てはまらない」が多い。

上段：人数（人） 下段：割合（%） 網掛：各項目の第1位	合計	当てはまる	当てはまらない	無回答
全体	464 100.0	170 36.6	111 23.9	183 39.4
独身期	57 100.0	14 24.6	6 10.5	37 64.9
家族形成期	104 100.0	50 48.1	27 26.0	27 26.0
家族成長前期	136 100.0	69 50.7	53 39.0	14 10.3
家族成長後期	45 100.0	26 57.8	16 35.6	3 6.7
家族成熟期	6 100.0	2 33.3	4 66.7	0 0.0

（対象者が少数のため、参考掲載。ライフステージの「その他」は無回答が多いため非表示）

■問 23-5 生後 4 か月までの赤ちゃん訪問

- ライフステージ別でみると全体結果と概ね同様だが、家族成長後期では「当てはまらない」が多い。
- 家族成熟期では「当てはまる」と「当てはまらない」が同じである。

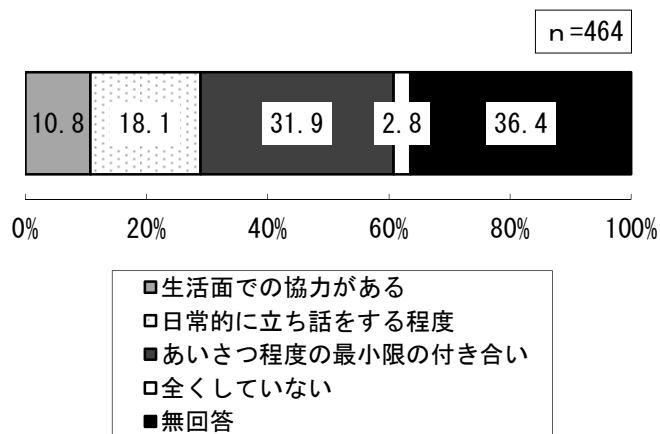
上段：人数（人） 下段：割合（%） 網掛：各項目の第1位	合計	当てはまる	当てはまらない
全体	464 100.0	182 39.2	99 21.3
独身期	57 100.0	14 24.6	6 10.5
家族形成期	104 100.0	54 51.9	22 21.2
家族成長前期	136 100.0	80 58.8	43 31.6
家族成長後期	45 100.0	20 44.4	21 46.7
家族成熟期	6 100.0	3 50.0	3 50.0

（対象者が少数のため、参考掲載。ライフステージの「その他」は無回答が多いため非表示）

問24 近所や友人等との付き合いについてお聞きます。（○は1つ）

①近所との付き合いの程度

- 近所との付き合いの程度は、「あいさつ程度の最小限の付き合い」31.9%が最も多く、次いで「日常的に立ち話をする程度」18.1%、「生活面での協力がある」10.8%と続く。（「その他」を除く）



<回答者属性別クロス集計>

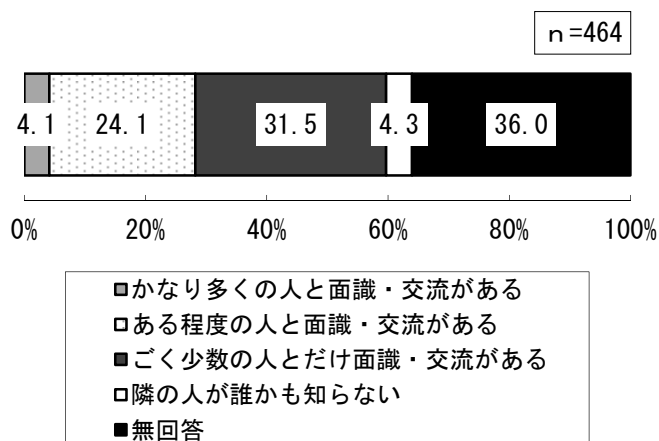
- 地区別でみても全体結果と概ね同様だが、須山地区では「日常的に立ち話をする程度」が最も多い。
- ライフステージ別でみても全体結果と概ね同様だが、家族成長後期、家族成熟期では「日常的に立ち話をする程度」が最も多い。

上段：人数（人） 下段：割合（%） 網掛：各項目の第1位	合計	生活面での 協力が ある	日常的に 立ち話を する程度	あいさつ 程度の最 小限の付 き合い	全くして いない
全体	464	50	84	148	13
	100.0	10.8	18.1	31.9	2.8
東地区	139	8	22	46	6
	100.0	5.8	15.8	33.1	4.3
西地区	130	12	27	52	4
	100.0	9.2	20.8	40.0	3.1
富岡地区	103	18	22	27	1
	100.0	17.5	21.4	26.2	1.0
須山地区	19	4	5	3	0
	100.0	21.1	26.3	15.8	0.0
深良地区	54	8	8	19	0
	100.0	14.8	14.8	35.2	0.0
独身期	57	2	1	13	4
	100.0	3.5	1.8	22.8	7.0
家族形成期	104	9	19	45	4
	100.0	8.7	18.3	43.3	3.8
家族成長前期	136	30	36	64	2
	100.0	22.1	26.5	47.1	1.5
家族成長後期	45	7	20	14	1
	100.0	15.6	44.4	31.1	2.2
家族成熟期	6	1	3	1	0
	100.0	16.7	50.0	16.7	0.0
その他	116	1	5	11	2
	100.0	0.9	4.3	9.5	1.7

（対象者が少数のため、参考掲載。「無回答」は非表示）

②近所で付き合いのある人の数

- 近所で付き合いのある人の数は、「ごく少数の人とだけ面識・交流がある」31.5%が最も多く、次いで「ある程度の人と面識・交流がある」24.1%、「隣の人が誰かも知らない」4.3%と続く。（「その他」を除く）



<回答者属性別クロス集計>

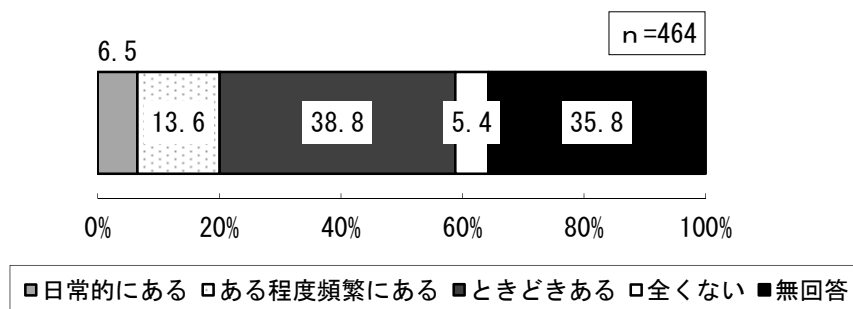
- 地区別でみると富岡地区、須山地区、深良地区では「ある程度の人と面識・交流がある」が最も多い。
- ライフステージ別でみると全体結果と概ね同様だが、家族成長後期、家族成熟期では「ある程度の人と面識・交流がある」が最も多い。

上段：人数（人） 下段：割合（%） 網掛：各項目の第1位	合計	かなり多 くの人と 面識・交 流がある	ある程 度の人と 面識・交 流がある	ごく少 数の人 とだけ 面識・ 交流 がある	隣の 人が 誰か も知 らない
全体	464 100.0	19 4.1	112 24.1	146 31.5	20 4.3
東地区	139 100.0	2 1.4	26 18.7	51 36.7	4 2.9
西地区	130 100.0	6 4.6	31 23.8	49 37.7	9 6.9
富岡地区	103 100.0	5 4.9	32 31.1	30 29.1	2 1.9
須山地区	19 100.0	2 10.5	6 31.6	2 10.5	2 10.5
深良地区	54 100.0	4 7.4	17 31.5	13 24.1	1 1.9
独身期	57 100.0	0 0.0	5 8.8	10 17.5	6 10.5
家族形成期	104 100.0	2 1.9	21 20.2	48 46.2	6 5.8
家族成長前期	136 100.0	10 7.4	55 40.4	63 46.3	4 2.9
家族成長後期	45 100.0	6 13.3	22 48.9	13 28.9	1 2.2
家族成熟期	6 100.0	1 16.7	3 50.0	1 16.7	0 0.0
その他	116 100.0	0 0.0	6 5.2	11 9.5	3 2.6

（対象者が少数のため、参考掲載。「無回答」は非表示）

③友人・知人との職場外での付き合いの頻度

- 友人・知人との職場外での付き合いの程度は、「ときどきある」38.8%が最も多く、次いで「ある程度頻繁にある」13.6%、「日常的にある」6.5%と続く。（「その他」を除く）



<回答者属性別クロス集計>

- ライフステージ別でみると全体結果と概ね同様だが、家族成熟期では「ある程度頻繁にある」が最も多い。
- 職業別でも全体結果と概ね同様の傾向である。

上段：人数（人） 下段：割合（%） 網掛：各項目の第1位	合計	日常的に ある	ある程度 頻繁に ある	ときどき ある	全くない
全体	464	30	63	180	25
	100.0	6.5	13.6	38.8	5.4
独身期	57	4	3	12	3
	100.0	7.0	5.3	21.1	5.3
家族形成期	104	9	19	43	6
	100.0	8.7	18.3	41.3	5.8
家族成長前期	136	13	25	85	9
	100.0	9.6	18.4	62.5	6.6
家族成長後期	45	4	12	22	4
	100.0	8.9	26.7	48.9	8.9
家族成熟期	6	0	3	1	1
	100.0	0.0	50.0	16.7	16.7
その他	116	0	1	17	2
	100.0	0.0	0.9	14.7	1.7

（対象者が少数のため、参考掲載。「無回答」は非表示）

II. 転入・転居された方の意識調査

1. 調査概要

(1) 調査の目的

この調査は、市独自の地方創生を進める「裾野市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定に向けた基礎資料とするために実施したものである。

(2) 調査の方法

対象者	直近3年間に転入・転居した20歳以上の方400名（無作為抽出）	
データ数	有効回答数	有効回答率
	139票	34.8%
実施方法	郵送配付・回収	
調査期間	平成27年7月18日～7月31日	

(3) 報告書を読む際の留意事項

- 調査結果の図表は、原則として回答者の構成比（百分率）で示している。
- 図表の（n=●）は、設問の回答者総数（構成比算出の母数）を表わす。
- 図表中の構成比（百分率）は、回答者総数（限定設問では該当者総数）を100%として算出している。構成比は小数第2位で四捨五入しているため、構成比合計が100%にならない場合がある。
- 設問には単数回答（回答は1つ。シングルアンサー）と複数回答（回答は複数。マルチアンサー）がある。複数回答の設問では構成比合計が100%を超える場合がある。
- 図表中の構成比「0.0」は、四捨五入の結果（0.05未満）もしくは回答者が皆無であることを示している。
- 選択肢の語句が長い場合、本文中では省略した表現を用いる場合がある。
- クロス集計表の場合、縦軸の「無回答」は表示していないため、合計と合致しない場合がある。
- クロス集計で母数が極端に少数の構成比（百分率）は統計的誤差が大きい可能性があり、構成比（百分率）の取扱いには注意が必要である。

2. 結果概要

(1) 裾野市が選ばれる理由

- 移動前の居住地について、転入者は「静岡県東部地域」が最も多く、分譲宅地利用者は「裾野市内」が最も多い。
- 移動にあたって比較したまちは、転入者は「特になし」が最も多く、分譲宅地利用者は「静岡県内」が最も多い。
- 移動の理由は、転入者、分譲宅地利用者ともに「職場に近いから」が最も多い。
- 移動の際に重視したことについて、転入者は「実家がある・近いこと」「職場への近さ」「仕事」を挙げる。分譲宅地利用者は「土地・住居の広さ・価格」「職場への近さ」「交通の便の良さ」を挙げる。
- 移動前の裾野市の主な情報入手源は、転入者、分譲宅地利用者ともに「家族・友人・知人」が最も多い。
- これらの結果から、転入者は主に実家があることや仕事関係で本市を選び、一方、分譲宅地利用者は「静岡県内」の市町と比較した上で「土地・住居の広さ・価格」を基準に選ぶケースが多い。このため、職場の近さを含めた住環境が本市を選ぶ基準として重視されていると考えられる。
- 移動の際に市の助成制度を利用した割合は1割程度である。住宅及び住環境が重要な選定基準であることから、定住促進に向けて、助成制度の周知や利用要件の見直しなどの検討も考えられる。
- 転入者や移住者を増やす取り組みとして「日常的な生活施設に歩いて行けるコンパクトな街づくり」「公共交通ネットワークの形成」を上位に挙げている。この結果から、本市が定住地として選ばれるためには住環境とともに、生活利便性の一層の向上が重要と考えられる。

(2) 定住促進に向けて

- 実際に暮らしてみて住みやすいと感じる割合は 51.8%（住みやすい＋まあ住みやすい）であり、これに「ふつう」を加えると 75.5%に上る。
- 住みやすいと感じる点は「日常の買い物に困らない」が最も多く、「職場が近い」と「公園や自然環境がよい」と続く。一方、住みにくと感じる点は「鉄道の便が悪い」「まちにぎわいがいい」「バスの便が悪い」を挙げている。
- 裾野市での居住意向は 64.7%（ずっと住みつづけたい＋どちらかといえば住みつづけたい）。特に分譲宅地利用者の居住意向は 90.4%である。
- 転出意向は全体で 32.4%であり、「出身地に帰って親と暮らす」「自分や家族の仕事（就職、転職、転勤）」が主な理由だが、「バスや鉄道などの公共交通が不便なため」「買い物が不便」といった生活環境も理由のひとつに挙げている。
- 力を入れるべき人口減少対策として「子どもを産み、育てやすい環境」「バス・鉄道の便、買い物のしやすさ」「働く場の確保」を挙げているように、転入者視点からは希望の子どもを産み育てやすい環境と生活の利便性向上が本市の定住環境として重要と考えられる。

(3) 「家族の希望モデル（父、母、子ども 3 人）」の実現に向けて

- 「家族の希望モデル」に必要な宅地の広さは「70～80 坪」、住居の広さは「4LDK」への希望が最も多い。
- 「家族の希望モデル」の実現に向けては「出産、子育て支援の充実」への期待が最も大きい。これに加えて、職場環境や子育て後の女性の再就職支援といった子育てと仕事の両立支援、住宅購入や建て替え支援といった住環境への期待も大きい。
- これらの結果から、市民調査結果と同様、子どもを産み育てやすい環境と理想の住環境への一層の支援が「家族の希望モデル」の実現に必要であり、その実現が出生率向上につながると考えられる。

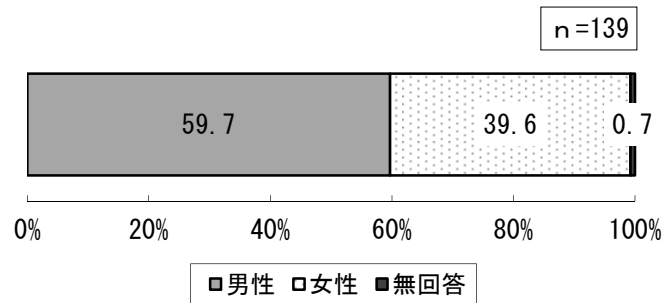
3. 調査結果

(1) 調査結果ご本人（あなた）について（回答者属性）

問1 あなたご自身について項目ごとにあてはまる番号を選んでください。

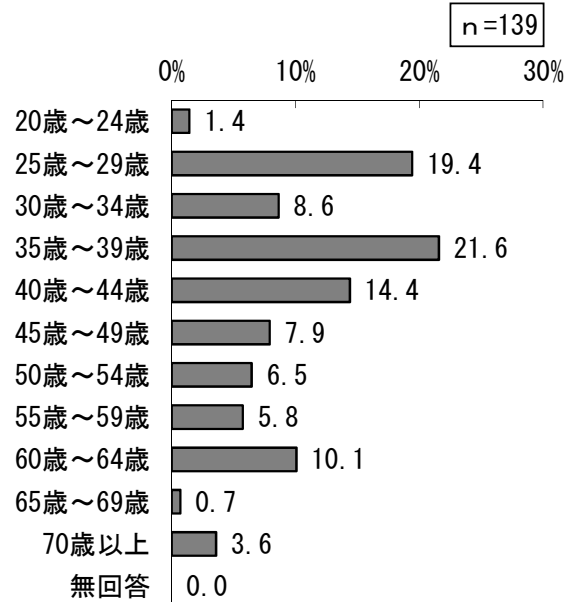
(F1) 性別（1 つに○）

○ 性別は、「男性」59.7%、「女性」39.6%。



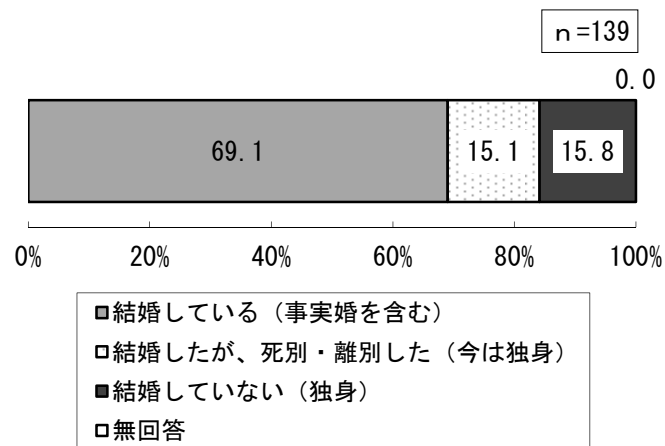
(F2) 年齢（1 つに○）

○ 年齢は、「35 歳～39 歳」21.6%が最も多く、次いで「25 歳～29 歳」19.4%、「40 歳～44 歳」14.4%と続く。



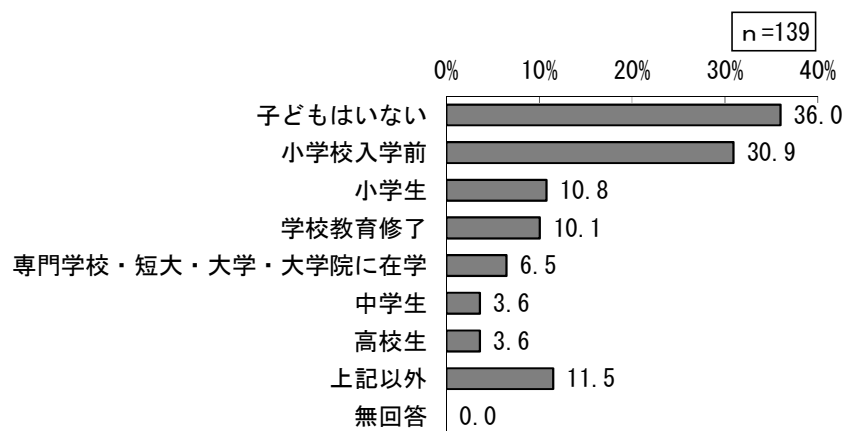
(F3) 結婚の有無（1 つに○）

- 結婚の有無は、「結婚している」69.1%、「結婚していない」15.8%、「結婚したが、死別・離別した」15.1%。



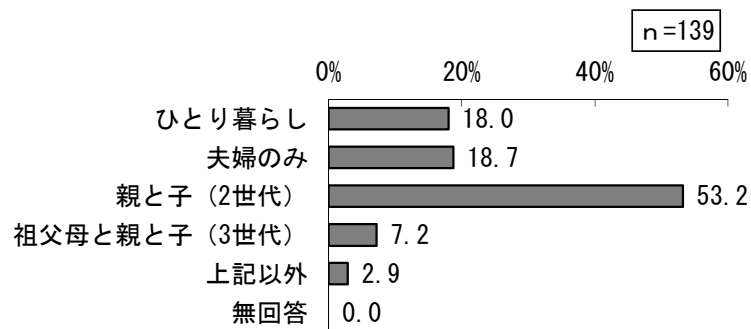
(F4) 子どもの段階（あてはまるものすべてに○）

- 子どもの段階は、「子どもはいない」36.0%が最も多く、次いで「小学校入学前」30.9%と続く。



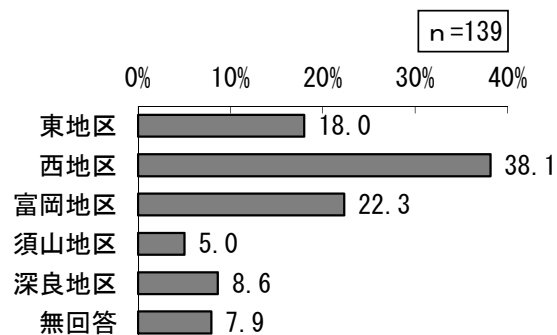
(F5) 世帯 (1 つに○)

- 世帯は、「親と子 (2 世代)」53.2%が最も多く、次いで「夫婦のみ」18.7%、「ひとり暮らし」18.0%と続く。



(F6) 居住地区 (1 つに○)

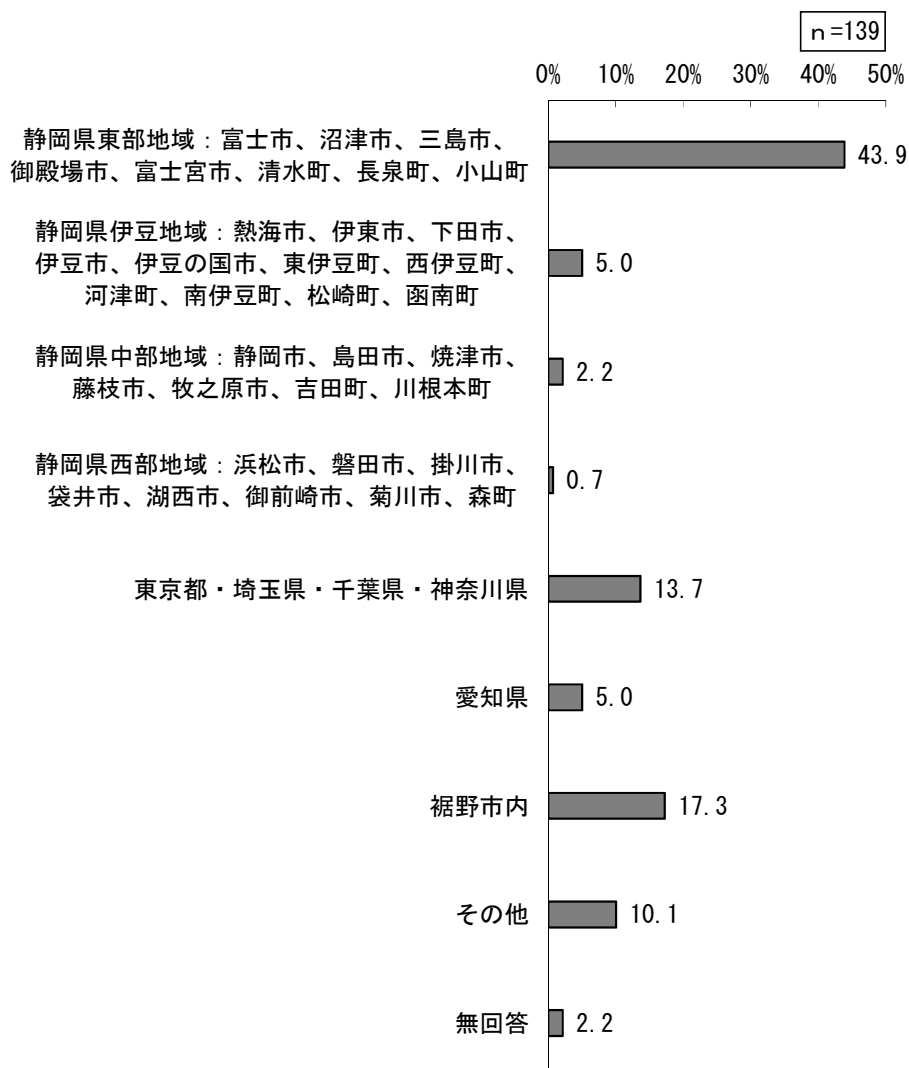
- 居住地区は、「西地区」38.1%が最も多く、次いで「富岡地区」22.3%、「東地区」18.0%と続く。
- 転入者は「富岡地区」が最も多く、分譲宅地利用者は「西地区」が最も多い。



(2) 現在の住所地に移動する時のことについて

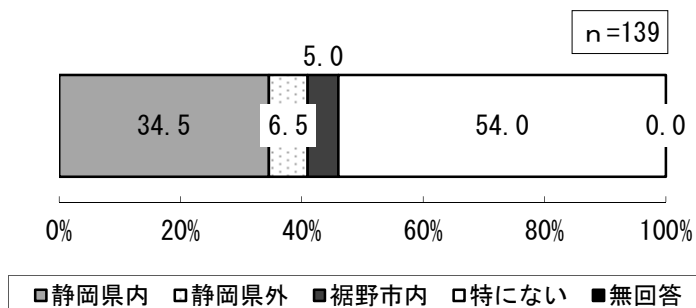
問2 現在の住所地に移動する直前の居住地はどこでしたか。(1つに○。()に記入)

- 現在の住所地に移動する直前の居住地は、「静岡県東部地域」43.9%が最も多く、次いで「裾野市内」17.3%、「東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県」13.7%と続く。



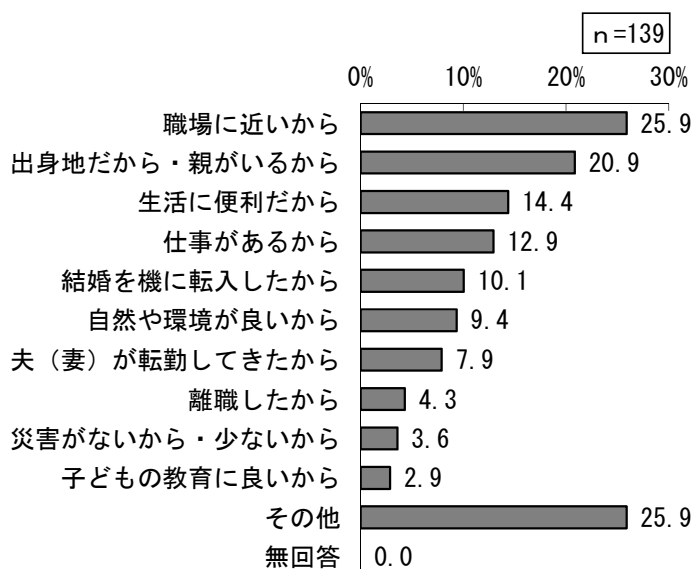
問3 現在の住所地に移動する際、最も比較したまちはどこですか。（1 つに○。（ ）に記入）

- 現在の住所地に移動する際、最も比較したまちは、「特にない」54.0%が最も多く、次いで「静岡県内」34.5%、「静岡県外」6.5%と続く。



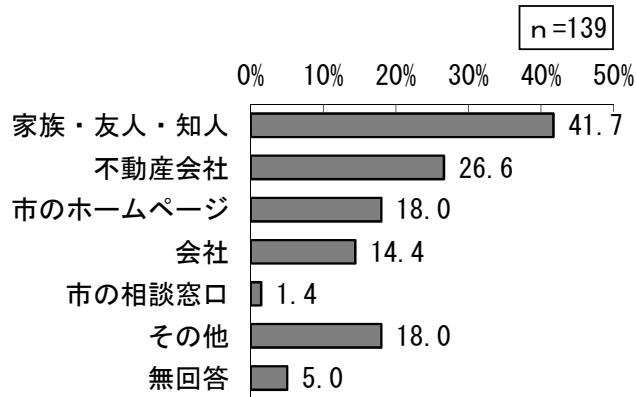
問4 移動の理由は何ですか。（○はいくつでも）

- 移動の理由は、「職場に近いから」25.9%が最も多く、次いで「出身地だから・親がいるから」20.9%、「生活に便利だから」14.4%と続く。（「その他」を除く）



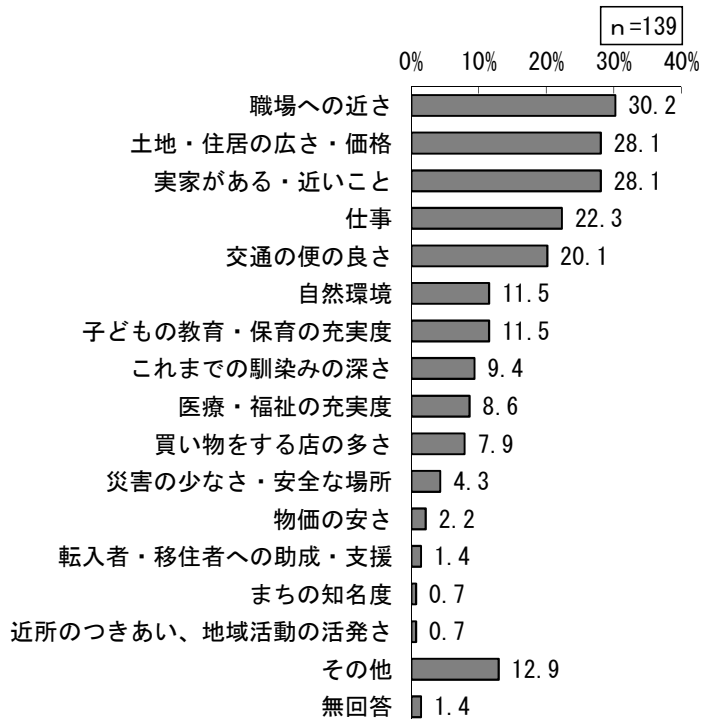
問5 移動前に裾野市の情報をどこから入手しましたか。（主なもの2つまでに○）

- 移動前に裾野市の情報を入手した入手源は、「家族・友人・知人」41.7%が最も多く、次いで「不動産会社」26.6%、「市のホームページ」18.0%と続く。（「その他」を除く）



問6 現在の住所地に移動する際に重視した点は何ですか。（主なもの3つまでに○）

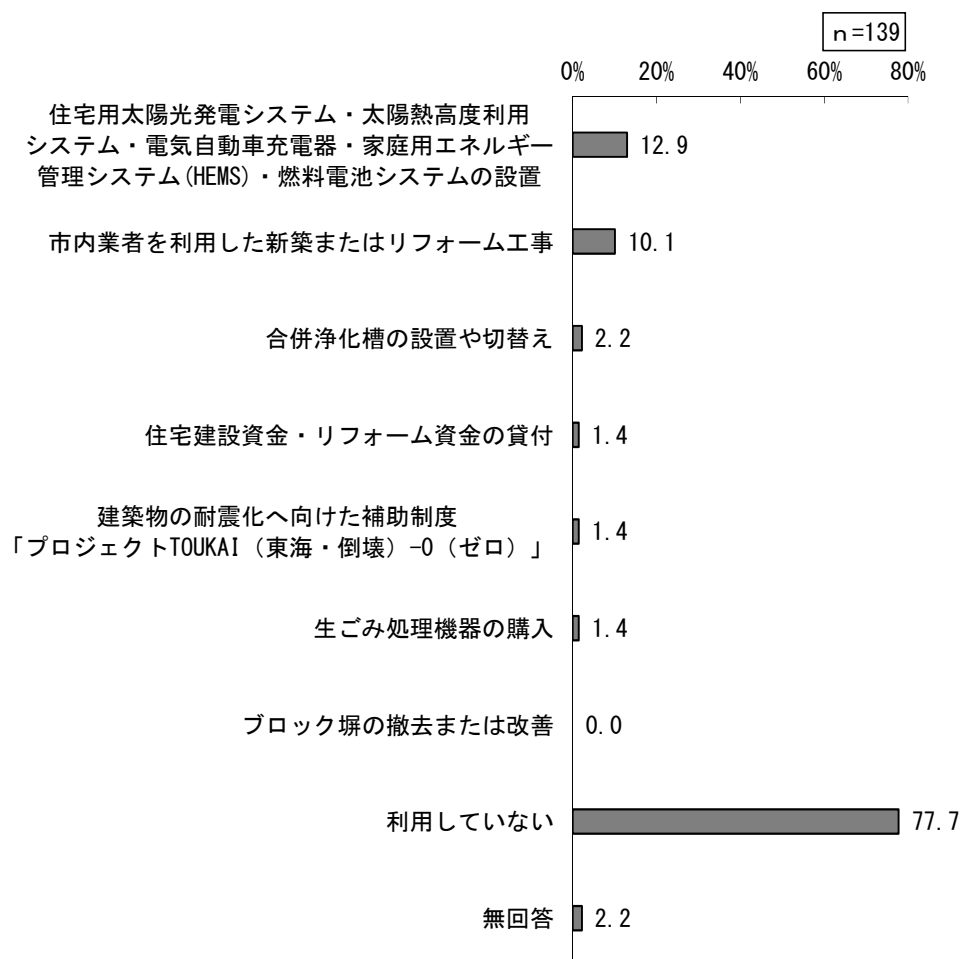
- 現在の住所地に移動する際に重視した点は、「職場への近さ」30.2%が最も多く、次いで「土地・住居の広さ・価格」「実家がある・近いこと」28.1%と続く。（「その他」を除く）



問7 現在の住所地に移動する際に、裾野市の助成制度は利用しましたか。（○はいくつでも）

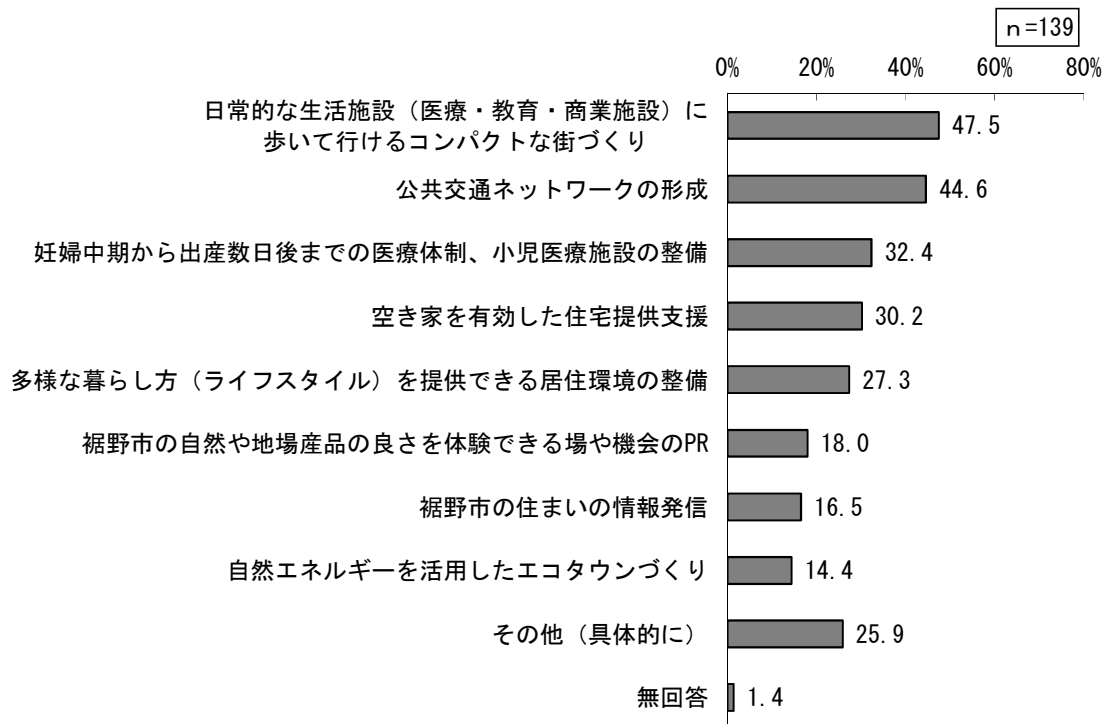
○ 現在の住所地に移動する際に、裾野市の助成制度を利用したかは、「利用していない」

77.7%が最も多く、次いで「住宅用太陽光発電システム・太陽熱高度利用システム・電気自動車充電器・家庭用エネルギー管理システム（HEMS）・燃料電池システムの設置」12.9%、「市内業者を利用した新築またはリフォーム工事」10.1%と続く。



問8 裾野市の特色を活かし、転入や移住する人を増やすためにはどのような取り組みをしたらよいと思いますか。（〇はいくつでも）

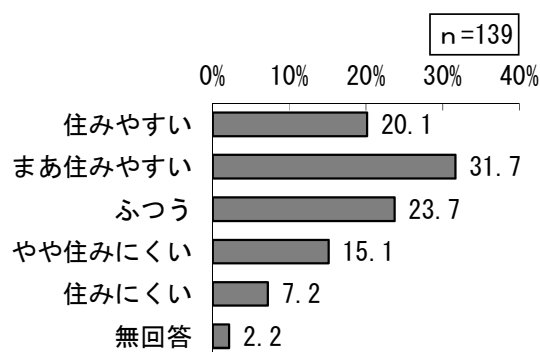
- 裾野市の特色を生かし、転入者や移住者を増やすためにすべき取り組みは、「日常的生活施設に歩いて行けるコンパクトな街づくり」47.5%が最も多く、次いで「公共交通ネットワークの形成」44.6%、「妊娠中期から出産数日後までの医療体制、小児医療施設の整備」32.4%と続く。



(3) 裾野市の暮らしについて

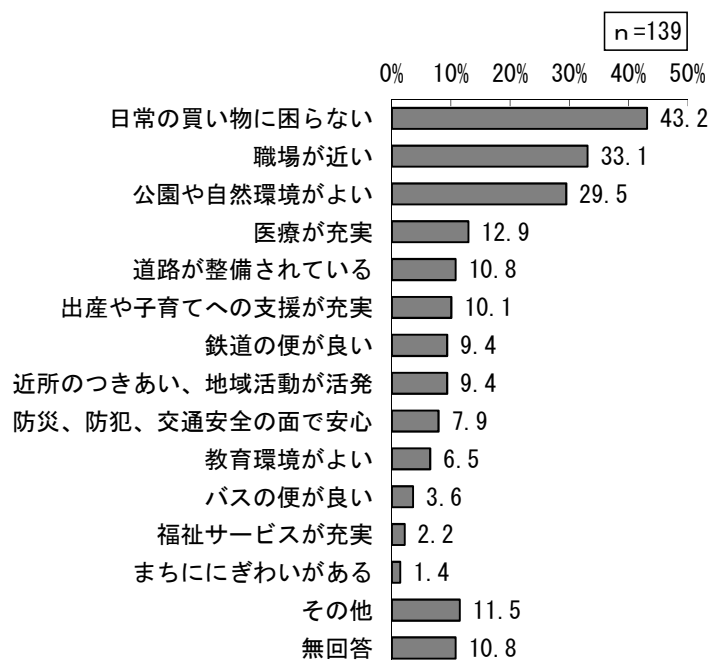
問9 実際に暮らしてみて、住みやすいと感じますか。(1つに○)

○ 実際に暮らしてみて、住みやすいと感じるかは、「まあ住みやすい」31.7%が最も多く、次いで「ふつう」23.7%、「住みやすい」20.1%と続く。



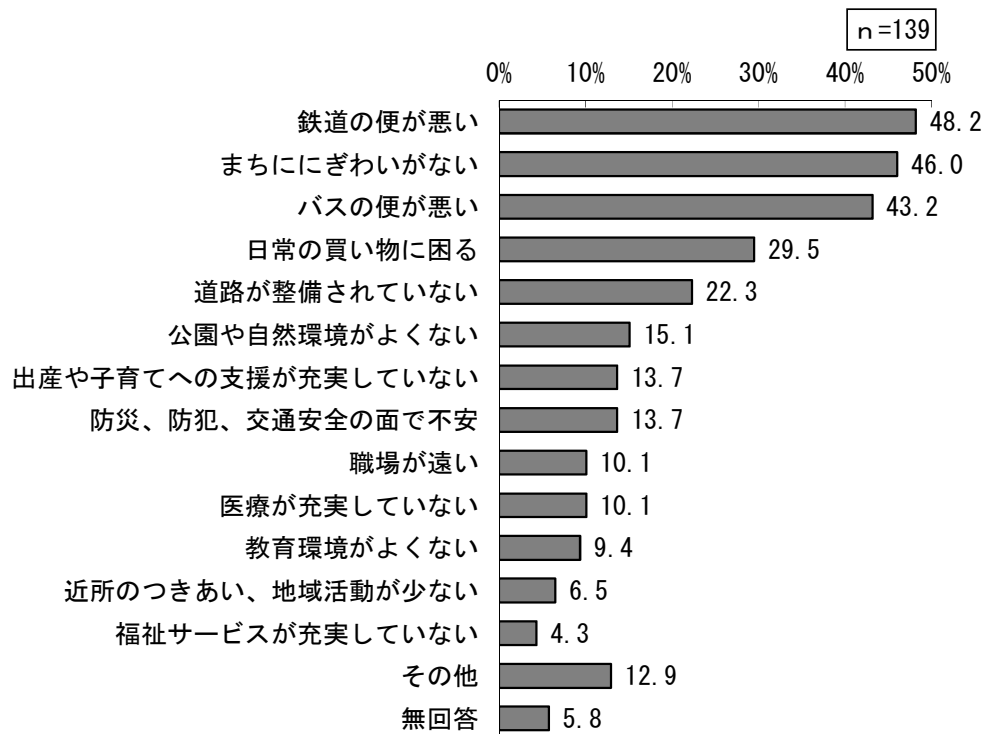
問10 あなたが住みやすいと感じる点は何ですか。(○はいくつでも)

○ 住みやすいと感じる点は、「日常の買い物に困らない」43.2%が最も多く、次いで「職場が近い」33.1%、「公園や自然環境がよい」29.5%と続く。



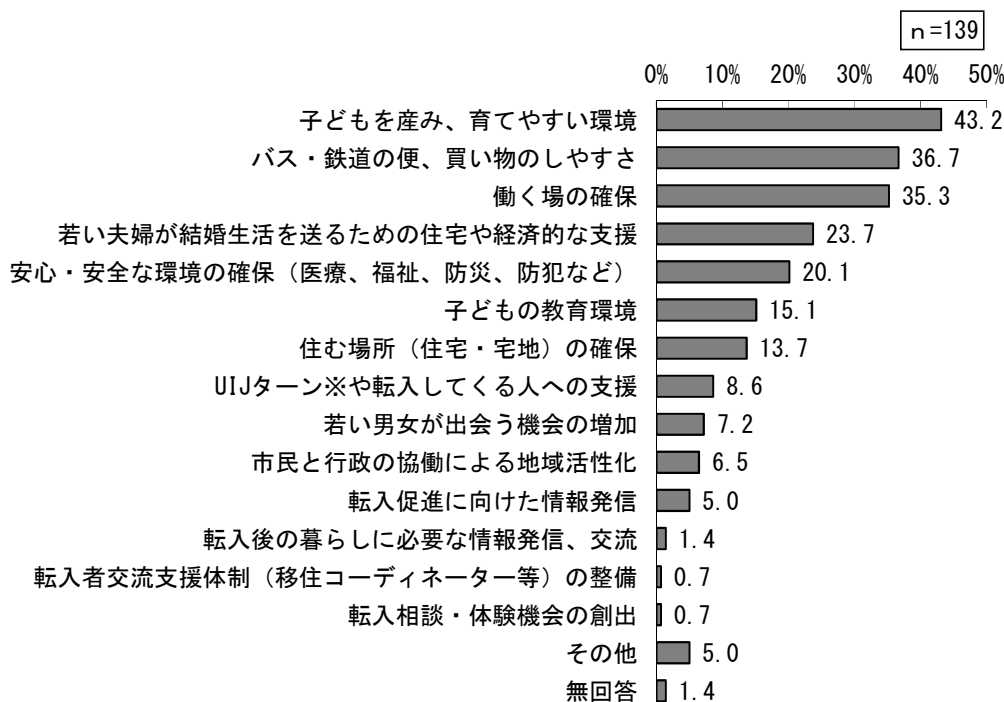
問11 逆に、住みにくいと感じる点は何ですか。（〇はいくつでも）

- 住みにくいと感じる点は、「鉄道の便が悪い」48.2%が最も多く、次いで「まちににぎわいがない」46.0%、「バスの便が悪い」43.2%と続く。



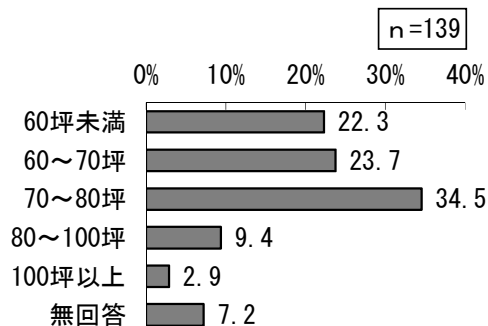
問12 転出超過によって人口が減少している裾野市では、人口減少に歯止めをかけるためにどのような取り組みに力を入れたらよいと思いますか。（主なもの2つまでに○）

- 人口減少に歯止めをかけるために力を入れるべきだと思う取り組みは、「子どもを産み、育てやすい環境」43.2%が最も多く、次いで「バス・鉄道の便、買い物のしやすさ」36.7%、「働く場の確保」35.3%と続く。



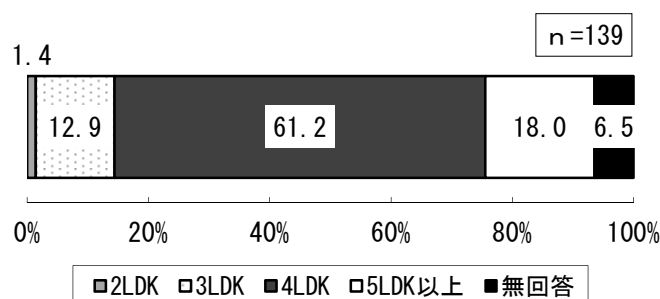
問13 「家族の希望モデル（お父さん、お母さん、子ども3人）」を実現する場合、宅地（敷地）の広さはどのくらいを希望しますか。（1つに○）

- 「家族の希望モデル」を実現する場合、希望する宅地の広さは、「70～80坪」34.5%が最も多く、次いで「60～70坪」23.7%、「60坪未満」22.3%と続く。



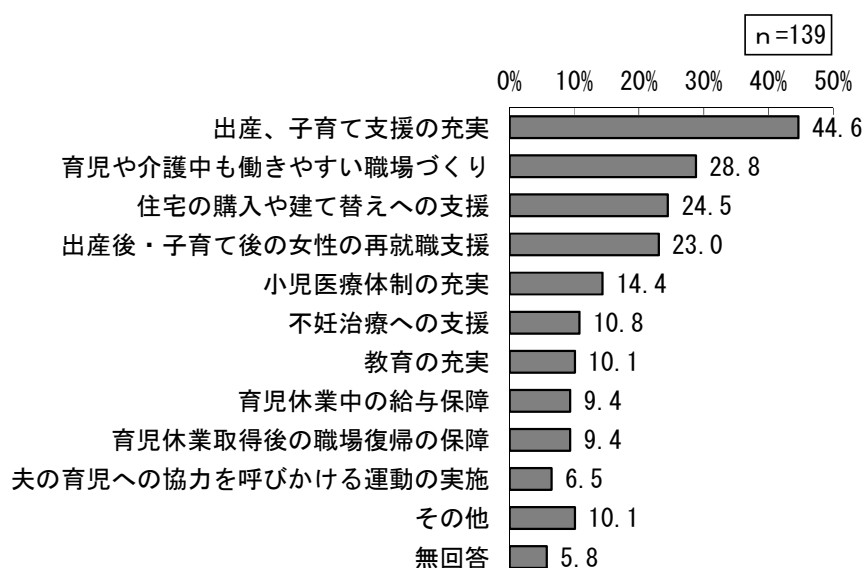
問14 「家族の希望モデル（お父さん、お母さん、子ども3人）」を実現する場合、住居の広さはどのくらいを希望しますか。（1つに○）

- 「家族の希望モデル」を実現する場合、希望する住居の広さは、「4LDK」61.2%が最も多く、次いで「5LDK以上」18.0%、「3LDK」12.9%と続く。



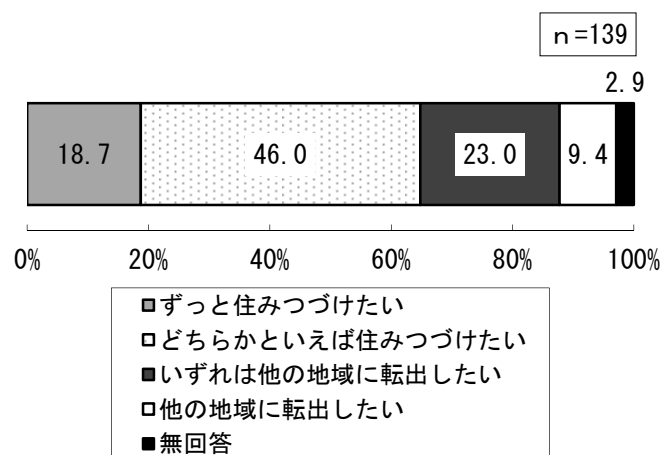
問15 「家族の希望モデル（お父さん、お母さん、子ども3人）」を実現するために何が重要だと思いますか。（主なもの2つまでに○）

- 「家族の希望モデル」を実現する場合、必要だと思うことは、「出産、子育て支援の充実」44.6%が最も多く、次いで「育児や介護中も働きやすい職場づくり」28.8%、「住宅の購入や建て替えへの支援」24.5%、「出産後・子育て後の女性の再就職支援」23.0%と続く。



問16 あなたは、これからも裾野市に住みつづけたいと思いますか。（1 つに○）

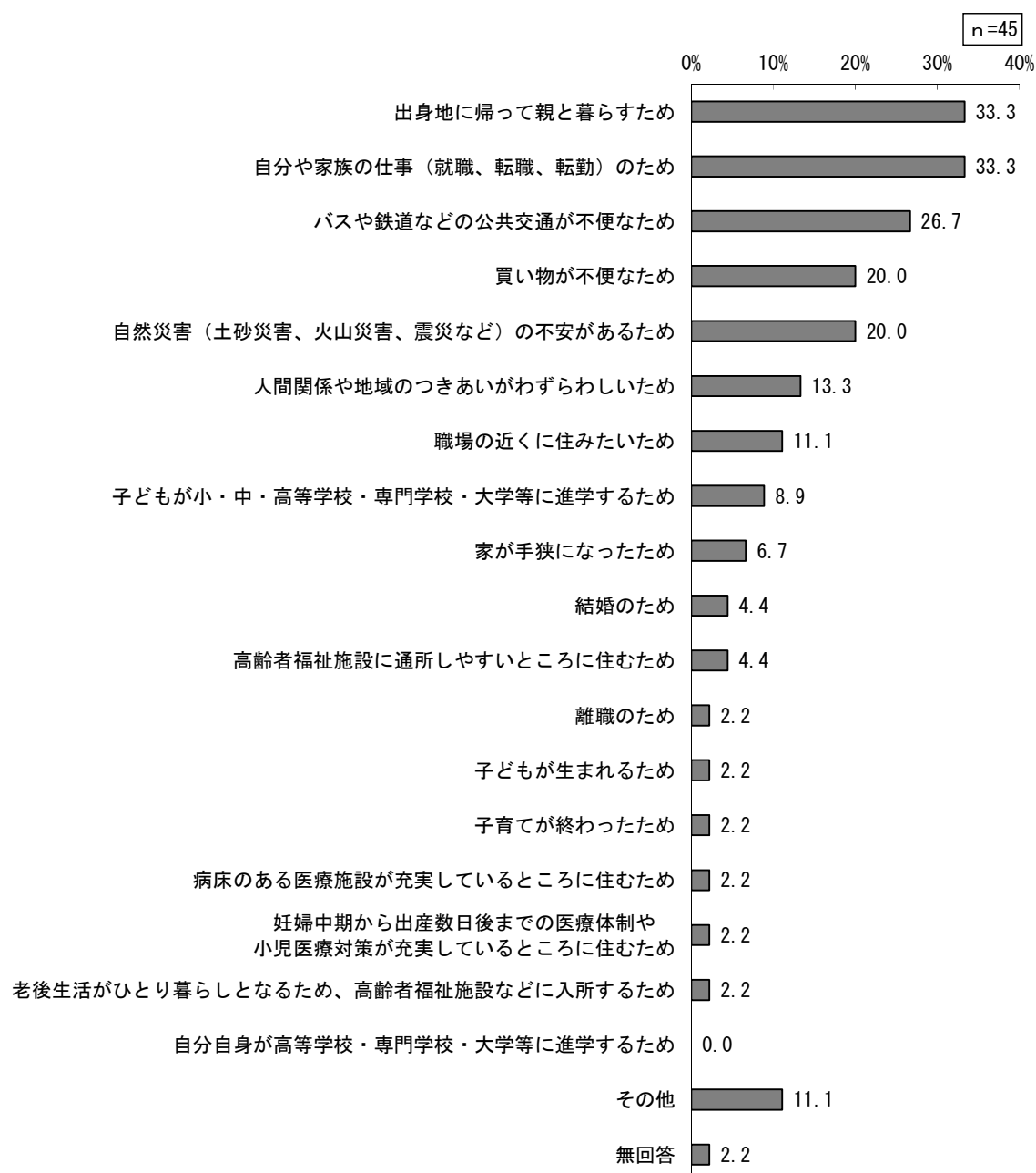
- 今後も裾野市に住みつづけたいかは、「どちらかといえば住みつづけたい」46.0%が最も多く、次いで「いずれは他の地域に転出したい」23.0%、「ずっと住みつづけたい」18.7%と続く。



問 16-2 前問で「3～4（転出意向）」に○をつけた方のみお答えください。

その主な理由は何ですか。（主なもの3つまでに○）

- 他の地域に転出したい理由は、「出身地に帰って親と暮らすため」「自分や家族の仕事（就職、転職、転勤）のため」33.3%が最も多く、次いで「バスや鉄道などの公共交通が不便なため」26.7%と続く。



Ⅲ. 転出された方の状況調査

1. 調査概要

(1) 調査の目的

この調査は静岡県で実施している「転出される皆様へのアンケート」であり、当市から転出される方の状況を把握し施策の検討に生かすため、裾野市から転出された方の回答を集計したものである。

(2) 調査の方法

対象者	当市から転出された皆様
実施方法	窓口にて調査票に記入（本人記入）
集計期間	平成 26 年 5 月～12 月、平成 27 年 3～6 月
データ数	768 人

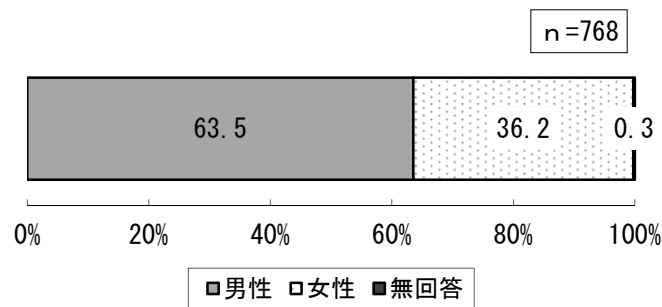
(3) 報告書を読む際の留意事項

- 調査結果の図表は、原則として回答者の構成比（百分率）で示している。
- 図表の（n=●）は、設問の回答者総数（構成比算出の母数）を表わす。
- 図表中の構成比（百分率）は、回答者総数（限定設問では該当者総数）を 100% として算出している。構成比は小数第 2 位で四捨五入しているため、構成比合計が 100%にならない場合がある。
- 設問には単数回答（回答は 1 つ。シングルアンサー）と複数回答（回答は複数。マルチアンサー）がある。複数回答の設問では構成比合計が 100%を超える場合がある。
- 図表中の構成比「0.0」は、四捨五入の結果（0.05 未満）もしくは回答者が皆無であることを示している。
- 選択肢の語句が長い場合、本文中では省略した表現を用いる場合がある。
- クロス集計表の場合、縦軸の「無回答」は表示していないため、合計と合致しない場合がある。
- クロス集計で母数が極端に少数の構成比（百分率）は統計的誤差が大きい可能性があり、構成比（百分率）の取扱いには注意が必要である。

2. 調査結果

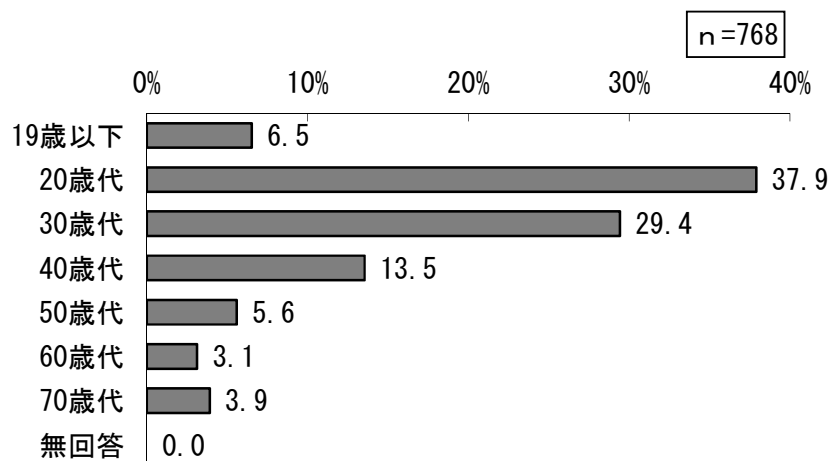
問1 転出される方の性別

○ 転出される方（家族の場合は世帯主）の性別は、「男性」63.5%、「女性」36.2%となっている。



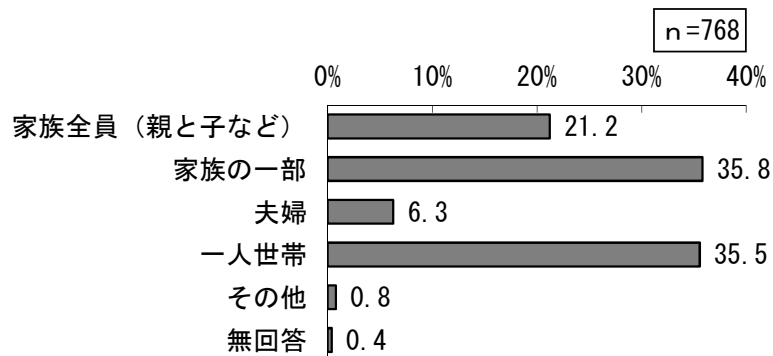
問2 転出される方の年齢

○ 転出される方（家族の場合は世帯主）の年齢は、「20 歳代」37.9%が最も多く、次いで「30 歳代」29.4%、「40 歳代」13.5%と続く。



問3 転出される家族の構成

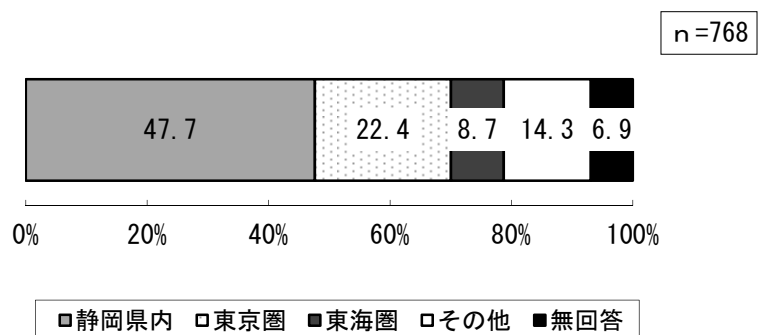
○ 転出される家族の構成は、「家族の一部」35.8%と「一人世帯」35.5%が多く、次いで「家族全員（親と子など）」21.2%と続く。



問4 転出先

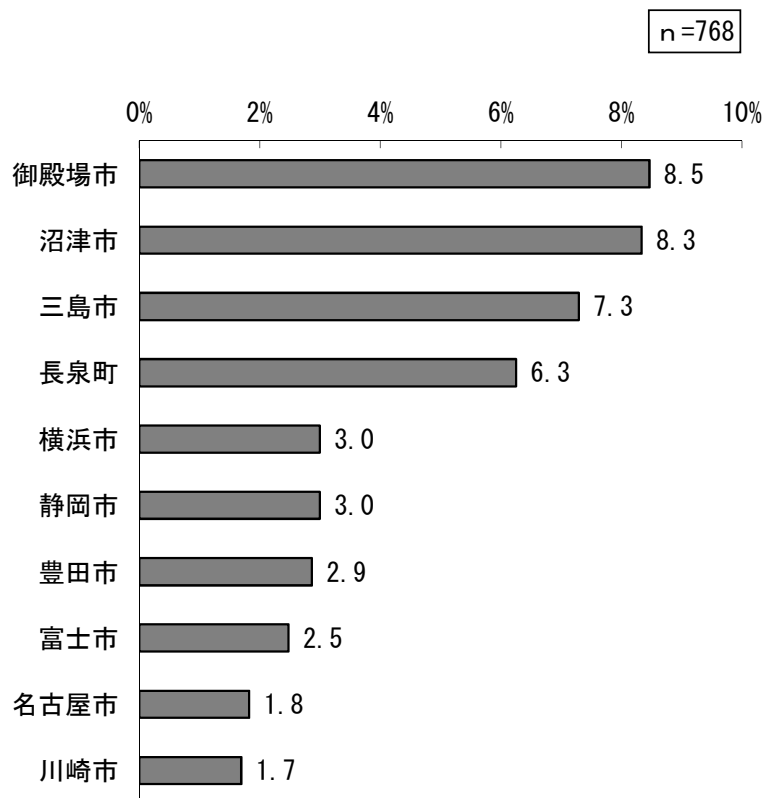
■ 都道府県

○ 転出先の都道府県は「静岡県内」47.7%が最も多く、次いで「東京圏（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県）」22.4%、「東海圏（愛知県、三重県、岐阜県）」8.7%、「その他（その他の道府県、外国）」14.3%と続く。



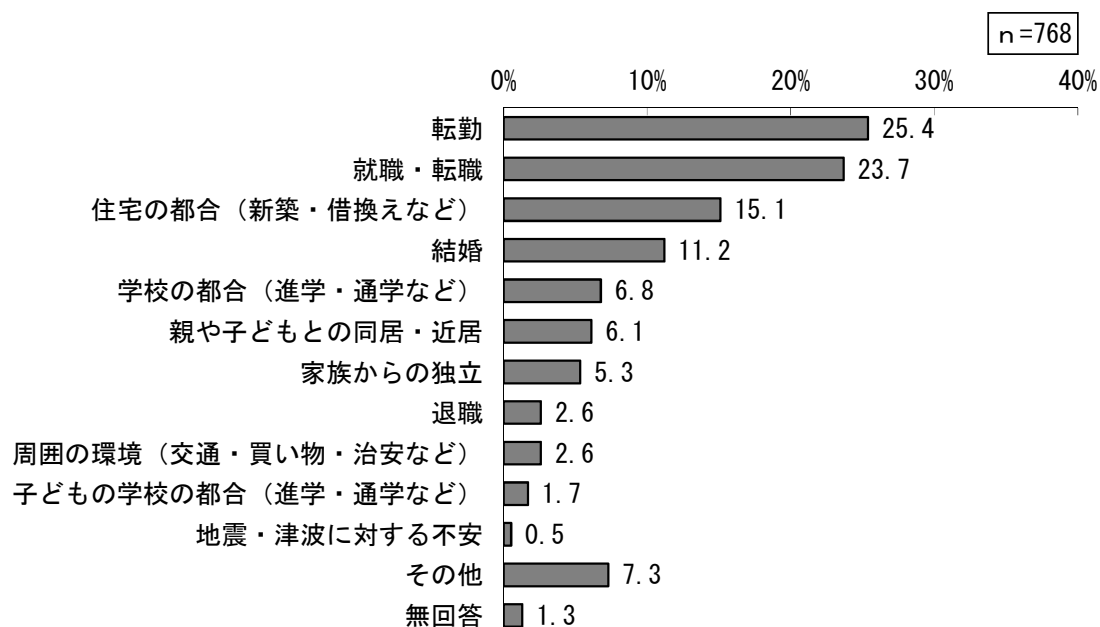
■市町村

○ 転出先の市町村（上位 10 位）は「御殿場市」8.5%が最も多く、次いで「沼津市」8.3%、「三島市」7.3%、「長泉町」6.3%と、近隣自治体が多い。



問5 転出理由（○は3つまで）

○ 転出理由は、「転勤」25.4%と「就職・転職」23.7%が多く、次いで「住宅の都合（新築・借換えなど）」15.1%、「結婚」11.2%と続く。



3. 調査結果（クロス集計）

転出理由×属性

ア 転出理由×性別

- 男性の転出理由は「転勤」32.4%と「就職・転職」20.3%の仕事関係が上位を占め、この2つで転出理由の半数（52.7%）を占める。次いで「住宅の都合（新築・借換えなど）」19.7%が多い。
- 女性の転出理由は「就職・転職」29.9%が最も多く、次いで「結婚」16.2%、「転勤」12.9%と続く。
- 女性も「就職・転職」と「転勤」の合計が42.8%に上り、男性と同じく仕事関係が転出理由の上位を占める。
- 男性と女性の転出理由はどちらも仕事関係が転出理由の上位を占める。また、男性は「住宅の都合（新築・借換えなど）」での転出が多く、女性は「結婚」での転出が多い。

	合計	就職・転職	転勤	退職	学校の都合（進学・通学など）	子どもの学校の都合（進学・通学など）	住宅の都合（新築・借換えなど）	結婚	親や子どもとの同居・近居	家族からの独立	周囲の環境（交通・買い物・治安など）	地震・津波に対する不安	その他	無回答
全体	768	182	195	20	52	13	116	86	47	41	20	4	56	10
	100.0	23.7	25.4	2.6	6.8	1.7	15.1	11.2	6.1	5.3	2.6	0.5	7.3	1.3
男性	488	99	158	11	30	7	96	41	19	18	13	1	31	7
	100.0	20.3	32.4	2.3	6.1	1.4	19.7	8.4	3.9	3.7	2.7	0.2	6.4	1.4
女性	278	83	36	9	22	6	20	45	26	23	7	3	25	3
	100.0	29.9	12.9	3.2	7.9	2.2	7.2	16.2	9.4	8.3	2.5	1.1	9.0	1.1

※網掛けは区分毎の第1位。上段：人数（人）、下段：割合（%）

イ 転出理由×年齢

○ 19 歳以下は「学校の都合（進学・通学など）」66.0%が最も多く、次いで「就職・転職」22.0%が続く。

○ 20 歳代は「就職・転職」が最も多く、30 歳代～50 歳代は「転勤」が最も多い。各年齢でこの仕事関係が半数を占めており、最も多い転出理由である。

○ 転出理由の「住宅の都合（新築・借換えなど）」をみると、30 歳代～50 歳代は 20%前後だが、60 歳代では 50.0%と最も多い転出理由である。

○ 転出理由の「結婚」は、20 歳代～30 歳代で多い。

	合計	就職・転職	転勤	退職	学校の都合（進学・通学など）	子どもの学校の都合（進学・通学など）	住宅の都合（新築・借換えなど）	結婚	親や子どもとの同居・近居	家族からの独立	周囲の環境（交通・買い物・治安など）	地震・津波に対する不安	その他	無回答
全体	768	182	195	20	52	13	116	86	47	41	20	4	56	10
	100.0	23.7	25.4	2.6	6.8	1.7	15.1	11.2	6.1	5.3	2.6	0.5	7.3	1.3
19歳以下	50	11	0	0	33	2	0	0	2	1	0	0	2	1
	100.0	22.0	0.0	0.0	66.0	4.0	0.0	0.0	4.0	2.0	0.0	0.0	4.0	2.0
20歳代	291	131	37	8	12	5	21	48	9	24	5	1	11	2
	100.0	45.0	12.7	2.7	4.1	1.7	7.2	16.5	3.1	8.2	1.7	0.3	3.8	0.7
30歳代	226	27	96	2	3	2	42	32	10	13	8	1	12	4
	100.0	11.9	42.5	0.9	1.3	0.9	18.6	14.2	4.4	5.8	3.5	0.4	5.3	1.8
40歳代	104	7	44	3	3	4	21	5	14	2	2	0	12	0
	100.0	6.7	42.3	2.9	2.9	3.8	20.2	4.8	13.5	1.9	1.9	0.0	11.5	0.0
50歳代	43	5	18	4	1	0	9	1	1	1	1	0	4	1
	100.0	11.6	41.9	9.3	2.3	0.0	20.9	2.3	2.3	2.3	2.3	0.0	9.3	2.3
60歳代	24	1	0	3	0	0	12	0	5	0	3	1	3	1
	100.0	4.2	0.0	12.5	0.0	0.0	50.0	0.0	20.8	0.0	12.5	4.2	12.5	4.2
70歳代	30	0	0	0	0	0	11	0	6	0	1	1	12	1
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	36.7	0.0	20.0	0.0	3.3	3.3	40.0	3.3

※網掛けは区分毎の第1位。上段：人数（人）、下段：割合（%）

ウ 転出理由×家族構成

○ 家族全員（親と子など）は「転勤」38.0%と「住宅の都合（新築・借換えなど）」35.0%が主な転出理由である。

○ 家族の一部は「就職・転職」37.1%が最も多く、次いで「結婚」16.4%、「学校の都合（進学・通学など）」15.3%と続く。

○ 夫婦は「住宅の都合（新築・借換えなど）」31.3%が最も多く、次いで「転勤」22.9%、「結婚」18.8%と続く。

○ 一人世帯は「転勤」33.3%が最も多く、「就職・転職」23.1%が続く。仕事関係が最も多い転出理由である。

	合計	就職・転職	転勤	退職	学校の都合（進学・通学など）	子どもの学校の都合（進学・通学など）	住宅の都合（新築・借換えなど）	結婚	親や子どもとの同居・近居	家族からの独立	周囲の環境（交通・買い物・治安など）	地震・津波に対する不安	その他	無回答
全体	768	182	195	20	52	13	116	86	47	41	20	4	56	10
	100.0	23.7	25.4	2.6	6.8	1.7	15.1	11.2	6.1	5.3	2.6	0.5	7.3	1.3
家族全員（親と子など）	163	9	62	4	3	9	57	6	11	3	6	2	8	3
	100.0	5.5	38.0	2.5	1.8	5.5	35.0	3.7	6.7	1.8	3.7	1.2	4.9	1.8
家族の一部	275	102	28	0	42	4	13	45	12	26	3	1	17	2
	100.0	37.1	10.2	0.0	15.3	1.5	4.7	16.4	4.4	9.5	1.1	0.4	6.2	0.7
夫婦	48	5	11	2	0	0	15	9	5	2	1	0	6	0
	100.0	10.4	22.9	4.2	0.0	0.0	31.3	18.8	10.4	4.2	2.1	0.0	12.5	0.0
一人世帯	273	63	91	13	7	0	31	24	18	10	10	1	25	5
	100.0	23.1	33.3	4.8	2.6	0.0	11.4	8.8	6.6	3.7	3.7	0.4	9.2	1.8
その他	6	2	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	100.0	33.3	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※網掛けは区分毎の第1位。上段：人数（人）、下段：割合（%）

エ 転出理由×転出先

■都道府県転出先

○ 転出者の半数近くを占める静岡県内は「住宅の都合（新築・借換えなど）」27.9%が最も多く、次いで「結婚」18.0%が続く。「転勤」と「就職・転職」の仕事関係は合計 26.5%である。

○ 「東京圏（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県）」は「就職・転職」41.9%が最も多く、次いで「結婚・転職」21.5%が続く。この2つを合わせた仕事関係は 63.4%に上る。

○ 「東海圏（愛知県、三重県、岐阜県）」は「就職・転職」58.2%が最も多く、次いで「結婚・転職」26.9%が続く。この2つを合わせた仕事関係は 85.1%に上る。

○ この結果から、静岡県内への主な転出理由は「住宅の都合」「仕事関係」「結婚」であり、県外は「仕事関係」であることがわかる。

	合計	就職・転職	転勤	退職	学校の都合（進学・通学など）	子どもの学校の都合（進学・通学など）	住宅の都合（新築・借換えなど）	結婚	親や子どもとの同居・近居	家族からの独立	周囲の環境（交通・買い物・治安など）	地震・津波に対する不安	その他	無回答
全体	768	182	195	20	52	13	116	86	47	41	20	4	56	10
	100.0	23.7	25.4	2.6	6.8	1.7	15.1	11.2	6.1	5.3	2.6	0.5	7.3	1.3
静岡県内	366	53	44	11	12	6	102	66	27	31	13	2	40	4
	100.0	14.5	12.0	3.0	3.3	1.6	27.9	18.0	7.4	8.5	3.6	0.5	10.9	1.1
東京圏	172	72	37	6	22	3	5	15	9	7	4	0	5	2
	100.0	41.9	21.5	3.5	12.8	1.7	2.9	8.7	5.2	4.1	2.3	0.0	2.9	1.2
東海圏	67	18	39	0	3	1	3	0	1	0	0	0	2	0
	100.0	26.9	58.2	0.0	4.5	1.5	4.5	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0	3.0	0.0
その他	110	31	48	2	12	3	3	5	9	2	3	2	3	0
	100.0	28.2	43.6	1.8	10.9	2.7	2.7	4.5	8.2	1.8	2.7	1.8	2.7	0.0

※網掛けは区分毎の第1位。上段：人数（人）、下段：割合（%）

■ 県内転出先（転出数 10 人以上の自治体）

○ 静岡市は「就職・転職」と「就職・転職」の 2 つを合わせた仕事関係で 87.0% に上る。

○ 転出数の多い隣接都市（御殿場市、三島市、長泉町）への転出理由は「住宅の都合（新築・借換えなど）」が最も多く 39%（66/169）で、「結婚」で 23%（39/169）が続く。

○ この結果から、近隣自治体への主な転出理由は「住宅の都合」と「結婚」であることがわかる。

	合計	就職・転職	転勤	退職	学校の都合（進学・通学など）	子どもの学校の都合（進学・通学など）	住宅の都合（新築・借換えなど）	結婚	親や子どもとの同居・近居	家族からの独立	周囲の環境（交通・買い物・治安など）	地震・津波に対する不安	その他	無回答
全体	768	182	195	20	52	13	116	86	47	41	20	4	56	10
	100.0	23.7	25.4	2.6	6.8	1.7	15.1	11.2	6.1	5.3	2.6	0.5	7.3	1.3
静岡市	23	12	8	0	1	0	1	0	0	1	1	0	2	0
	100.0	52.2	34.8	0.0	4.3	0.0	4.3	0.0	0.0	4.3	4.3	0.0	8.7	0.0
御殿場市	65	8	4	1	1	1	26	12	6	4	3	0	7	1
	100.0	12.3	6.2	1.5	1.5	1.5	40.0	18.5	9.2	6.2	4.6	0.0	10.8	1.5
沼津市	64	5	1	1	2	2	20	7	7	8	3	0	10	2
	100.0	7.8	1.6	1.6	3.1	3.1	31.3	10.9	10.9	12.5	4.7	0.0	15.6	3.1
富士市	19	5	3	1	0	0	1	4	1	3	0	0	2	0
	100.0	26.3	15.8	5.3	0.0	0.0	5.3	21.1	5.3	15.8	0.0	0.0	10.5	0.0
富士宮市	10	2	2	0	0	0	3	4	0	1	0	0	0	0
	100.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	30.0	40.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0
三島市	56	0	5	3	2	3	21	12	6	5	3	1	7	0
	100.0	0.0	8.9	5.4	3.6	5.4	37.5	21.4	10.7	8.9	5.4	1.8	12.5	0.0
長泉町	48	2	2	0	6	0	19	15	0	4	2	1	1	0
	100.0	4.2	4.2	0.0	12.5	0.0	39.6	31.3	0.0	8.3	4.2	2.1	2.1	0.0

※網掛けは区分毎の第 1 位。上段：人数（人）、下段：割合（%）

近隣自治体×転出理由×属性

ア 御殿場市

<全体>

- 転出理由は「住宅の都合（新築・借換えなど）」40.0%が最も多い。次いで「結婚」18.5%が続く。
- 他の3市町と比べて「就職・転職」12.3%がやや多い。

<性別>

- 転出者のうち、男性が73.8%を占める。
- 男性の転出理由は「住宅の都合（新築・借換えなど）」45.8%が最も多い。
- 女性の転出理由は「住宅の都合（新築・借換えなど）」と「結婚」23.5%が最も多い。

<年齢>

- 転出者のうち、20歳代～40歳代で89.2%を占める。19歳以下はいない。
- 20歳代～30歳代の転出理由は「住宅の都合（新築・借換えなど）」が最も多く、「結婚」が続く。
- 40歳代の転出理由は「住宅の都合（新築・借換えなど）」が最も多く、次いで「親や子どもとの同居・近居」30.8%が続く。

<家族の構成>

- 転出者のうち、一人世帯47.6%が半数近くに上り、家族の一部、家族全員（親と子など）がそれぞれ25%前後である。
- 家族全員（親と子など）の転出理由は「住宅の都合（新築・借換えなど）」が80.0%を占める。
- 家族の一部の転出理由は「結婚」43.8%が最も多く、次いで「親や子どもとの同居・近居」18.8%、「家族からの独立」12.5%が続く。
- 一人世帯の転出理由は「住宅の都合（新築・借換えなど）」35.5%が最も多く、次いで「親や子どもとの同居・近居」30.8%が続く。

	合計	就職・転職	転勤	退職	学校の都合（進学・通学など）	子どもの学校の都合（進学・通学など）	住宅の都合（新築・借換えなど）	結婚	親や子どもとの同居・近居	家族からの独立	周囲の環境（交通・買い物・治安など）	地震・津波に対する不安	その他	無回答
全体	65	8	4	1	1	1	26	12	6	4	3	0	7	1
	100.0	12.3	6.2	1.5	1.5	1.5	40.0	18.5	9.2	6.2	4.6	0.0	10.8	1.5
男性	48	6	3	1	0	1	22	8	3	2	2	0	5	1
	100.0	12.5	6.3	2.1	0.0	2.1	45.8	16.7	6.3	4.2	4.2	0.0	10.4	2.1
女性	17	2	1	0	1	0	4	4	3	2	1	0	2	0
	100.0	11.8	5.9	0.0	5.9	0.0	23.5	23.5	17.6	11.8	5.9	0.0	11.8	0.0
19歳以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代	20	2	1	0	0	1	7	5	1	4	1	0	2	0
	100.0	10.0	5.0	0.0	0.0	5.0	35.0	25.0	5.0	20.0	5.0	0.0	10.0	0.0
30歳代	25	5	1	0	1	0	10	6	1	0	1	0	3	1
	100.0	20.0	4.0	0.0	4.0	0.0	40.0	24.0	4.0	0.0	4.0	0.0	12.0	4.0
40歳代	13	1	2	0	0	0	5	1	4	0	1	0	0	0
	100.0	7.7	15.4	0.0	0.0	0.0	38.5	7.7	30.8	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0
50歳代	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
60歳代	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	100.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
70歳代	3	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
家族全員（親と子など）	15	1	0	0	0	1	12	1	0	0	0	0	1	0
	100.0	6.7	0.0	0.0	0.0	6.7	80.0	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	0.0
家族の一部	16	1	0	0	1	0	1	7	3	2	1	0	2	0
	100.0	6.3	0.0	0.0	6.3	0.0	6.3	43.8	18.8	12.5	6.3	0.0	12.5	0.0
夫婦	3	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
一人世帯	31	6	4	1	0	0	11	3	3	2	2	0	4	1
	100.0	19.4	12.9	3.2	0.0	0.0	35.5	9.7	9.7	6.5	6.5	0.0	12.9	3.2
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※網掛けは区分毎の第1位。 上段：人数（人）、下段：割合（％）

イ 沼津市

<全体>

- 転出理由は「住宅の都合（新築・借換えなど）」31.3%が最も多い。次いで「家族からの独立」12.5%が続く。
- 他の3市町と比べて「家族からの独立」がやや多い。

<性別>

- 転出者のうち、男性が56.3%である。
- 男性の転出理由は「住宅の都合（新築・借換えなど）」41.7%が最も多い。
- 女性の転出理由は「親や子どもとの同居・近居」と「その他」がそれぞれ21.4%と最も多い。次いで「住宅の都合（新築・借換えなど）」18.0%が続く。

<年齢>

- 転出者のうち、20歳代～30歳代で64.1%を占める。40歳代～50歳代も10%前後、19歳以下はいない。
- 20歳代の転出理由は「住宅の都合（新築・借換えなど）」27.8%が最も多く、「就職・転職」「家族からの独立」がそれぞれ16.7%と続く。
- 30歳代の転出理由は「住宅の都合（新築・借換えなど）」30.4%が最も多く、「結婚」26.1%が続く。
- 40歳代以上の転出理由も「住宅の都合（新築・借換えなど）」が多い。

<家族の構成>

- 転出者のうち、一人世帯、家族の一部、家族全員（親と子など）がそれぞれ30%前後である。
- 一人世帯、家族の一部、家族全員（親と子など）ともに転出理由は「住宅の都合（新築・借換えなど）」が多い。

	合計	就職・転職	転勤	退職	学校の都合（進学・通学など）	子どもの学校の都合（進学・通学など）	住宅の都合（新築・借換えなど）	結婚	親や子どもとの同居・近居	家族からの独立	周囲の環境（交通・買い物・治安など）	地震・津波に対する不安	その他	無回答
全体	64	5	1	1	2	2	20	7	7	8	3	0	10	2
	100.0	7.8	1.6	1.6	3.1	3.1	31.3	10.9	10.9	12.5	4.7	0.0	15.6	3.1
男性	36	3	1	0	2	0	15	4	1	3	2	0	4	2
	100.0	8.3	2.8	0.0	5.6	0.0	41.7	11.1	2.8	8.3	5.6	0.0	11.1	5.6
女性	28	2	0	1	0	2	5	3	6	5	1	0	6	0
	100.0	7.1	0.0	3.6	0.0	7.1	17.9	10.7	21.4	17.9	3.6	0.0	21.4	0.0
19歳以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代	18	3	0	0	1	1	5	1	1	3	1	0	2	0
	100.0	16.7	0.0	0.0	5.6	5.6	27.8	5.6	5.6	16.7	5.6	0.0	11.1	0.0
30歳代	23	0	1	0	0	0	7	6	2	4	2	0	2	0
	100.0	0.0	4.3	0.0	0.0	0.0	30.4	26.1	8.7	17.4	8.7	0.0	8.7	0.0
40歳代	8	1	0	0	0	1	2	0	1	1	0	0	4	0
	100.0	12.5	0.0	0.0	0.0	12.5	25.0	0.0	12.5	12.5	0.0	0.0	50.0	0.0
50歳代	7	0	0	1	1	0	2	0	1	0	0	0	2	1
	100.0	0.0	0.0	14.3	14.3	0.0	28.6	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	28.6	14.3
60歳代	5	1	0	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0	0
	100.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
70歳代	3	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
家族全員（親と子など）	17	0	0	0	1	2	6	0	3	3	1	0	3	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	5.9	11.8	35.3	0.0	17.6	17.6	5.9	0.0	17.6	0.0
家族の一部	22	2	0	0	1	0	7	6	0	4	0	0	2	0
	100.0	9.1	0.0	0.0	4.5	0.0	31.8	27.3	0.0	18.2	0.0	0.0	9.1	0.0
夫婦	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
一人世帯	23	3	1	0	0	0	6	1	3	1	2	0	5	2
	100.0	13.0	4.3	0.0	0.0	0.0	26.1	4.3	13.0	4.3	8.7	0.0	21.7	8.7
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※網掛けは区分毎の第1位。 上段：人数（人）、下段：割合（%）

ウ 三島市

<全体>

- 転出理由は「住宅の都合（新築・借換えなど）」37.5%が最も多い。次いで「結婚」21.4%が続く。

<性別>

- 転出者のうち、男性が 66.1%である。
- 男性の転出理由は「住宅の都合（新築・借換えなど）」48.6%が最も多い。
- 女性の転出理由は「結婚」と「親や子どもとの同居・近居」がそれぞれ 26.3%で最も多い。

<年齢>

- 転出者のうち、20 歳代～30 歳代で 60.7%を占める。40 歳代、70 歳代も 15%前後みられる。
- 20 歳代の転出理由は「結婚」37.5%が最も多い。
- 30 歳代～40 歳代の転出理由は「住宅の都合（新築・借換えなど）」が最も多い。

<家族の構成>

- 転出者のうち、一人世帯、家族の一部、家族全員（親と子など）がそれぞれ 30%前後である。
- 家族全員（親と子など）の転出理由は「住宅の都合（新築・借換えなど）」68.4%が最も多い。
- 家族の一部の転出理由は「結婚」46.7%が最も多い。
- 一人世帯の転出理由は「住宅の都合（新築・借換えなど）」「結婚」「その他」がそれぞれ 21.4%と最も多い。

	合計	就職・転職	転勤	退職	学校の都合（進学・通学など）	子どもの学校の都合（進学・通学など）	住宅の都合（新築・借換えなど）	結婚	親や子どもとの同居・近居	家族からの独立	周囲の環境（交通・買い物・治安など）	地震・津波に対する不安	その他	無回答
全体	56	0	5	3	2	3	21	12	6	5	3	1	7	0
	100.0	0.0	8.9	5.4	3.6	5.4	37.5	21.4	10.7	8.9	5.4	1.8	12.5	0.0
男性	37	0	5	3	1	2	18	7	1	1	2	0	4	0
	100.0	0.0	13.5	8.1	2.7	5.4	48.6	18.9	2.7	2.7	5.4	0.0	10.8	0.0
女性	19	0	0	0	1	1	3	5	5	4	1	1	3	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	5.3	5.3	15.8	26.3	26.3	21.1	5.3	5.3	15.8	0.0
19歳以下	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代	16	0	3	1	0	2	2	6	1	2	1	1	1	0
	100.0	0.0	18.8	6.3	0.0	12.5	12.5	37.5	6.3	12.5	6.3	6.3	6.3	0.0
30歳代	18	0	1	1	1	1	9	5	2	2	2	0	2	0
	100.0	0.0	5.6	5.6	5.6	5.6	50.0	27.8	11.1	11.1	11.1	0.0	11.1	0.0
40歳代	9	0	0	0	0	0	5	1	1	0	0	0	2	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	55.6	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	22.2	0.0
50歳代	3	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0
	100.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
60歳代	3	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0
	100.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
70歳代	6	0	0	0	0	0	3	0	1	0	0	0	2	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
家族全員（親と子など）	19	0	0	1	0	2	13	1	4	0	1	0	1	0
	100.0	0.0	0.0	5.3	0.0	10.5	68.4	5.3	21.1	0.0	5.3	0.0	5.3	0.0
家族の一部	15	0	1	0	2	1	0	7	1	3	1	0	3	0
	100.0	0.0	6.7	0.0	13.3	6.7	0.0	46.7	6.7	20.0	6.7	0.0	20.0	0.0
夫婦	8	0	2	1	0	0	5	1	1	0	0	0	0	0
	100.0	0.0	25.0	12.5	0.0	0.0	62.5	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
一人世帯	14	0	2	1	0	0	3	3	0	2	1	1	3	0
	100.0	0.0	14.3	7.1	0.0	0.0	21.4	21.4	0.0	14.3	7.1	7.1	21.4	0.0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※網掛けは区分毎の第1位。 上段：人数（人）、下段：割合（％）

エ 長泉町

<全体>

- 転出理由は「住宅の都合（新築・借換えなど）」39.6%が最も多く、次いで「結婚」31.3%、「学校の都合（進学・通学など）」12.5%が続く。
- 他の3市町と比べて「結婚」「学校の都合（進学・通学など）」がやや多い。

<性別>

- 転出者のうち、男性が75.0%を占める。
- 男性の転出理由は「住宅の都合（新築・借換えなど）」41.7%が最も多い。
- 女性の転出理由は「結婚」58.6%が最も多い。

<年齢>

- 転出者のうち、20歳代～30歳代が64.6%を占める。19歳以下は14.9%、70歳代はいない。
- 19歳以下の転出理由は「学校の都合（進学・通学など）」が85.7%を占める。
- 20歳代の転出理由は「結婚」52.6%が最も多く、「住宅の都合（新築・借換えなど）」26.3%が続く。
- 30歳代の転出理由は「住宅の都合（新築・借換えなど）」と「結婚」がそれぞれ41.7%と最も多い。
- 40歳代以上の転出理由は「住宅の都合（新築・借換えなど）」が最も多い。

<家族の構成>

- 転出者のうち、一人世帯と家族の一部がそれぞれ33.3%と多い。
- 家族全員（親と子など）の転出理由は「住宅の都合（新築・借換えなど）」100.0%である。
- 家族の一部の転出理由は「結婚」37.5%が最も多く、次いで「家族からの独立」18.8%が続く。
- 一人世帯の転出理由は「住宅の都合（新築・借換えなど）」と「結婚」がそれぞれ37.5%と最も多い。

	合計	就職・転職	転勤	退職	学校の都合（進学・通学など）	子どもの学校の都合（進学・通学など）	住宅の都合（新築・借換えなど）	結婚	親や子どもとの同居・近居	家族からの独立	周囲の環境（交通・買い物・治安など）	地震・津波に対する不安	その他	無回答
全体	48	2	2	0	6	0	19	15	0	4	2	1	1	0
	100.0	4.2	4.2	0.0	12.5	0.0	39.6	31.3	0.0	8.3	4.2	2.1	2.1	0.0
男性	36	2	2	0	6	0	15	8	0	3	1	0	1	0
	100.0	5.6	5.6	0.0	16.7	0.0	41.7	22.2	0.0	8.3	2.8	0.0	2.8	0.0
女性	12	0	0	0	0	0	4	7	0	1	1	1	0	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	58.3	0.0	8.3	8.3	8.3	0.0	0.0
19歳以下	7	1	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	100.0	14.3	0.0	0.0	85.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代	19	1	0	0	0	0	5	10	0	2	0	0	1	0
	100.0	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0	26.3	52.6	0.0	10.5	0.0	0.0	5.3	0.0
30歳代	12	0	1	0	0	0	5	5	0	2	1	0	0	0
	100.0	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	41.7	41.7	0.0	16.7	8.3	0.0	0.0	0.0
40歳代	7	0	1	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0
	100.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	85.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
50歳代	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
60歳代	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	1	0	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
70歳代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
家族全員（親と子など）	9	0	0	0	0	0	9	0	0	0	1	1	0	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	11.1	11.1	0.0	0.0
家族の一部	16	0	0	0	5	0	2	6	0	3	0	0	0	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	31.3	0.0	12.5	37.5	0.0	18.8	0.0	0.0	0.0	0.0
夫婦	5	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	1	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0
一人世帯	16	2	1	0	1	0	6	6	0	1	1	0	0	0
	100.0	12.5	6.3	0.0	6.3	0.0	37.5	37.5	0.0	6.3	6.3	0.0	0.0	0.0
その他	2	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	100.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※網掛けは区分毎の第1位。 上段：人数（人）、下段：割合（%）

IV. 參考資料

まちづくりにあなたの声を！

裾野市市民意識調査ご協力のお願い

市民のみなさまには、日頃より裾野市政に格別のご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

裾野市では現在、将来都市像「みんなの元気と調和でつくる暮らし満足都市」の実現に向けて各種の施策を進めております。加えて、市独自の地方創生を進める「裾野市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を今年度策定いたします。

そこで、市民のみなさまの意見を広く取り入れ、市民と行政が一体となったまちづくりをめざして、「裾野市市民意識調査」を実施いたします。市内にお住いの20歳以上の方から無作為に抽出した3,000名の方にご協力をお願いしています。

なお、この調査は無記名でご回答いただきますので、個人が特定されることはありません。また、調査の結果はすべて統計的に処理し、他の目的には一切使用いたしません。

調査結果は広報紙、市のホームページに掲載し、諸施策推進のための基礎資料として活用させていただきます。

ご多忙中のところ、誠に恐れ入りますが、調査の趣旨をご理解いただき、みなさまの率直なご意見をお聞かせくださいますよう、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

ご記入後の調査票は同封の返信用封筒（切手は不要です）に入れて、7月31日（金）までにご投函くださいますよう、お願いいたします。

平成27年7月

裾野市長 高村 謙二

【記入上の注意】

- 1 あて名のご本人がお答えください。
- 2 ご回答は、設問ごとに（1つに○）（2つまで○）など指定の数だけ選んで、あてはまる番号に○をつけてください。
- 3 「その他（ ）」の欄や記述式の欄は直接ご記入ください。
- 4 調査についてご不明な点などがございましたら下記までお問い合わせください。

裾野市 企画政策課 担当 高梨、山下

電話 055-995-1804（直通）

電子メール kikaku@city.susono.shizuoka.jp

◆あなた自身のことについて◆

問1 あなたご自身について項目ごとにあてはまる番号を選んでください。

F1 性別（１つに○）	1 男性 2 女性
F2 年齢（１つに○） （7月1日現在）	1 20歳～24歳 7 50歳～54歳 2 25歳～29歳 8 55歳～59歳 3 30歳～34歳 9 60歳～64歳 4 35歳～39歳 10 65歳～69歳 5 40歳～44歳 11 70歳以上 6 45歳～49歳
F3 結婚の有無 （１つに○）	1 結婚している（事実婚を含む） 2 結婚したが、死別・離別した（今は独身） 3 結婚していない（独身）
F4 子どもの段階 （あてはまるものすべてに○） ※同居、別居を問いません	1 子どもはいない 2 小学校入学前 3 小学生 4 中学生 5 高校生 6 専門学校・短大・大学・大学院に在学 7 学校教育修了 8 上記以外
F5 世帯（１つに○） ※ 同居する家族	1 ひとり暮らし 2 夫婦のみ 3 親と子（２世代） 4 祖父母と親と子（３世代）※敷地内同居を含む 5 上記以外
F6 居住地区 （１つに○）	1 東地区 4 須山地区 2 西地区 5 深良地区 3 富岡地区

F7 居住歴 (1つに○) ※3、4の方は()に 数値を記入	1 生まれてからずっと住んでいる 2 生まれは市内だが、一時、転出したことがある 3 県内の他市町村から転入してきた () 歳頃 4 県外から転入してきた () 歳頃
F8 主な職業 (1つに○)	1 民間の会社員(正規雇用) 2 公務員・団体職員(正規雇用) 3 農林業等の自営業 4 商工・サービス業等の自営業 5 自由業(開業医、弁護士、芸術家等) 6 パート・アルバイト、派遣・契約社員、非常勤、嘱託 7 家事専業 8 学生 9 無職 10 上記以外
F9 住まいの種類 (1つに○)	1 一戸建て持ち家(家族名義を含む) 2 分譲マンション(家族名義を含む) 3 一戸建て借家 4 民間アパート、民間賃貸マンション 5 県営・市営・雇用促進住宅 6 社宅、公務員住宅、社員寮 7 間借り、住み込み 8 福祉施設、その他
F10 昨年のおおよその 世帯年収 (1つに○)	1 200万円未満 2 200～300万円台 3 400～500万円台 4 600～700万円台 5 800～900万円台 6 1,000万円以上 7 その他()

◆裾野市の市政について◆

問2 裾野市の政策全体についてどの程度満足していますか。（1つに○）

1 満足している	4 やや不満である
2 まあまあ満足している	5 不満である
3 ふつう	

問3 市の行政について、「満足している公共サービス」あるいは「今後、充実すべきだと思う公共サービス」はそれぞれ何ですか。

各分野から「ア 満足しているサービス」「イ 充実すべきサービス」をいくつでも選んで○をつけてください。（○はいくつでも）

		ア 満足 している サー ビス	イ 充実 すべ き サー ビス
	（記入例） 子育てへの支援	○	○
健康と福祉の 「すその」	1) 市民の健康づくりへの支援		
	2) 病院、かかりつけ医による医療		
	3) 救急や休日の医療		
	4) 子育てへの支援		
	5) 幼稚園・保育園による保育サービス		
	6) 高齢者への支援		
	7) 障がい者への支援		
	8) ひとり親や経済的に困っている人への支援		
	9) 地域で支え合う環境（福祉ボランティアなど）		
こころの豊か さを育む 「すその」	10) 小・中学校の教育		
	11) 生涯学習センター・公民館を拠点とする生涯学習活動		
	12) スポーツ教室やスポーツ施設の整備		
	13) 芸術文化の活動や図書館の整備		
安心と活力の ある「すその」	14) 地域のコミュニティ活動		
	15) ごみの分別収集、ごみの減量化やリサイクル		
	16) 環境汚染や騒音などへの対策		
	17) 省エネルギー、地球温暖化防止の取組み		
	18) 災害時の避難支援対策		

		ア 満足 している サー ビス	イ 充実 すべき サー ビス
	19) 交通安全指導、標識など交通安全対策		
	20) 火災に対する予防や消防体制		
	21) パトロール、防犯灯など防犯対策		
	22) オレオレ詐欺や訪問販売などに関する消費生活相談		
自然と暮らしやすさが調和した「すその」	23) バス路線や便数		
	24) 鉄道の列車本数、駅舎の使いやすさ		
	25) 幹線道路や生活道路の整備		
	26) 駅周辺の整備		
	27) 市街地の整備		
	28) 合併浄化槽の普及、下水道施設の整備		
	29) 緑の保全、まちの景観		
	30) 公園の整備		
	31) 住宅、住環境		
	32) 良質な水の安定供給		
未来へつなげる「すその」	33) 働く機会の確保		
	34) 企業誘致		
	35) 地場産業、地域産業の振興		
	36) 農業産品のおいしさ、安全性		
	37) 日用品、食料品など生活関連サービスの利便性、商店街の活気		
	38) 観光に関する情報、イベント、拠点整備		
市民と未来に開かれた「すその」	39) 国際交流、外国人が住みやすい地域づくり		
	40) 男女共同参画社会の推進		
	41) 行政窓口の利便性		
	42) 市政への市民参加、市民の声の反映		
	43) 広報紙・無線放送・インターネットなどでの市政情報の発信		

◆裾野市の取り組みについて◆

問4 裾野市が行っている取り組みや生活環境について、どのように感じていますか。（項目ごと1つに○）

	満足	まあ満足	ふつう	やや不満	不満
（記入例）○○○○○○○○○	1	②	3	4	5
1 市が行う「健康づくりプログラム」の充実感 （個人が設定する目標にチャレンジする健康マイレージ事業などを実施）	1	2	3	4	5
2 市が行う「高齢者に対する施策」の充実感 （高齢者医療費助成や敬老会を実施）	1	2	3	4	5
3 小・中学校の「学力の育成」や「人間の育成」についての取り組み （今年度から文化芸術やトップアスリートにふれ合う課外授業を開始）	1	2	3	4	5
4 市の行う「生涯学習プログラム」の充実度 （生涯学習センター講座や公民館講座を実施）	1	2	3	4	5
5 音楽・伝統文化・史跡や旧跡などの文化に触れる機会の多さ （文化センターでの公演の充実や深良用水特別展示の開始、富士山資料館の充実）	1	2	3	4	5
6 男女が共に活躍できる社会の実現 （ママフェスの開催や子育て世帯へのパパママスクールの実施）	1	2	3	4	5
7 空気や河川の水のきれいさ （住宅への太陽光発電パネルなどの環境機器導入を支援）	1	2	3	4	5
8 「悪臭のなさ」「散乱ごみの少なさ」 （地域の協力による資源ごみの回収などリサイクル活動を推進）	1	2	3	4	5
9 河川や水路の整備状況 （動植物が棲みやすい環境を確保する河川改修を推進）	1	2	3	4	5
10 公園などの身近な緑地の環境整備 （中央公園の管理や、運動公園でローラーすべり台の改修を実施）	1	2	3	4	5
11 安全・安心で快適な住環境の整備	1	2	3	4	5

	満足	まあ満足	ふつう	やや不満	不満
(住宅建設や耐震化・リフォームへの助成を実施)					
12 宅地の供給、駅周辺の整備や買物の利便性など生活しやすいまちづくり (都市計画道の開通により商業施設の立地を促進するなど生活利便性の向上を推進)	1	2	3	4	5
13 道路網の便利さや快適さと歩道の整備状況 (市街化区域道路整備計画に基づく生活道整備を推進)	1	2	3	4	5
14 まちなみや自然の景観の美しさ (H22 から景観行政団体になり、一定の建築物等への届出制度を導入)	1	2	3	4	5
15 鉄道やバスの便利さ (バスの継続運行、バス・タクシー券制度の導入や御殿場線の三島駅乗入れ拡充の働きかけを実施)	1	2	3	4	5
16 市の行う広報(広報紙・無線、報道など)の「わかりやすさ」や「情報の量」 (広報すその 4/15 号から紙面デザインを刷新するなど分かりやすい広報紙づくりを実施)	1	2	3	4	5
17 誰もが平等に情報を受け取ることができる(広報紙・無線、ホームページ、メールなど)環境 (広報紙の配布、無線放送に加え、まもメールやフェイスブックでの情報発信を実施)	1	2	3	4	5
18 市の効率的な行政運営 (厳しい財政状況の中でも、将来につながる事業枠を確保する行政運営を実施)	1	2	3	4	5
19 各種手続きなど行政サービスに対応する市職員の対応・信頼度 (市民課窓口手続きの改善を実施(H27)、全職員の接遇意識の向上を推進)	1	2	3	4	5

◆スポーツ活動について◆

問5 ご自分の健康についてどのように感じていますか。（1つに○）

- | | |
|----------|-------------|
| 1 大いに健康 | 3 あまり健康ではない |
| 2 まあまあ健康 | 4 わからない |

問6 ご自分の体力についてどのように感じていますか。（1つに○）

- | | |
|---------|---------|
| 1 自信がある | 3 不安がある |
| 2 普通である | 4 わからない |

問7 この1年間で、スポーツや運動（1回あたり30分程度以上、散歩・ストレッチ等の軽運動を含む）をどれくらいの頻度で行いましたか。（1つに○）

- | | |
|----------------|-------------------------------|
| 1 ほぼ毎日（週に6～7回） | 5 週に1回未満で、月に1回以上 |
| 2 週に4～5回 | 6 月に1回未満で、年に1回以上 |
| 3 週に2～3回 | 7 ほとんどスポーツや運動をしない
（年に1回未満） |
| 4 週に1回 | |

問7-2 問7で「1～4」に○をつけた方のみお答えください。

習慣的な運動によって、自分が健康を保つことができていると感じますか。（1つに○）

- | |
|--------|
| 1 感じる |
| 2 感じない |

問7-3 問7で「1～6」に○をつけた方のみお答えください。

ふだん利用するスポーツ施設は何ですか。（○はいくつでも）

- | | |
|----------------------|---|
| 1 市内の公共スポーツ施設 | |
| 2 市内小中高等学校の体育館・グラウンド | |
| 3 市内の民間スポーツ施設 | |
| 4 市外の公共スポーツ施設 | |
| 5 市外の民間スポーツ施設 | |
| 6 その他（ | ） |
| 7 スポーツ施設は利用していない | |

問8 スポーツを頻繁に行うために、障害となっているものは何ですか。（○はいくつでも）

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1 仕事などで忙しく時間がない | 7 お金がかかる |
| 2 病気、高齢など身体的な理由 | 8 はじめるきっかけがない |
| 3 場所や施設が近くにない | 9 スポーツに関する情報がない |
| 4 施設や教室の利用時間が合わない | 10 苦手、嫌い、興味がない |
| 5 一緒にする仲間がいない | 11 その他（ ） |
| 6 指導者がいない | 12 特に理由はない |

◆健康管理について◆

問9 あなたは、ほぼ毎年、健康診査※を受けていますか。（1つに○）

【健康診査とは】特定健康診査等の、治療以外で受ける定期的な診察や検査。

- | | |
|----------|------------------------|
| 1 受けている | 3 医療機関にかかっているので、受けていない |
| 2 受けていない | |

問10 ふだんの生活で健康診査の結果を意識していますか。（1つに○）

- | | |
|-------------|--------------|
| 1 いつも意識している | 3 あまり意識していない |
| 2 少し意識している | 4 意識していない |

問11 あなたは、健康診査の結果について、医師、保健師、管理栄養士などから説明を受けたり、アドバイスを受けたりしたことがありますか。（1つに○）

- | | |
|------------------|------------------|
| 1 アドバイスを受けたことがある | 2 アドバイスを受けたことはない |
|------------------|------------------|

◆住宅用火災警報器の設置について◆

問12 お住まいの住宅（共同住宅等含む）が建てられた時期はいつですか。（1つに○）

- | | | | |
|---|---------------|---|-------|
| 1 | 平成 18 年 5 月以前 | 3 | わからない |
| 2 | 平成 18 年 6 月以降 | | |

問13 平成21年6月1日より、お住まいの住宅（共同住宅等含む）では、「寝室」と「階段（寝室が2階以上の階にある場合）」に住宅用火災警報器の設置が義務付けられています。

あなたのお住まいには義務となる場所に住宅用火災警報器が設置されていますか。（1つに○）

- | | | | |
|---|----------|---|---------|
| 1 | 設置している | 3 | 設置していない |
| 2 | 一部設置している | | |

問13-2 問13で「1，2」に○をつけた方のみお答えください。

住宅用火災報知器設置後、何年が経過しましたか。（1つに○）

- | | |
|---|--------------|
| 1 | 5 年未満 |
| 2 | 5 年以上 7 年未満 |
| 3 | 7 年以上 10 年未満 |
| 4 | 10 年以上 |
| 5 | 不明 |

問13-3 問13で「3」に○をつけた方のみお答えください。

住宅用火災報知器を設置していない理由は何ですか。（1つに○）

- | | |
|---|------------------------------------|
| 1 | 設置が義務化されていることを知らなかった |
| 2 | 設置費用負担が大きい |
| 3 | 自分で設置することは難しい |
| 4 | 購入方法がわからない |
| 5 | 借家のため自分で設置してよいのかわからない（管理者が付けてくれない） |
| 6 | その他（ ） |

◆スマートフォン（スマホ）を活用した新しいサービスについて◆

1	使用している	2	使用していない
---	--------	---	---------

1	アンドロイド
2	iOS（アイフォーン）
3	Windows
4	分からない
5	その他（ ）

1	ホームページ閲覧
2	メール
3	ゲーム
4	フェイスブック、ツイッターなどのSNS
5	電車時刻表など生活情報を提供するアプリ
6	その他（ ）

--

◆裾野市での暮らしについて◆

問15 あなたが裾野市で暮らしている最も大きな理由は何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 出身地だから・親がいるから | 7 自然や環境が良いから |
| 2 仕事があるから | 8 災害がないから・少ないから |
| 3 夫(妻)が転勤してきたから | 9 結婚を機に転入したから |
| 4 職場に近いから | 10 離職したから |
| 5 子どもの教育に良いから | 11 その他 () |
| 6 生活に便利だから | |

問16 あなたは、これからも裾野市に住みつづけたいと思いますか。(1つに○)

- | | |
|-------------------|------------------|
| 1 ずっと住みつづけたい | 3 いずれは他の地域に転出したい |
| 2 どちらかといえば住みつづけたい | 4 他の地域に転出したい |

問16-2 前問で「3～4」に○をつけた方のみお答えください。

その主な理由は何ですか。(主なもの3つまでに○)

- 1 出身地に帰って親と暮らすため
- 2 自分や家族の仕事(就職、転職、転勤)のため
- 3 離職のため
- 4 結婚のため
- 5 子どもが生まれるため
- 6 子どもが小・中・高等学校・専門学校・大学等に進学するため
- 7 自分自身が高等学校・専門学校・大学等に進学するため
- 8 子育てが終わったため
- 9 家が手狭になったため
- 10 職場の近くに住みたいため
- 11 買い物が不便なため
- 12 バスや鉄道などの公共交通が不便なため
- 13 病床のある医療施設が充実しているところに住むため
- 14 妊婦中期から出産数日後までの医療体制や小児医療対策が充実しているところに住むため
- 15 老後生活がひとり暮らしとなるため、高齢者福祉施設などに入所するため
- 16 高齢者福祉施設に通所しやすいところに住むため
- 17 自然災害(土砂災害、火山災害、震災など)の不安があるため
- 18 人間関係や地域のつきあいがわずらわしいため
- 19 その他 ()

問17 市の人口増加に向けて重要な取り組みは何だと思いますか。（主なもの2つまでに○）

- 1 若い男女が会う機会の増加
- 2 若い夫婦が結婚生活を送るための住宅や経済的な支援
- 3 働く場の確保
- 4 子どもを産み、育てやすい環境
- 5 子どもの教育環境
- 6 住む場所（住宅・宅地）の確保
- 7 バス・鉄道の便、買い物のしやすさ
- 8 安心・安全な環境（医療、福祉、防災、防犯など）
- 9 市民と行政の協働による地域活性化
- 10 U I J ターン※や転入してくる人への支援
- 11 転入者交流支援体制（移住コーディネーター等）の整備
- 12 転入促進に向けた情報発信
- 13 転入後の暮らしに必要な情報発信、交流
- 14 転入相談・体験機会の創出
- 15 その他（ ）

【U I J ターンとは】

Uターンは地方から都会に移住し、生まれ故郷の地方に戻る。Iターンは生まれ故郷とは別の地方へ移住すること。Jターンは地方から都会に移住し、生まれ故郷に近い地方に戻る。

◆家族の希望モデル（お父さん、お母さん、子ども３人）を実現するために◆
【20～49 歳の方におうかがいします】

【結婚していない方、お子さんがいない方も、できる限り、お答えください。】

裾野市は県内トップクラスの出生率ですが、昨年度の市の調査では、「理想の子どもの人数（平均 2.55人）」が、「実際に持つ予定の子どもの人数（平均 2.29人）」をやや上回り、希望と現実とにギャップが見られます。

この「家族の希望モデル（お父さん、お母さん、子ども3人）」を実現するための住環境についておうかがいします。

問18 【20～49歳の方】「家族の希望モデル（お父さん、お母さん、子ども3人）」を実現する場合、宅地（敷地）の広さはどのくらいを希望しますか。（1つに○）

1	60 坪未満	4	80～100 坪
2	60～70 坪	5	100 坪以上
3	70～80 坪		

問19 【20～49歳の方】「家族の希望モデル（お父さん、お母さん、子ども3人）」を実現する場合、住居の広さはどのくらいを希望しますか。（1つに○）

1	2 L D K	3	4 L D K
2	3 L D K	4	5 L D K 以上

【L D Kとは】

Lはリビング（居間）、Dはダイニング（食事室）、Kはキッチン（台所）の意味で、L D Kの前に掲げられる数値は個室の数を表しています。例えば2 L D Kとは、2つの個室とL D Kがある間取りを表します。

問20 【20～49歳の方】「家族の希望モデル（お父さん、お母さん、子ども3人）」を実現する場合、経済的に負担を感じることは何ですか（何だと思えますか）。（主なもの2つまでに○）

1	家賃	5	医療費
2	住宅ローン	6	塾、習い事にかかる費用
3	保育料	7	その他（ ）
4	学費・授業料		

問21 【20～49歳の方】「家族の希望モデル（お父さん、お母さん、子ども3人）」を実現するために何が重要だと思いますか。（主なものを2つまでに○）

- 1 不妊治療への支援
- 2 小児医療体制の充実
- 3 出産、子育て支援の充実
- 4 教育の充実
- 5 住宅の購入や建て替えへの支援
- 6 夫の育児への協力を呼びかける運動の実施
- 7 育児や介護中でも働きやすい職場づくり
- 8 育児休業中の給与保障
- 9 育児休業取得後の職場復帰の保障
- 10 出産後・子育て後の女性の再就職支援
- 11 その他（ ）

◆子育て環境について◆

【中学生までのお子さまがいらっしゃる方におうかがいします】

【結婚していない方、お子さんがいない方も、できる限り、お答えください。】

問22 【中学生までのお子さまがいらっしゃる方】次の項目は、子育てをする場所として裾野市にお住まいの理由に当てはまりますか。（項目ごと1つに○）

		当てはまる	当てはまらない
1	自然があり子育てに適した環境だから		
2	子育て支援に関するサービスが充実しているから		
3	職場への通勤に便利だから		
4	社宅もしくは持ち家があるから		
5	近くにいる祖父母や友人などから育児協力が得られるから		
6	元々、（父もしくは母が）裾野市の出身だから		
7	医療体制（小児科、救急医療等）が充実しているから		

問23 【中学生までのお子さまがいらっしゃる方】次に示す裾野市内での取組み等の中で、裾野市で子育てをするにあたり魅力的だと感じますか。(項目ごとに1つ○)

		当てはまる	当てはまらない
1	妊娠に関わる費用助成（不妊治療費・妊婦健康診査費用）		
2	母子健康手帳交付時の個別面接		
3	妊婦を対象とした教室（パパママスクール）		
4	乳幼児・子ども医療費助成		
5	生後4か月までの赤ちゃん訪問		
6	子育てに関する相談や教室（乳幼児健康相談、育児教室等）		
7	予防接種の費用助成		
8	乳児健康診査の費用助成（4か月・10か月児健康診査）		
9	保育園での一時預かり		
10	私立幼稚園就園奨励費補助		
11	放課後児童室での児童の預かり		
12	母親クラブの活動		

問24 【中学生までのお子さまがいらっしゃる方】近所や友人等との付き合いについてお聞きます。（○は一つ）

① 近所との付き合いの程度

1	生活面での協力がある	3	あいさつ程度の最小限の付き合い
2	日常的に立ち話をする程度	4	全くしていない

②近所で付き合いのある人の数

1	かなり多くの人と面識・交流がある	3	ごく少数の人とだけ面識・交流がある
2	ある程度の人と面識・交流がある	4	隣の人が誰かも知らない

③友人・知人との職場外でのつぎあいの頻度

1	日常的にある	3	ときどきある
2	ある程度頻繁にある	4	全くない

◆まちづくりへのご意見・ご提案について【全員におうかがいします】◆

問25 最後に、今後の裾野市に期待することについて、ご意見・ご提案をお聴かせください。（自由記入）

[illegible]

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

裾野市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定のための 市民意識調査

裾野市市民意識調査ご協力のお願い

市民のみなさまには、日頃より裾野市政に格別のご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

裾野市では「裾野市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を今年度策定いたします。

そこで、市民のみなさまの意見を広く取り入れ、市民と行政が一体となった市独自の地方創生を進めるため、「裾野市市民意識調査」を実施いたします。この調査は、最近3年間に住所の移動があった、市内にお住いの20歳以上の方から無作為に抽出した400名の方にご協力をお願いしています。

なお、この調査は無記名でご回答いただきますので、個人が特定されることはありません。また、調査票はすべて統計的に処理し、他の目的には一切使用いたしません。統計的処理後の調査結果は諸施策推進のための基礎資料として活用させていただきます。

ご多忙中のところ、誠に恐れ入りますが、調査の趣旨をご理解いただき、みなさまの率直なご意見をお聞かせくださいますよう、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

ご記入後の調査票は同封の返信用封筒（切手は不要です）に入れて、**7月31日（金）**までにご投函くださいますよう、お願いいたします。

平成27年7月

裾野市長 高村 謙二

【記入上の注意】

- 1 あて名のご本人がお答えください。
- 2 ご回答は、設問ごとに（1つに○）（2つまで○）など指定の数だけ選んで、あてはまる番号に○をつけてください。
- 3 「その他（ ）」の欄や記述式の欄は直接ご記入ください。
- 4 調査についてご不明な点などがございましたら下記までお問い合わせください。

裾野市 企画政策課 担当 高梨、山下

電 話 055-995-1804（直通）

電子メール kikaku@city.susono.shizuoka.jp

◆あなた自身のことについて◆

問1 あなたご自身について項目ごとにあてはまる番号を選んでください。

F1 性別（１つに○）	3 男性 4 女性
F2 年齢（１つに○） （7月1日現在）	12 20歳～24歳 18 50歳～54歳 13 25歳～29歳 19 55歳～59歳 14 30歳～34歳 20 60歳～64歳 15 35歳～39歳 21 65歳～69歳 16 40歳～44歳 22 70歳以上 17 45歳～49歳
F3 結婚の有無 （１つに○）	4 結婚している（事実婚を含む） 5 結婚したが、死別・離別した（今は独身） 6 結婚していない（独身）
F4 子どもの段階 （あてはまるものすべてに○） ※ 同居、別居を問いません	9 子どもはいない 14 専門学校・短大・大学・大学院に在学 10 小学校入学前 11 小学生 15 学校教育修了 12 中学生 16 上記以外 13 高校生
F5 世帯（１つに○） ※ 同居する家族	6 ひとり暮らし 7 夫婦のみ 8 親と子（2世代） 9 祖父母と親と子（3世代）※敷地内同居を含む 10 上記以外
F6 居住地区 （１つに○）	6 東地区 9 須山地区 7 西地区 10 深良地区 8 富岡地区

◆現在の住所地に移動することについて◆

問2 現在の住所地に移動する直前の居住地はどこでしたか。（1つに○。（）に記入）

- 1 静岡県東部地域：富士市、沼津市、三島市、御殿場市、富士宮市、清水町、長泉町、小山町
- 2 静岡県伊豆地域：熱海市、伊東市、下田市、伊豆市、伊豆の国市、東伊豆町、西伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町、函南町
- 3 静岡県中部地域：静岡市、島田市、焼津市、藤枝市、牧之原市、吉田町、川根本町
- 4 静岡県西部地域：浜松市、磐田市、掛川市、袋井市、湖西市、御前崎市、菊川市、森町
- 5 東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県
- 6 愛知県
- 7 裾野市内 → 地名（ ） 例：（佐野）（茶畑）
- 8 その他（ ）

問3 現在の住所地に移動する際、最も比較したまちはどこですか。（1つに○。（）に記入）

- 1 静岡県内 → （ ）市・町
- 2 静岡県外 → （ ）都道府県（ ）市・町・村
- 3 裾野市内 → 地名（ ） 例：（佐野）（茶畑）
- 4 特にない

問4 移動の理由は何ですか。（○はいくつでも）

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 出身地だから・親がいるから | 7 自然や環境が良いから |
| 2 仕事があるから | 8 災害がないから・少ないから |
| 3 夫（妻）が転勤してきたから | 9 結婚を機に転入したから |
| 4 職場に近いから | 10 離職したから |
| 5 子どもの教育に良いから | 11 その他（ ） |
| 6 生活に便利だから | |

問5 移動前に裾野市の情報をどこから入手しましたか。(主なもの2つまでに○)

1	市のホームページ	4	会社
2	市の相談窓口	5	不動産会社
3	家族・友人・知人	6	その他 ()

問6 現在の住所地に移動する際に重視した点は何ですか。(主なもの3つまでに○)

1	仕事	9	交通の便の良さ
2	自然環境	10	災害の少なさ・安全な場所
3	子どもの教育・保育の充実度	11	転入者・移住者への助成・支援
4	医療・福祉の充実度	12	まちの知名度
5	物価の安さ	13	これまでの馴染みの深さ
6	土地・住居の広さ・価格	14	実家がある・近いこと
7	職場への近さ	15	近所のつきあい、地域活動の活発さ
8	買い物をする店の多さ	16	その他 ()

問7 現在の住所地に移動する際に、裾野市の助成制度は利用しましたか。(○はいくつでも)

1	市内業者を利用した新築またはリフォーム工事
2	住宅建設資金・リフォーム資金の貸付
3	建築物の耐震化へ向けた補助制度「プロジェクトTOUKAI（東海・倒壊）-0（ゼロ）」
4	住宅用太陽光発電システム・太陽熱高度利用システム・電気自動車充電器・家庭用エネルギー管理システム(HEMS)・燃料電池システムの設置
5	生ごみ処理機器の購入
6	合併浄化槽の設置や切替え
7	ブロック塀の撤去または改善
8	利用していない

問8 裾野市の特色を活かし、転入や移住する人を増やすためにはどのような取り組みをしたらよいと思いますか。（〇はいくつでも）

- 1 空き家を有効した住宅提供支援
- 2 妊婦中期から出産数日後までの医療体制、小児医療施設の整備
- 3 公共交通ネットワークの形成
- 4 日常的な生活施設（医療・教育・商業施設）に歩いて行けるコンパクトな街づくり
- 5 裾野市の自然や地場産品の良さを体験できる場や機会のPR
- 6 裾野市の住まいの情報発信
- 7 多様な暮らし方（ライフスタイル）を提供できる居住環境の整備
- 8 自然エネルギーを活用したエコタウンづくり
- 9 その他（具体的に ）

◆ 裾野市の暮らしについて ◆

問9 実際に暮らしてみて、住みやすいと感じますか。（1つに○）

- | | |
|-----------|-----------|
| 1 住みやすい | 4 やや住みにくい |
| 2 まあ住みやすい | 5 住みにくい |
| 3 ふつう | |

問10 あなたが住みやすいと感じる点は何ですか。（○はいくつでも）

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 1 公園や自然環境がよい | 8 福祉サービスが充実 |
| 2 職場が近い | 9 バスの便が良い |
| 3 日常の買い物に困らない | 10 鉄道の便が良い |
| 4 まちににぎわいがある | 11 道路が整備されている |
| 5 教育環境がよい | 12 防災、防犯、交通安全の面で安心 |
| 6 出産や子育てへの支援が充実 | 13 近所のつきあい、地域活動が活発 |
| 7 医療が充実 | 14 その他（ ） |

問11 逆に、住みにくいと感じる点は何ですか。（○はいくつでも）

- 1 公園や自然環境がよくない
- 2 職場が遠い
- 3 日常の買い物に困る
- 4 まちににぎわいが少ない
- 5 教育環境がよくない
- 6 出産や子育てへの支援が充実していない
- 7 医療が充実していない
- 8 福祉サービスが充実していない
- 9 バスの便が悪い
- 10 鉄道の便が悪い
- 11 道路が整備されていない
- 12 防災、防犯、交通安全の面で不安
- 13 近所のつきあい、地域活動が少ない
- 14 その他（ ）

問12 転出超過によって人口が減少している裾野市では、人口減少に歯止めをかけるためにどのような取り組みに力を入れたらよいと思いますか。（主なもの2つまでに○）

- | | |
|----|----------------------------|
| 1 | 若い男女が出会う機会の増加 |
| 2 | 若い夫婦が結婚生活を送るための住宅や経済的な支援 |
| 3 | 働く場の確保 |
| 4 | 子どもを産み、育てやすい環境 |
| 5 | 子どもの教育環境 |
| 6 | 住む場所（住宅・宅地）の確保 |
| 7 | バス・鉄道の便、買い物のしやすさ |
| 8 | 安心・安全な環境の確保（医療、福祉、防災、防犯など） |
| 9 | 市民と行政の協働による地域活性化 |
| 10 | ＵＩＪターン※や転入してくる人への支援 |
| 11 | 転入者交流支援体制（移住コーディネーター等）の整備 |
| 12 | 転入促進に向けた情報発信 |
| 13 | 転入後の暮らしに必要な情報発信、交流 |
| 14 | 転入相談・体験機会の創出 |
| 15 | その他（ |

【ＵＩＪターンとは】

Ｕターンは地方から都会に移住し、生まれ故郷の地方に戻る。Ｉターンは生まれ故郷とは別の地方へ移住すること。Ｊターンは地方から都会に移住し、生まれ故郷に近い地方に戻る。

裾野市は県内トップクラスの出生率ですが、昨年度の市の調査では、「理想の子ども的人数（平均 2.55人）」が、「実際に持つ予定の子ども的人数（平均 2.29人）」をやや上回り、希望と現実とにギャップが見られます。

「家族の希望モデル（お父さん、お母さん、子ども3人）」を実現するための住環境についておうかがいします。

問13 「家族の希望モデル（お父さん、お母さん、子ども3人）」を実現する場合、宅地（敷地）の広さはどのくらいを希望しますか。（1つに○）

1	60 坪未満	3	70～80 坪	5	100 坪以上
2	60～70 坪	4	80～100 坪		

問14 「家族の希望モデル（お父さん、お母さん、子ども3人）」を実現する場合、住居の広さはどのくらいを希望しますか。（1つに○）

1	2 L D K	3	4 L D K
2	3 L D K	4	5 L D K 以上

【L D Kとは】

Lはリビング（居間）、Dはダイニング（食事室）、Kはキッチン（台所）の意味で、L D Kの前に掲げられる数値は個室の数を表しています。例えば2 L D Kとは、2つの個室とL D Kがある間取りを表します。

問15 「家族の希望モデル（お父さん、お母さん、子ども3人）」を実現するために何が必要だと思いませんか。（主なもの2つまでに○）

1	不妊治療への支援	7	育児や介護中でも働きやすい職場づくり
2	小児医療体制の充実	8	育児休業中の給与保障
3	出産、子育て支援の充実	9	育児休業取得後の職場復帰の保障
4	教育の充実	10	出産後・子育て後の女性の再就職支援
5	住宅の購入や建て替えへの支援	11	その他
6	夫の育児への協力を呼びかける運動の実施		()

問16 あなたは、これからも裾野市に住みつづけたいと思いますか。（1つに○）

- | | | | |
|---|---------------------|---|----------------|
| 1 | ずっと住みつづけたい | 3 | いずれは他の地域に転出したい |
| 2 | どちらかといえば住みつづけた
い | 4 | 他の地域に転出したい |

付問 前問で「3～4」に○をつけた方のみお答えください。

その主な理由は何ですか。（主なもの3つまでに○）

- 1 出身地に帰って親と暮らすため
- 2 自分や家族の仕事（就職、転職、転勤）のため
- 3 離職のため
- 4 結婚のため
- 5 子どもが生まれるため
- 6 子どもが小・中・高等学校・専門学校・大学等に進学するため
- 7 自分自身が高等学校・専門学校・大学等に進学するため
- 8 子育てが終わったため
- 9 家が手狭になったため
- 10 職場の近くに住みたいため
- 11 買い物が不便なため
- 12 バスや鉄道などの公共交通が不便なため
- 13 病床のある医療施設が充実しているところに住むため
- 14 妊婦中期から出産数日後までの医療体制や小児医療対策が充実しているところに住むため
- 15 老後生活がひとり暮らしとなるため、高齢者福祉施設などに入所するため
- 16 高齢者福祉施設に通所しやすいところに住むため
- 17 自然災害（土砂災害、火山災害、震災など）の不安があるため
- 18 人間関係や地域のつきあいがわずらわしいため
- 19 その他（ ）

◆まちづくりへのご意見・ご提案について◆

問17 最後に、今後裾野市に期待することについて、ご意見・ご提案をお聴かせください。（自由記入）

[illegible]

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

裾野市企画部企画政策課

〒410-1192 静岡県裾野市佐野 1059

Tel.055-995-1804 Fax.055-995-1861

E-mail:kikaku@city.susono.shizuoka.jp

URL: <http://www.city.susono.shizuoka.jp/ma/si/>

